金沢市文化財紀要279

石川県 金沢市

畝田・寺中遺跡Ⅶ

－木曳野遺跡群Ⅴ－

平成24年3月
（2012年）

金　　沢　　市
（金沢市埋蔵文化財センター）

金沢市文化財紀要二七九

畝田・寺中遺跡Ⅶ
－木曳野遺跡群Ⅴ－

2012 金沢市

石川県 金沢市

畝田・寺中遺跡Ⅶ

－木曳野遺跡群Ⅴ－

平成２４年３月

（２０１２年）

金　　沢　　市

（金沢市埋蔵文化財センター）

例　　言

1．本書は、石川県金沢市寺中町・畝田西４丁目・桂町に所在する事業名称木曳野遺跡群（寺中Ｂ遺跡、桂町南遺跡、畝田・寺中遺跡）の発掘調査報告のうち、平成15年に実施した畝田・寺中遺跡の調査の一部について報告するものである。

2．木曳野遺跡群は金沢市区画整理事業に伴い、金沢市木曳野土地区画整理組合の依頼で、金沢市埋蔵文化財センターが調査を実施した。発掘調査期間は平成14年度から平成16年度である。

3．発掘調査に関する事務は木曳野土地区画整理組合と金沢市が委託契約を締結し、予算の執行、法規関係の事務は金沢市埋蔵文化財センターが行った。

4．発掘調査にあたっては金沢市埋蔵文化財調査委員会（委員長　橋本澄夫氏、委員　垣田修児氏、滋井真氏、谷内尾晋司氏、敬称略・50音順）の指導の下で、出越茂和、谷口宗治、新出敬子、庄田知充、向井裕知が担当した。本書の執筆・編集は新出が、遺物の写真撮影は景山和也が行った。

5．本書の指示は以下のとおりである。

①方位は全て座標北で国土座標第Ⅶ系に準拠する。水平基準は海抜高で単位は（m）である。

②遺構図、遺物図の縮尺は原則としてスケールを付した。

③図化については株式会社太陽測地社、株式会社セビアスの協力を得た。

④遺物実測図の凡例は下記のとおりである。

○遺構略記号は、SA：柵列　SD：溝　SE：井戸　SK：土坑　P：ピット　ST：竪穴状遺構　SX：その他遺構

○図版内の遺物番号は観察表および巻末の写真図版のそれと一致する。

○土器実測図の断面が黒色のものは須恵器を示し、その他のものは白抜きで示した。また、実測図内外面の目の粗い網掛けは黒色処理を、細かいものは赤彩処理を示している。

○遺物観察表については以下のとおり。

・計測値の単位は（㎜）（g）を最小単位としている。

・「番号」欄は遺物の個別番号を現し、図版内に示した遺物番号と一致する。

・「器種」欄には土器の材質および種類を判明する範囲で記載している。

・「遺存度」欄には復元する際に利用した部位とその遺存率を記してある。

・「実測番号」欄は遺物図の実測者の通し番号で、保管する遺物・実測図のそれと一致する。

6．発掘調査で出土した遺物、作成した図面、写真台帳等はすべて金沢市埋蔵文化財センターで一括保存している。

畝田・寺中遺跡Ⅶ　目次

第１章　　調査に至る経緯と経過……1
　　第１節　調査に至る経緯
　　第２節　調査の経過

第２章　　調査の概要……3
　　第１節　調査区の概要
　　第２節　遺構と遺物
　　１）土坑
　　２）井戸
　　３）溝
　　４）ピット
　　５）その他の遺構、包含層

第３章　　総括……54
　　第１節　３区についてまとめ
　　第２節　墨書土器について

遺物観察表……56

写真図版

報告書抄録

第１章　報告の経緯

第１節　はじめに

本報告書は木曳野土地区画整理事業に伴う発掘調査の成果を報告するものである。調査は平成14年～平成16年までの３カ年を要し、調査面積は約２万３千㎡に及ぶ。調査対象となった遺跡は寺中Ｂ遺跡、畝田・寺中遺跡、桂・寺中遺跡、桂町南遺跡の４遺跡である。これらを総称し木曳野遺跡群としている。

これまでに４冊の報告書を刊行しており、今回は第５分冊目となる。これまでに刊行した報告書については下記のとおりである。本書では2006年３月に刊行された金沢市文化財紀要231　『寺中Ｂ遺跡Ⅵ　桂町南遺跡Ⅰ　畝田・寺中遺跡Ⅲ　木曳野遺跡群Ⅰ』を第１分冊とし、以下金沢市文化財紀要239を第２分冊、金沢市文化財紀要249を第３分冊、金沢市文化財紀要259を第４分冊と呼ぶ。

なお、遺跡確認調査および詳細な調査に至る経緯と経過については第１分冊を参照していただきたい。また、遺構については第１分冊で報告済であり今回も報告済の遺構番号を使用するが、追加や変更のあるものについてはその都度、文中で表記する。

第１表　木曳野遺跡群における発掘調査と報告書刊行の経緯

年次	遺跡名	発掘期間	原因	面積	担当者	報告書	備考
平成14年度 (2002年)	寺中Ｂ遺跡 桂・寺中遺跡	2002．6．3 ～ 2003．3．31	区画整理	約6,600㎡	谷口(宗)	H18．3刊行 H19．3刊行	報告完了
平成15年度 (2003年)	畝田・寺中遺跡 桂町南遺跡	2003．6．2 ～ 2003.11.28	区画整理	約8,900㎡	出越 谷口(宗) 新出 向井	H18．3刊行 H20．3刊行 H22．3刊行 本書	桂町南のみ報告完了
平成16年度 (2004年)	畝田・寺中遺跡 桂町南遺跡	2004．5．2 ～ 2004.10.29	区画整理	約7,500㎡	谷口(宗) 新出 庄田	H18．3刊行 H20．3刊行	桂町南のみ報告完了

(刊行済の報告書)

『寺中Ｂ遺跡Ⅵ 桂町南遺跡Ⅰ 畝田･寺中遺跡Ⅲ 木曳野遺跡群Ⅰ』　金沢市文化財紀要231 金沢市 2006年
『寺中Ｂ遺跡Ⅶ 畝田･寺中遺跡Ⅳ 木曳野遺跡群Ⅱ』　金沢市文化財紀要239 金沢市 2007年
『桂町南遺跡Ⅱ 畝田･寺中遺跡Ⅴ 木曳野遺跡群Ⅲ』　金沢市文化財紀要249 金沢市 2008年
『畝田･寺中遺跡Ⅵ 木曳野遺跡群Ⅳ』　金沢市文化財紀要259 金沢市 2010年

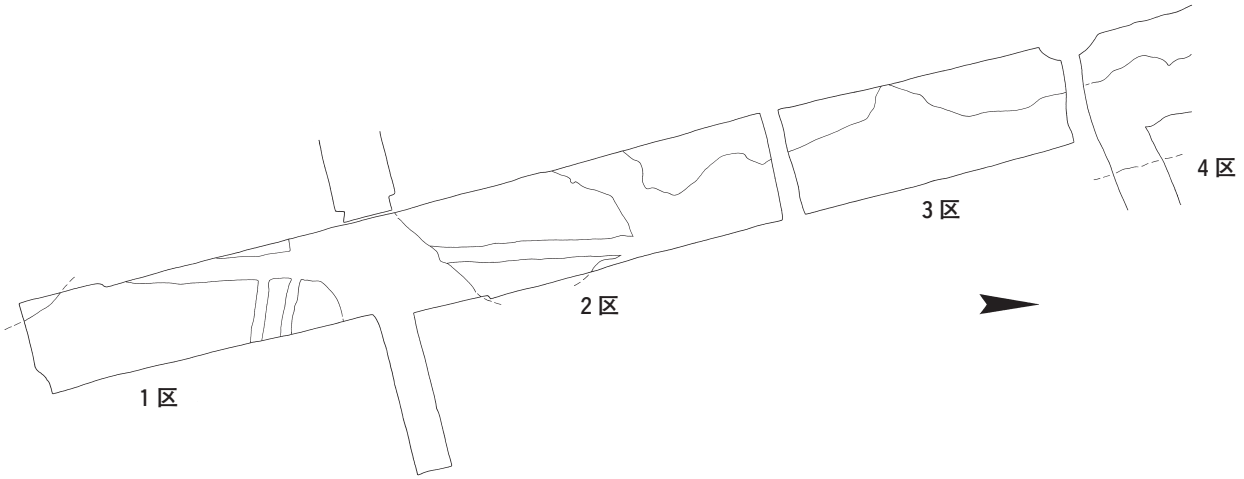
第２節　報告範囲について

今回は主に平成15年度に調査を行った、畝田・寺中遺跡の２区の一部および３区を報告する。（第２図）

２区および３区とは、木曳野土地区画整理地内の南北に走る都市計画道路を南から北にかけて主幹線１～４区と便宜上区分した調査区の一部分のことである。第１分冊で報告した航空測量図面では２区は図版№46・47・52・53・57・58・64で３区は図版№24・35・40・46に該当する。

掲載内容としては第４分冊で報告しきれなかった墨書土器（２区と３区の一部、１区および４区出土の墨書土器も含む）と、３区の調査成果が主となる。

第１図　調査範囲図



第２図　事業位置図

第２章　遺構と遺物

第１節　建物関連遺構

３区では掘立柱建物の柱穴と考えられる遺構が３棟みつかっているが、いずれも調査区の端にあるため建物となるか判明しなかった。そのためSB（掘立柱建物）とせずSA（柵列）として報告する。

ST201（遺構図第１分冊 P110図版№35、第３図）

３区中央西端で検出した。規模が小さいため竪穴建物ではない可能性があるため竪穴状遺構とした。平面形は方形で、規模は２ｍ×２ｍである。方向は東辺で見ると北に対して約15度西に傾く。遺構面からの深さは11㎝と浅い。

出土遺物は図化できなかったが、古墳時代初頭と考えられる壺・甕類の細片が多数出土している。

SA510（遺構図第１分冊 P110図版№35、第３図）

３区中央西端で検出した。規模は南北２間ある。柱間距離は南北が約2.3mである。方向は北に対して約14度西に傾いている。柱穴は遺構番号が付けられていないため北からPA、PB、P215aとする。PAは長径約114㎝、短径約89㎝、深さ約50㎝で平面形は不定形を呈する。礎板が出土した。PBは長径約92㎝、短径約68㎝、深さ約32㎝で平面形は不定形を呈する。P215aは長径約80㎝、短径約68㎝、深さ約43㎝で平面形は不定形を呈する。出土遺物は土師器細片が４点出土した。

SA511（遺構図第１分冊 P110図版№35、第３図）

３区中央西端で検出した。規模は南北１間、東西２間ある。柱間距離は南北が約2.9mで東西が約1.9ｍである。方向は北に対して約45度東に傾いている。柱穴は遺構番号がないため、北からPA、PC、PDとし、西端で検出した東西方向の柱穴はPEとする。PAはSA510と共有する。PCは長径約61㎝、短径約45㎝、深さ約32㎝で平面形は不定形を呈する。礎板が出土している。PDは長径が約49㎝、短径が約38㎝、深さが約47㎝で平面形は楕円形を呈する。PEは調査区外に柱穴がかかるので平面形は不明である。検出した範囲では長径約41㎝、短径約35㎝、深さ約37㎝である。出土遺物はない。

SA512（遺構図第１分冊 P110図版№35、第３図）

３区中央西端で検出した。規模は南北２間ある。柱間距離は南北が約２ｍで方向は北に対して約37度西に傾く。柱穴は北からSK223、P212a、P 211とする。SK223は長径が約72㎝、短径が約70㎝、深さが約67㎝で平面形は不定形である。出土遺物はない。P212aは長径が約70㎝、短径が約69㎝、深さが約65㎝で平面形はほぼ正円形である。出土遺物は土師器の甕の胴部と思われる細片が１点と、判別不可能な土師器片が３点出土している。P 211は長径が約75㎝、短径が約70㎝、深さが約57㎝で平面形は楕円形である。出土遺物はない。

第２節　井戸

SE201（遺構図第１分冊 P120図版№40、第４図、遺物実測図第７・38図）

３区の中央西よりで検出した。平面形は楕円形を呈する。規模は長径264㎝、短径226㎝、深さ103㎝である。当初SK202として掘削を進めていたが、SE201と変更した。断面図は作図用壁面が冠水により崩落

したため作成できなかった。井戸枠は検出していない。出土遺物は、5のロクロ製土師器甕と6の非ロクロ製土師器甕、７・８の須恵器坏である。この他、長頸瓶の頸部や土師器細片、464と465の端部をとがらせた加工をしてある棒状木製品が出土している。7は古墳時代の有蓋坏、8は平安時代頃の須恵器か。

SE202（遺構図第１分冊 P110図版№35、第４図、遺物実測図第７図）

３区の中央で検出した。平面形は楕円形を呈する。規模は長径292㎝、短径246㎝、深さ116㎝である。井戸枠は検出していない。出土遺物は、９の珠洲焼甕で13世紀前半頃のものか。10は鞴の羽口である。この他、弥生時代末頃と思われる器台片などの土師器片が出土している。

SE203（遺構図第１分冊 P110図版№35、第４図、遺物実測図第７・８・32・33図）

3区北側中央で検出した。中世の溝であるSD222で壊されており、井戸の底のみ残存していたため断面図は作成できなかった。残存していた部分の形状と計測値は、平面形が不定形で、規模は長径214㎝、短径204㎝、深さは90㎝であった。井戸底部に井戸の下部構造が残存していたので、構造が明らかになった。まず、穴を掘削した後、井戸底の中心部を囲うように北側に434、430の棒状木製品を東西方向に置き、南側に431の棒状木製品を東西方向に置く。434･430の上に東西方向に426の板状木製品、431の上に東西方向に427の板状木製品を置く。426の上に429の桶底板を東西方向に置き、429と427の上に424の板状木製品を南北方向に置く。426と427の上には425の板状木製品を南北方向に置く。425の東側には425を支える435･436が北から順に地山に突き刺した状態で検出された。422の桶の底板423がこれらの板材の隙間を埋めるようにばらばらに置かれ、424の上に433、425の上に432の棒状木製品を南北方向に置く。それを422の桶を構成する6枚の板が西側に4枚、東側に2枚支えるように地山に突き刺した状態で置かれていた。この囲いの上に428の桶が据えられ、井戸枠となっていたと考えられる。428の桶は胴部の底近い部分のみ残存しており、上の部分は中世の溝造成時に壊されたと考えられる。井戸底から井戸が廃棄されるときの祭祀に使用されたのか、完形の壺が2個逆さまの状態で出土した。西側が12、東側が11である。どちらの壺も外面がきれいに磨かれており、11は細頸の有段口縁で、胴部は算盤玉状の形態である。12は有段口縁の壺で胴部最大径がほぼ同部中心に位置し外面には赤彩が施されている。この井戸はこれらの土器が使用された弥生時代末頃に廃絶されたと考えられる。その他の出土遺物は、13～22の壺や甕であるが、これらの時期も弥生時代末頃と考えられる。16～22は有段口縁の甕で口縁部外面に擬凹線が施されている。胴部外面はハケ調整、内面ハケ、ケズリ調整がみられる。井戸枠や井戸枠を支えるために使用されていた、428や422の桶も弥生時代のものになろうか。

SE204（遺構図第１分冊 P110図版№35、遺物実測図第９・34図）

３区中央で検出した。平面形は不定形である。規模は長径139㎝、短径97㎝、深さ70㎝を測る。この井戸も作図用壁面が崩落し、断面図を作成できなかった。井戸枠は検出していない。出土遺物は23の白磁碗で12世後半頃のものか。また同時期の土師器皿24、25の底部、26の鞴の羽口の他、９世紀頃の須恵器無台坏片、須恵器甕片、土師器細片などが出土している。この他、439の木柱根が出土した。

SE205（遺構図第１分冊 P110図版№35、第４図、遺物実測図第９図）

第１分冊では、SE025と表記してあるが、SE205の間違いである。ここで訂正する。３区北側中央で検出した。SE203に隣接する。平面形は楕円形を呈する。規模は長径270㎝、短径226㎝、深さ130㎝

を測る。井戸枠は検出していない。出土遺物は、30の古墳時代前期の甕と31の土師器の器台である。脚部に透かし穴が３箇所残る。この他、同時期と考えられる土師器片が多数出土している。

SE206（遺構図第１分冊 P120図版№40・P130図版№46、第４図、遺物実測図第９・10・34～37図）

３区南西で検出した。掘削中に壁面が崩落し、辛うじて残った上部分の断面図しか作図していない。平面形は不定形である。規模は長径270㎝、短径208㎝、深さ約95㎝を測る。井戸枠は２段組であった。448～455が上の段を構成する木材で、板同士を桜の皮でつないでいた痕跡が残っている。456～463は井戸枠の下段を構成する木材である。井戸の底には石が敷き詰められており、その上にヤマトシジミの殻が塊状になって出土している。第１分冊に掲載したパリノ・サーヴェイ（株）による自然科学分析[1]によると井戸枠にはスギを用いており、木材の年代は３世紀中葉～５世紀前葉頃である。出土遺物は、32の土師器壺で受け口状口縁の外面に波状文が巡る。さらに胴部外面上部に格子状文が施され、二重直線文が３条巡る。33も土師器壺で外面をミガキ口縁が外反する。(34は33と結合したため欠番)35も土師器壺で有段をもつ口縁で胴部上部に最大径がある形である。36・37は土師器壺である。38はひさご型の壺で、口縁部が内湾する。頸部に突帯が巡る完形品である。39～46は土師器甕である。39・40は有段口縁で口縁部外面に擬凹線が巡る。41は受け口状口縁である。42・43はくの字状の口縁部で端部を面取りしてある。47は土師器高坏で、坏部内面もミガキではなくハケ調整してある。48は土師器高坏で外面及び坏部内面に赤彩が施してある。古墳時代初頭のものか。49は骨角器のヤスである。鹿の角製か。本来腐食しやすい骨角器が出土したのは、SE206の下層部に貝殻が堆積していたため、豊富なカルシウムにより骨角器が保存されたためであろう。2000年、北浦弘人氏が『青谷上寺地遺跡３（本文編)』で漁撈具ヤスの分類を行っている[2]。この分類によると、49の形態はⅡAa類となる。アグ（かえり）のあるⅡ類で、さらに身の先端部から基部までが直線的な形態をとる（直状ヤス）A類となっている。柄との装着法、身の下半部の面取りがない（a類）である。アグは片側だけに付き、基部には突起が作り出されている。その他、図化できないような土師器の甕・壺・高坏片や器種分類できない土師器細片が大量に出土している。木製品は上記の井戸枠と440～447の木製品が出土している。

SE208（遺構図第１分冊 P120図版№40・P130図版№46、第５図、遺物実測図第11・12・38・44図）

３区南西で検出した。平面形は不定形で規模は長径272㎝、短径178㎝、深さ104㎝を測る。出土遺物は50の土師器台付壺がある。胴部に斜格子文が巡る。古墳時代前期のものか。51・52の土師器壺、53から59の土師器甕、60の土師器鉢、61・62の土師器の器台、63の土師器高坏、466～470・472の板状木製品、471・473～475の棒状木製品、581の変質安山岩からなる敲き石[3]などの他、土師器細片が大量に出土した。出土土器から遺構の廃棄年代は古墳時代前期頃であろうか。61の器台は内外面に赤彩を施し磨いたもので供献用に使用したものか。木製品は466～475である。井戸枠は検出していないが、469が井戸枠であったのかもしれない。471は一部炭化しており孔が開けられている。石製品は581の変質安山岩からなる敲石が１点出土している。

1　パリノ・サーヴェイ（株）　2006年　「木曳野遺跡群の自然科学分析」『寺中Ｂ遺跡Ⅵ　桂町南遺跡Ⅰ　畝田・寺中遺跡Ⅲ　木曳野遺跡群Ⅰ』
2　北浦弘人　2001年　『青谷上寺地遺跡３（本文編)』
3　石製品については、パリノ・サーヴェイ（株）による肉眼鑑定により岩種を判定した。

第３節　土坑

SK204（遺構図第１分冊 P120図版№40、第５図、遺物実測図第38図）

３区中央西より、SD201の川の斜面にあたる低い場所で検出した。平面形は不定形で規模は長径120cm、短径96cm、深さは31cmを測る。出土遺物は476の舟形と思われる木製品が出土している他、土師器細片が少量出土している。

SK205（遺構図第１分冊 P120図版№40、第５図）

３区中央西より、SD201の川の斜面にあたる低い場所で検出した。SK204の北に隣接する。平面形は楕円形を呈し規模は長径202cm、短径140cm、深さ30cmを測る。出土遺物はない。

SK206（遺構図第１分冊 P120図版№40、第５図）

３区中央南より、SD201の川の斜面にあたる低い場所で検出した。平面形は不定形で規模は長径156cm、短径122cm、深さ28cmを測る。出土遺物はない。

SK208（遺構図第１分冊 P110図版№35、第５図、遺物実測図第12・44図）

３区中央でSD201の川の斜面にあたる低い場所で検出した。平面形は不定形で規模は長径222cm、短径154cm、深さ42cmを測る。出土遺物は64～66の須恵器坏、67～70の土師器椀、71の内面黒色土器椀、72の白磁碗、73の土錘、582の流紋岩からなる砥石などの他、弥生時代末～古墳時代初頭にかけての甕の口縁部細片、土師器細片や、須恵器の坏や甕などが出土している。67～69は口径15cmを測る大振りの土師器椀で時期は概ね12世紀代のものである。この他、ヒトの脛骨１点、ウシの脛骨が１点出土している。第１分冊のパリノ・サーヴェイ（株）による自然科学分析によると、ヒトの脛骨は成人男性のもので、ウシは在来ウシの中小型に属する個体であるとのことである。

SK211（遺構図第１分冊 P110図版№35、第５図、遺物実測図第12・44図）

３区の中央で川の斜面にあたる低い場所で検出された。SK208に北側に隣接する。平面形は不定形を呈する。規模は長径545cm、短径108cm、深さ30cmを測る。出土遺物は74～76の土師器皿、77の台付椀、78の壺、79の須恵器双耳瓶、80の無孔土玉、81の須恵器製の権状錘、583の砂岩からなる砥石の他、弥生時代末～古墳時代初頭にかけての甕の口縁部細片や土師器細片が大量に出土した他、古墳時代初頭の須恵器蓋細片、須恵器の坏や甕などの細片、ヤマトシジミの貝殻などが出土している。81の須恵器製権状錘は秤のおもりを模したものである。小松市の額見町遺跡で類例がみられる。2003年、望月精司氏が「古代権状錘に関する一考察」で北陸出土の権衡資料の検討を行っている。[4] 望月氏の分類によると、81の紐通しの形態は縦穴が貫通するⅡ1類で錘形状は球形基調の花弁状笠部で笠部下に突出部をもたず縦方向の稜をもつ笠が球形に底部へ向かい窄まるAd類となる。81に類似する額見町遺跡出土の権状錘は望月氏の古代権状錘の形態変遷図では11世紀後半とされている。SK208、SK211はともに川岸から川にかけての傾斜地にあり、深さも45cm程度であることや、出土遺物も時期幅があり、細片が多いことから、ゴミ捨て場もしくは川に捨てられたゴミが自然に溜まった場所である可能性が高い。

SK223（遺構図第１分冊 P110図版№35、第５図）

３区の中央西端で検出した。調査区外に土坑がかかるため平面形は不明である。規模は検出できた

4　望月精司　2003年　「古代権状錘に関する一考察」　『北陸古代土器研究第10号』

範囲で、長径140cm、短径132cm、深さ63cmを測る。出土遺物はない。

SK225（遺構図第１分冊 P120図版№40、第５図）

３区南西側で検出した。平面形は楕円形を呈し、規模は長径90cm、短径70cmを測る。出土遺物はない。

SK226（遺構図第１分冊 P130図版№46、第５図、遺物実測図第13・44図）

３区南西端で検出した。平面形は調査区外に土坑がかかるため不明である。規模は検出した範囲で、長径192cm、短径118cm、深さ20cmを測る。出土遺物は82・84の布留式甕、83・85～87の土師器くの字状の甕と88～91の土師器高坏、92の土師器の器台、93の須恵器長頸壺、94の鉱滓などがある。90は坏部中程を胴部に沿って打ち欠いたように見受けられる。坏部内面は汚れが著しい。坏意外に転用したものか。石製品は584の変質流紋岩（緑色凝灰岩）の加工品、585の軽石が出土している。585は全面に使用痕がみられるので、砥石として使用した可能性もある。その他、図化できない土師器片が多数とヤマトシジミの殻が１点出土している。古墳時代前期末～中期頃の土坑か。

第４節　柱穴

第１分冊の遺構図では３区にP205～P221まで重複して報告してあるため、第１分冊図版№35掲載分の柱穴番号末尾にａを付け、第１分冊図版№40掲載分の柱穴番号末尾にはｂをつけて区別する。

P202（遺構図第１分冊 P110図版№35、第４図、遺物実測図第７図）

３区北側中央で検出した。SE205の西側に隣接する。平面形は楕円形で規模は長径64cm、短径52cm、深さ42cmを測る。出土遺物は１の小型土器の鉢または甕である。完形で出土した。口縁部はくの字状に開き、外面はハケ調整した後ナデ調整をしてあり内面ケズリ調整した後ナデ調整してある。胎土は砂礫を多く含む。その他、古墳時代初頭と考えられる甕や高坏の細片が出土している。

P205b（遺構図第１分冊 P120図版№40、第４図）

３区中央西よりで検出した。平面形は不定形で規模は長径94cm、短径66cm、深さ44cmを測る。出土遺物は土師器細片が少量出土している。

P206b（遺構図第１分冊 P120図版№40、第４図）

３区中央西よりで検出した。平面形は楕円形で規模は長径86cm、短径64cm、深さ22cmを測る。出土遺物は土師器細片が少量出土している。

P207b（遺構図第１分冊 P120図版№40、第４図）

３区中央西よりで検出した。平面形は不定形で規模は長径66cm、短径58cm、深さ38cmを測る。出土遺物は土師器細片が少量と須恵器の細片が１点出土している。

P208b（遺構図第１分冊 P120図版№40、第４図）

３区中央西よりで検出した。平面形は不定形で規模は長径56cm、短径46cm、深さ26cmを測る。出土遺物は土師器の細片が１点出土している。

P209b（遺構図第１分冊 P120図版№40、第４図）

３区中央南寄りで検出した。平面形は楕円形で規模は長径78cm、短径66cm、深さ32cmを測る。出土遺物は土師器の細片が多数出土している。

P211b（遺構図第１分冊 P120図版№40、第４図）

３区中央西端で検出した。平面形は調査区外に柱穴がかかるので不明である。規模は検出した範囲で長径86cm、短径68cmを測る。出土遺物は２の有段口縁の土師器甕の他、土師器細片が２点出土するのみである。２は有段口縁で外面はススが大量に付着している。調整は外面が口縁部がナデ、胴部がハケ調整してあり、内面は口縁部がナデ、胴部をケズリ調整してある。

P214b（遺構図第１分冊 P120図版№40、第４図）

３区中央西よりで検出した。平面形は楕円形で規模は長径19cm、短径16cmを測る。出土遺物は３の脚部の他、土師器細片が少量と須恵器細片が１片出土した。

P224（遺構図第１分冊 P130図版№46、第４図）

３区南西隅で検出した。平面形は楕円形で規模は長径70cm、短径48cm、深さは約10cmを測る。出土遺物は４の高坏の脚部の他、脚部が３点と古墳時代初頭頃の甕の口縁部細片などが出土している。

第５節　その他の遺構

SX211（遺構図第１分冊 P110図版№35、第５図、遺物実測図第７図）

３区北側西端で検出した。平面形は調査区外に遺構がかかるが不定形である。規模は検出した範囲で長径330cm、短径300cm、深さ数cmである。出土遺物は弥生時代末～古墳時代初頭にかけての土器細片が出土している。

第６節　溝

２区のSD303、SD240、SD244と３区SD201、４区大河跡は同じ川である可能性が高いが、本報告書では遺構番号の統一は行わなかった。ご容赦願いたい。この川跡は平成14年度に石川県が金沢市調査区に隣接する場所を発掘しているが、石川県が調査したＯ１～Ｗ区で検出した旧河道の続きと考えられ、金沢市の調査区においても２区～５区と南から北へと蛇行しながら流れていく。出土遺物は弥生時代末～古墳時代、古代の土器が出土している。

SD222（２区）（遺構図第１分冊 P144図版№53・P154図版№58・P170図版№67、遺物実測図第26図）

２区の南－北方向に走る溝で、３区のSD222とは別の溝である。規模は幅370cm、深さ約70cmを測る。第４分冊で説明してあるとおり、中世の区画溝である。石川県の調査区から金沢市調査区１区へ続き、２区へと北上し、２区で東へ曲がる。金沢市の平成16年度調査区である、東工区で再び検出されている。出土遺物に関しては、第４分冊で報告できなかった墨書土器のみ本報告書で紹介する。343は須恵器有台坏で外面底部に袋文字の「人」が書かれている。345は須恵器蓋で、内面に袋文字の「人」が書かれている。

SD240・SD244（遺構図第１分冊 P131図版№46・P132図版№47・P143図版№52・P143図版№53、遺物実測図第26～31図）

2区のSD240とSD244は同一の川跡でSD303と3区SD201の中間に位置する。調査時は西工区側から延びる部分をSD240とし、2区中程から北に向かって延びるSD244と区別していたが、平成16年の調査で西工区にSD240の続きが検出されなかったことから石川県調査区から続く旧河道の分流であると判断した。出土遺物は、概ね8世紀中頃～9世紀前半の須恵器の墨書土器である。344が盤、346・347が蓋、349～363が無台坏、364～368が有台坏で袋文字の「人」が墨書されている。373が無台坏、374が有台坏で「工」、376が無台坏、378～380無台坏、381が有台坏で「卅」、383が無台坏、384・385が有台坏で「津」、387が蓋、388～391・393が無台坏、392が器種不明で「平」、394・395が蓋で「五戸」、396が無台坏の「遊名安ヵ」、397は無台坏で「大刀自」、398は無台坏で「□刀女」、401は無台坏で「古人」、405が有台坏で「人」、408は無台坏で「女」、409は無台坏で「公」、411は有台坏で「□」、412・418・419は無台坏で判読不明の文字が書いてある。420は蓋で内面に墨痕がある。

SD303（遺構図第1分冊P154・155図版№58・P166・P167図版№64・P170図版№67、遺物実測図第28図）

2区で調査時は西工区から延びる別の川跡かと思い遺構番号を変えたが、平成16年の西工区の調査で岸がみつかったことから、石川県調査区から延びている川跡が西に大きく膨らんでいるだけであったと判明した。規模は第4分冊で記述してあるように、幅約200㎝、深さ140㎝の規模で、下層が古墳時代の土器が出土し、中層から墨書土器が大量に出土している。舟着き場または舟溜まりの様な場所であったのかもしれない。今回は第4分冊で報告しなかった墨書土器のみ報告する。大半は第4分冊で報告済である。348が須恵器無台坏で底部に袋文字「人」、370が須恵器無台坏、371が須恵器有台坏で「井」、375の須恵器無台坏で底部に「文」が墨書されている。377が須恵器盤で「文」、399は須恵器無台坏で「主□　秋女」と書かれている。「秋女」は石川県の畝田西遺跡群でも確認されている。400は須恵器無台坏で「古人」と書かれている。

SD201（遺構図第1分冊P90・91図版№24・P110・111図版№35・P121図版№40、第6図、遺物実測図第14～20・28・30・31・38～40・44・45図）

3区の南－北方向に走る溝で、2区のSD303・SD240の続きである。3区では西側の岸が検出されている。出土遺物は下層部から弥生時代末～古代にかけての遺物や古墳時代中期の須恵器などが出土し、上層部から平安時代の須恵器や土師器、中世の青磁など時期幅がみられる。中世の遺物に関しては極少量なので、3区SD222など中世の遺構が造営された時の混入品の可能性もある。95～101の口縁部に擬凹線をもつ土師器の甕、102～108はくの字状の口縁部の土師器甕、109～115は土師器の壺、116・118は土師器の脚部、117・120は鉢などの台か。119・121・122～124は土師器の器台、125～135は土師器の高坏である。136・137は土師器の鉢、138～140は土師器の蓋である。141～145は手捏ね土器である。146～151は須恵器蓋である。152～163は須恵器有蓋坏、164～181は須恵器無台坏であるが、168は内面及び外面一部に黒色の漆状の付着物がつく。176は口縁部に灯芯油痕がみられる。182～190は須恵器有台坏で182は底部のみを残すように胴部を16箇所程度打ち欠いている。191・192は須恵器のツマミのある蓋である。193～195は須恵器高坏である。脚部に透かし穴がみられる。墨書土器は合計10点出土している。須恵器有台坏406「大」が1点、413と414の判読不明文字が2点出土している。須恵器無台坏の407「中」、382「卅」、410「束」、404「得」、402「荒田」が各1点ずつ、417判読不明が1点ずつ、須恵器蓋のツマミ横に判読不明文字を配した421の墨書土器が1点出土している。196～202は須恵器壺瓶類、203は須恵器甕である。204は須恵器鉢である。205～207が土師器の甕で、208・209は壺であろうか。210・211は土師器の高坏であろうか。212は土師器の鉢で、内外面赤彩を施して

ある。213～216は土師器鉢である。217～221は内面黒色土器の椀および鉢である。223は土師器の把手、222・224～226は甑であろうか。227は青磁の碗である。内面に型押し文様がみられ、高台には胎土目押し当てていたような跡が残る。龍泉窯系青磁碗Ⅰ類か。228は鞴の羽口である。229～240は土錘で240のみ棗玉形をしている。241は穿孔をもつ土製品の一部である。木製品は、SD201の底近くから出土している。477・478の舟形と思われる。479は卒塔婆で梵字のような文字が一字墨書されている。480は両端部を尖らせてある板状の木製品、481の穿孔のある、端部をＶ字状にカットした製品、482・483の箸、484～486の桶類の蓋または底板、487～497の用途不明の木製品の他、498～503の杭類などがある。石製品は586～599である。586ははんれい岩の石錘、587は玄武岩の磨石、588は玄武岩、589はひん岩、590は輝石安山岩、591は砂岩の砥石である。592・594は凝灰岩の敲石、593は凝灰岩のすり石で595は蛇紋岩の石核である。２区のSD244出土の石核と接合した。596はデイサイト質凝灰岩の打製石斧、597は砂岩の磨製石斧で敲石に転用したような形跡が認められる。598は凝灰岩の石錘、599は滑石の紡錘車と考えられる。この他、ウシの左側橈骨が１点出土している。

SD202（遺構図第１分冊 P111図版№35、第６図、遺物実測図第40図）

３区の中央付近を東－西方向に走る溝で、SD222（SD201分流）とSD201（SD240）を切ることから、中世以降の溝と考えられる。規模は幅160cm、深さ30cm程度で、出土遺物は504の板状木製品である。

SD205（遺構図第１分冊 P120図版№40、第６図）

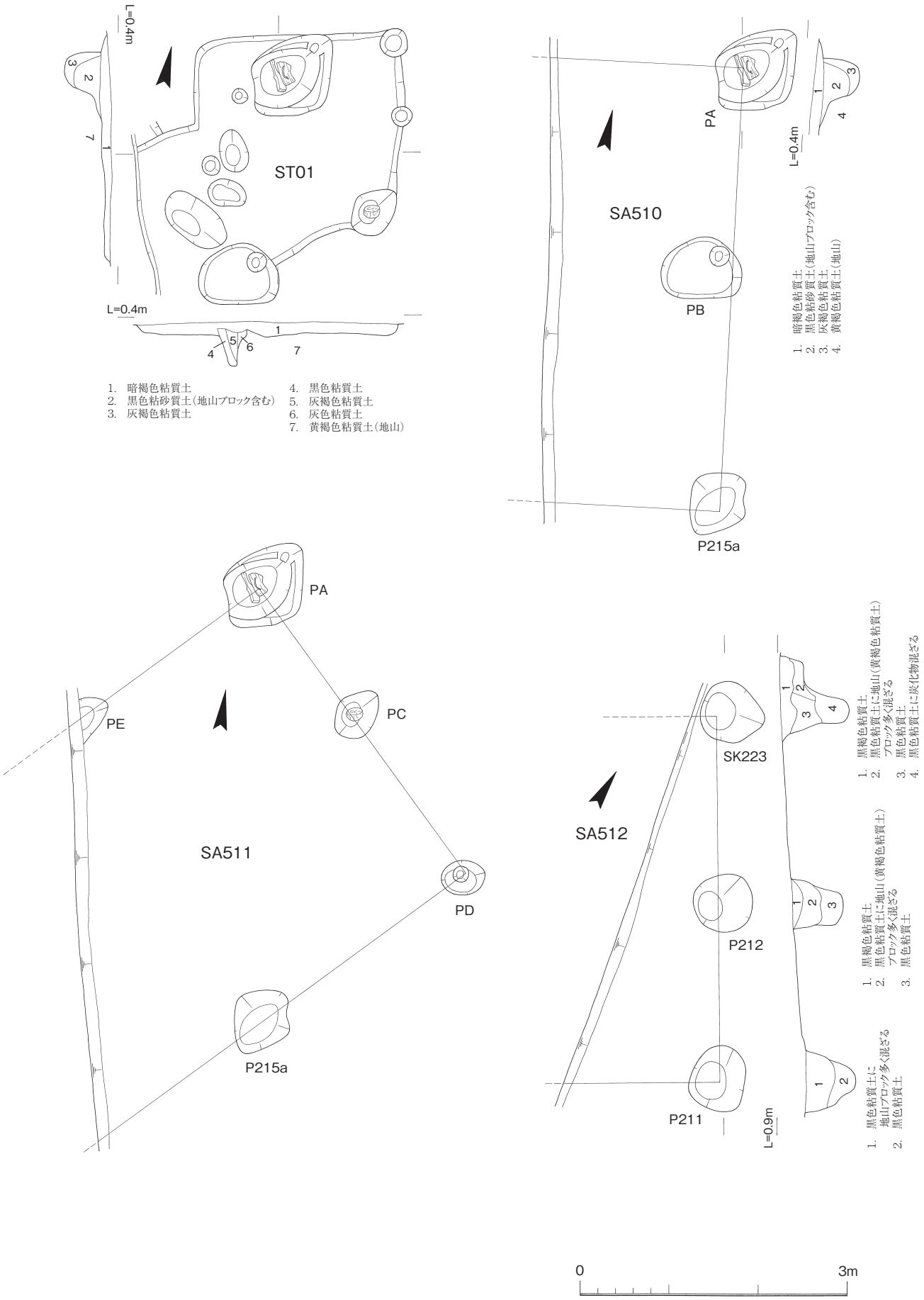
３区の南西を南－北方向に走る溝である。規模は幅100cm、深さ14cm程度で、出土遺物はない。

SD206（遺構図第１分冊 P120図版№40、第６図）

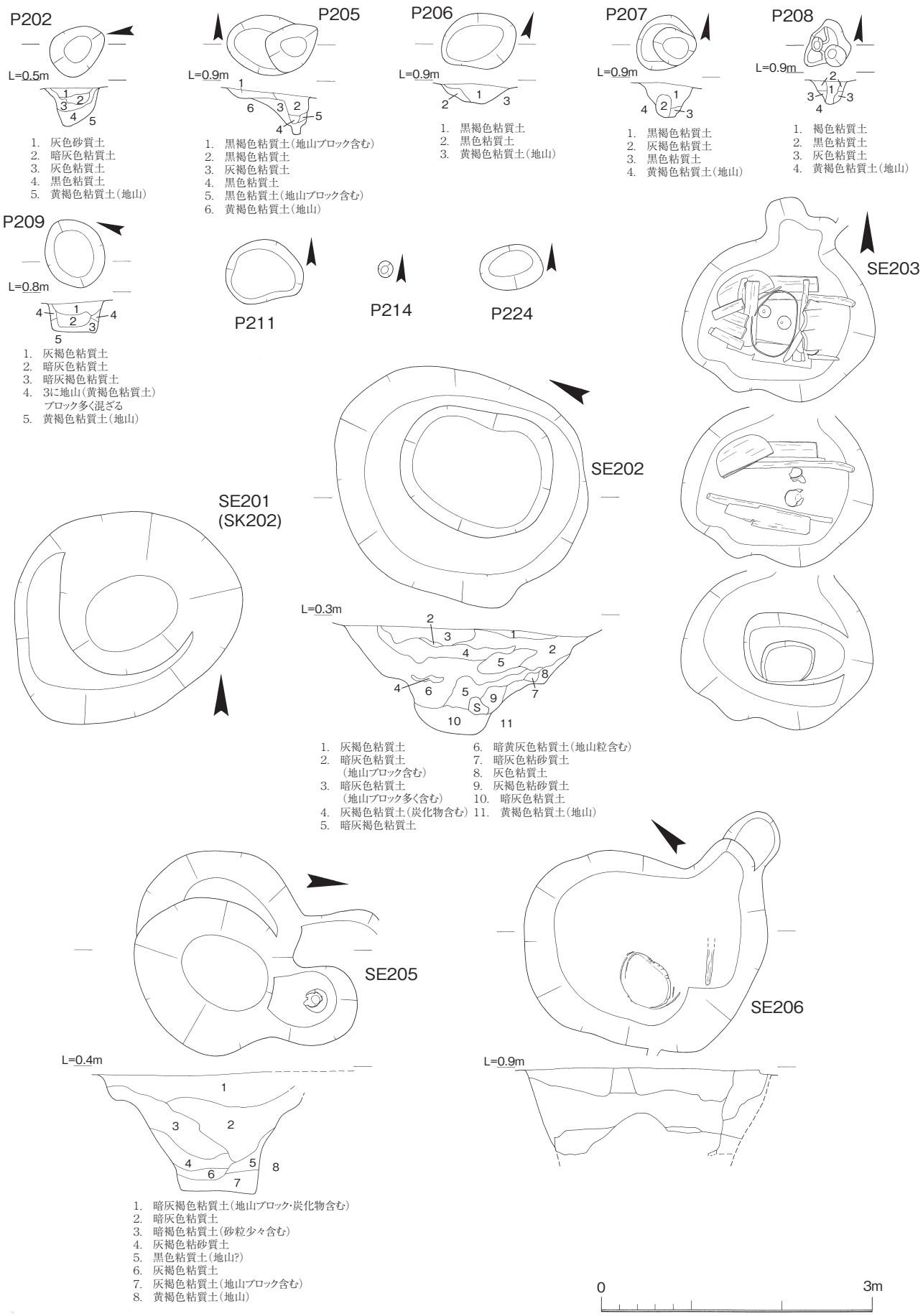
３区の南西を東－西方向に走る溝である。規模は幅40cm、深さ18cm程度で、出土遺物はない。

SD222（３区）（遺構図第１分冊 P90図版№24・P110・111図版№35、第６図、遺物実測図第21～25・40～43・45図）

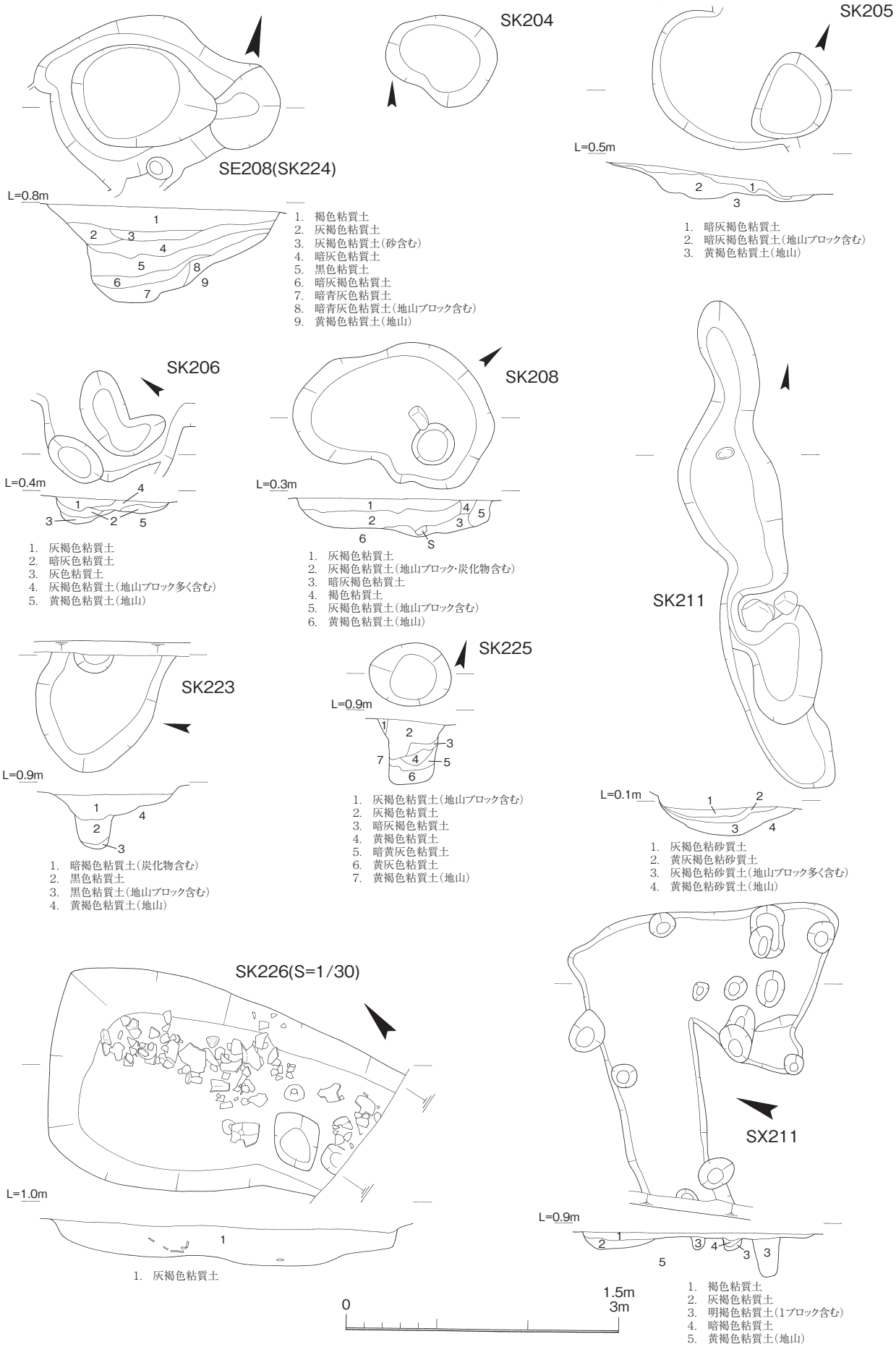
３区でもSD222とした溝があるが、２区のSD222と関連はなく遺構名が重複しただけである。規模は幅320cm、深さ20cm程度で出土遺物は242～246の土師器甕がある。242・243は有段口縁で外面に擬凹線が巡る。246は口縁部が短い口縁帯となっている。247・248は土師器壺で247は有段口縁で外面に擬凹線が巡る。248は直口形を呈している。249は土師器鉢である。250は須恵器蓋、251・252は須恵器有台坏、253が須恵器無台坏である。254は須恵器高坏の頸部で透かし穴が３箇所見られる。255は土師器甕、256は土師器甑の把手か。257～263は土師器椀で257は内外面を赤彩してある。内面の一部には油痕のようなものが帯状に付着している。264～266は内面黒色土器の椀である。267～283は土師器皿、284は京都産の瓦質土器の椀で体部に穿孔が１ヵ所開けられている。北陸での出土は珍しい。285～290・292・293は白磁碗で291は肥前磁器であろうか。294は漳州窯系の磁器碗で16世紀末～17世紀のものか。295は青磁碗、296は陶器碗である。297～299は珠洲の甕で300は珠洲の壺、301～307は珠洲の鉢である。概ね12世紀中頃～13世紀前半のものか。308・309は鞴の羽口、310は有孔土玉、311～333は土錘である。334・335は刀子で334は526の柄が付く。336は握り鋏、337は鏨、338～340は火箸である。341のニホンジカの右角が出土している。SD222にはヤマトシジミの貝殻を廃棄する場所であったのか貝殻溜まりが５箇所あった。ニホンジカの角も本来なら腐食し残存する可能性が低い遺物であるが、貝殻のカルシュウムにより残存していたと考えられる。角冠と呼ばれる最上部の枝は欠損



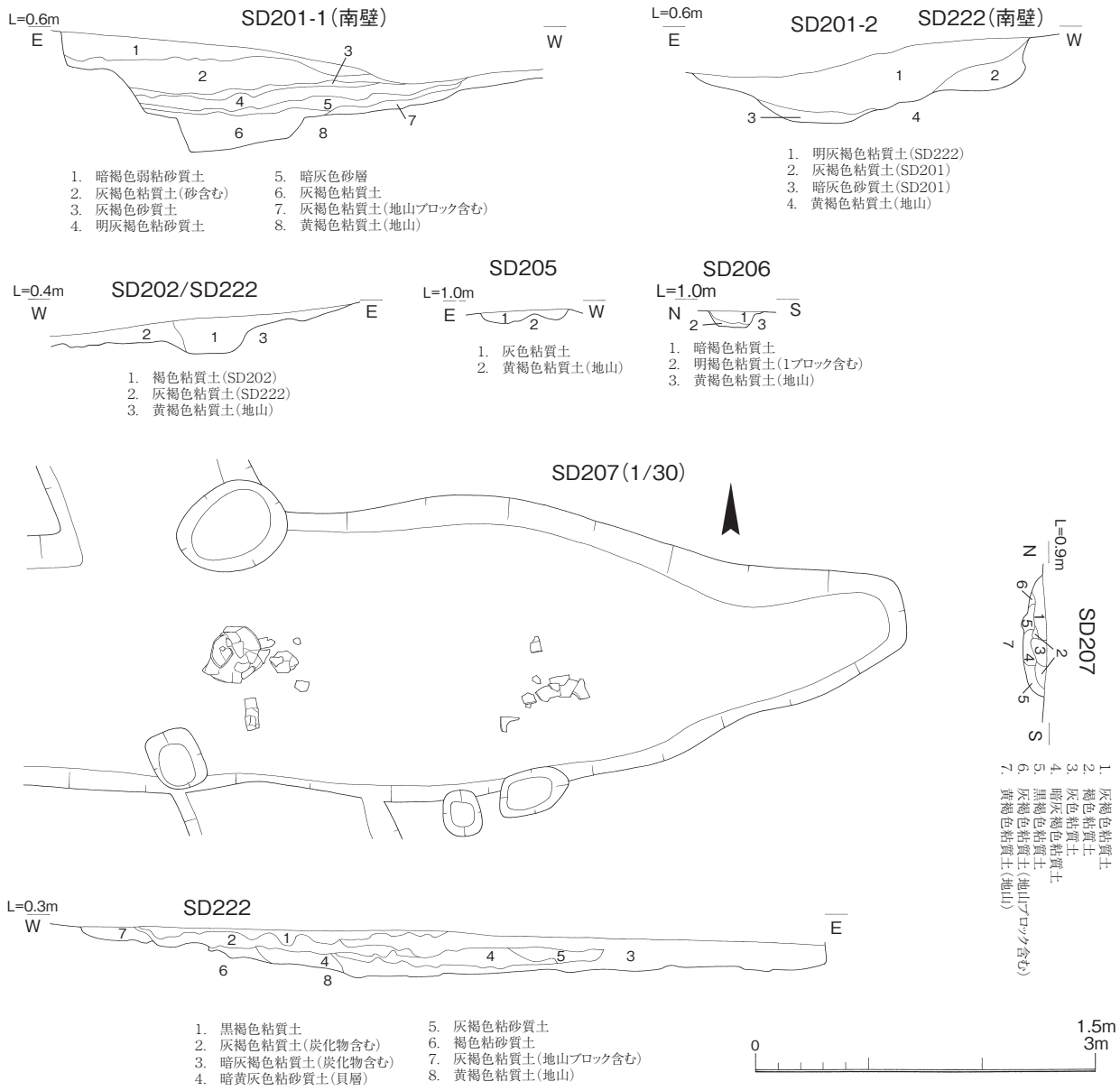
第３図　遺構図（１）（S＝1/60）



第４図　遺構図（２）（S＝1/60）

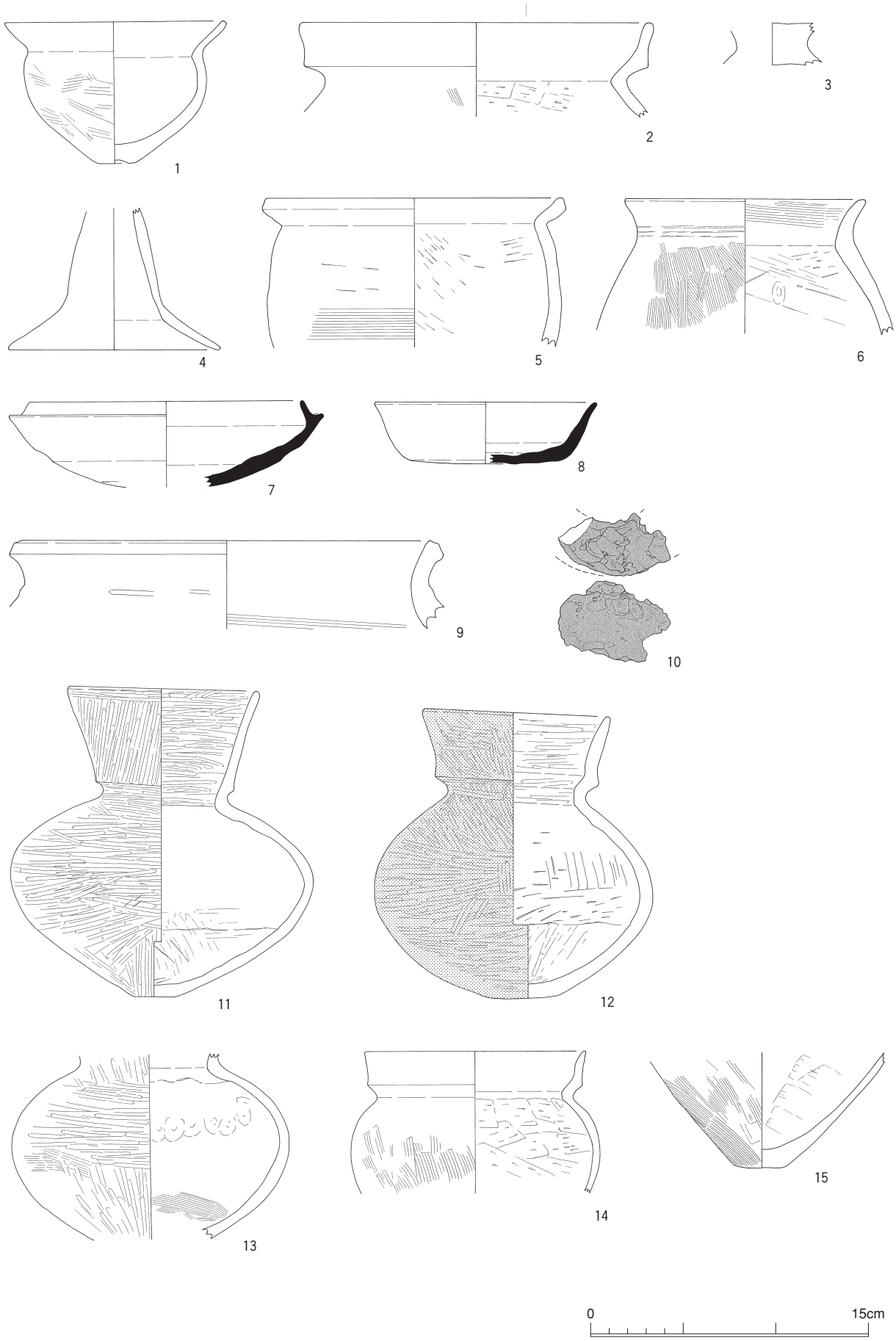


第５図　遺構図（３）（S＝1/60、1/30）

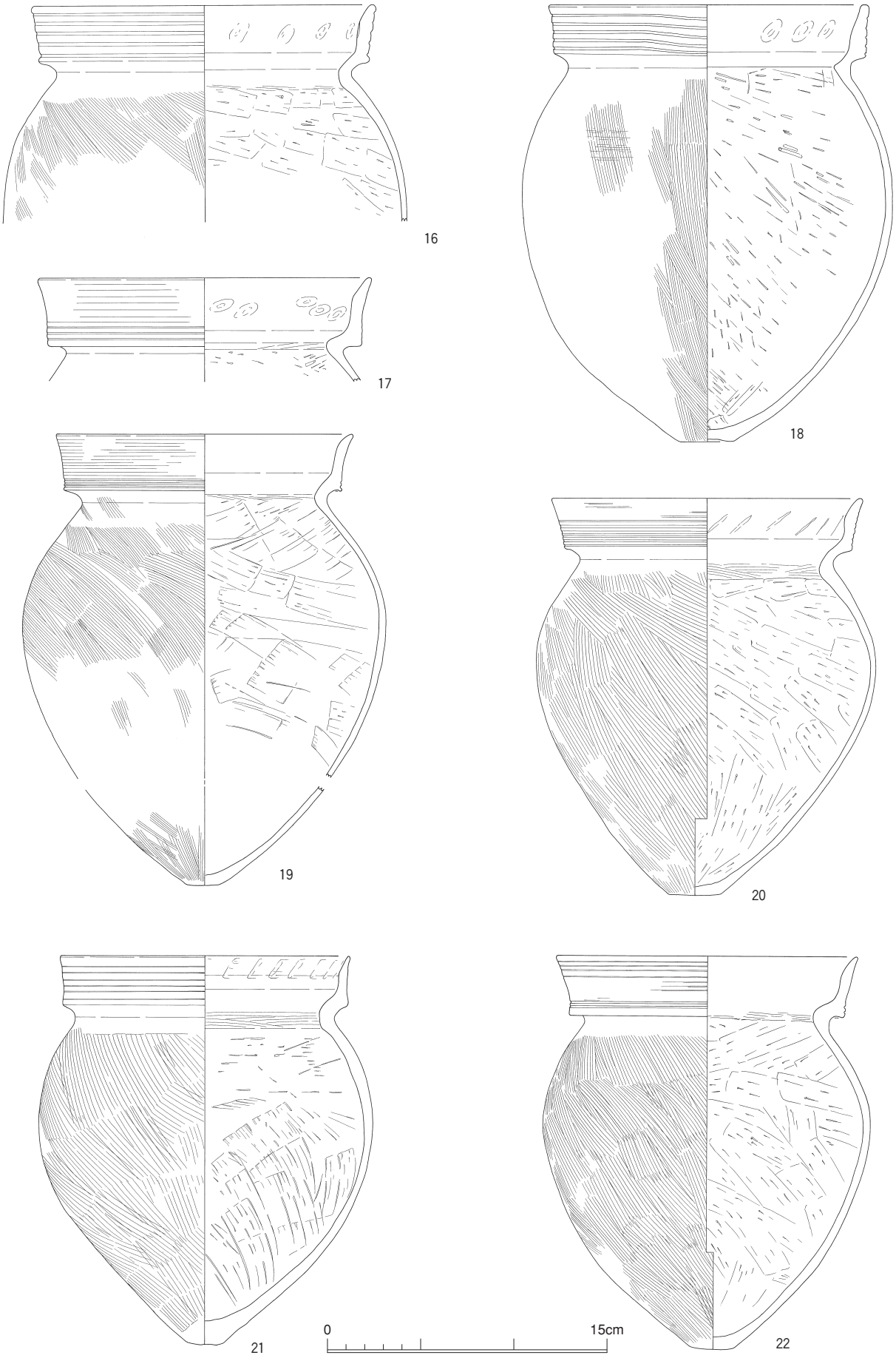


第６図　遺構図（４）（S＝1/60、1/30）

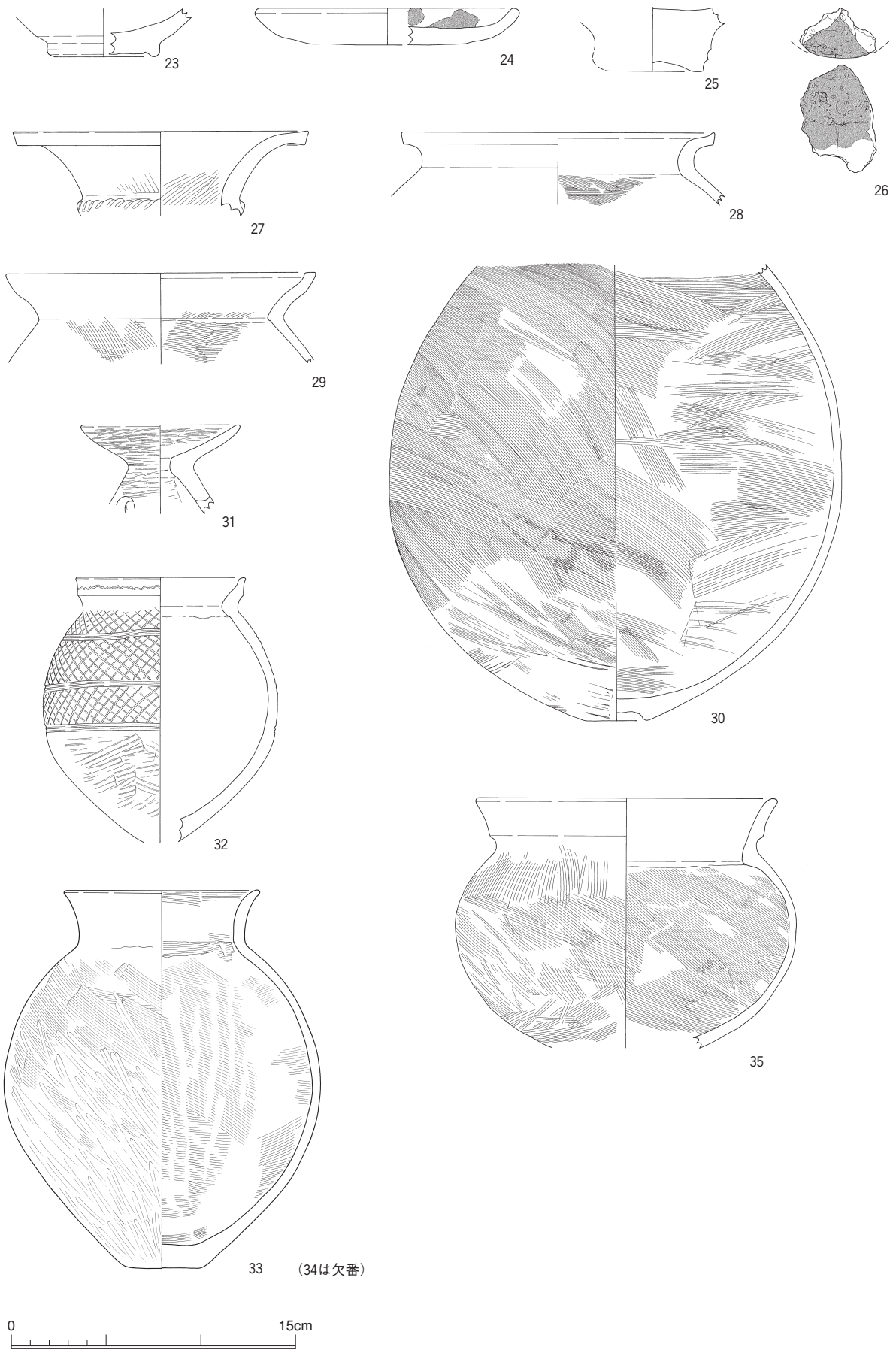
しており、この部分に穿孔痕が残るので、穴が開けられていたと思われる。角隆起、第１枝、第２枝が削られ、第２枝があった部分は深さ13㎜の孔が開けられている。用途は不明である。木製品は、505～580までである。505・508は皿で508は内外面に黒漆を施し、赤漆で模様を描いている。506は椀、507は杯でともに内外面黒漆が塗られている。509は曲物、510は箱の一部か。511～520は箸、521・522は容器の底板、523は把手か。524は右足用の下駄、525は笠の部材、527は舟形か。528・529の端部に加工が施されているものなどが出土している。石製品は600～616が出土している。600・601は変質凝灰岩の加工品、602は砂岩の凹石である。603はひん岩の敲石、604デイサイトの台石である。片面のみ被熱痕がみられる。605・608は砂岩の砥石、606・607は流紋岩の砥石である。609は変質流紋岩の剥片、610・611は変質凝灰岩の石核、612は変質流紋岩の石核である。613・614は変質安山岩の打製石斧である。615はデイサイトの石錘、616は礫質凝灰岩のすり石である。その他、ヒトの右下顎骨１点、ウマの左上腕骨１点、右上顎第２前臼歯１点、右上顎第３前臼歯１点、左橈骨＋尺骨１点、右橈骨＋尺骨１点、左脛骨１点、ウシ左上顎第３後臼歯１点、右下顎第２後臼歯１点、イヌ左下顎骨１点などの骨の他、ヤマトシジミが大量にかたまって出土した他、コタマガイという海辺で採れるハマグリに似た二枚貝も出土している。



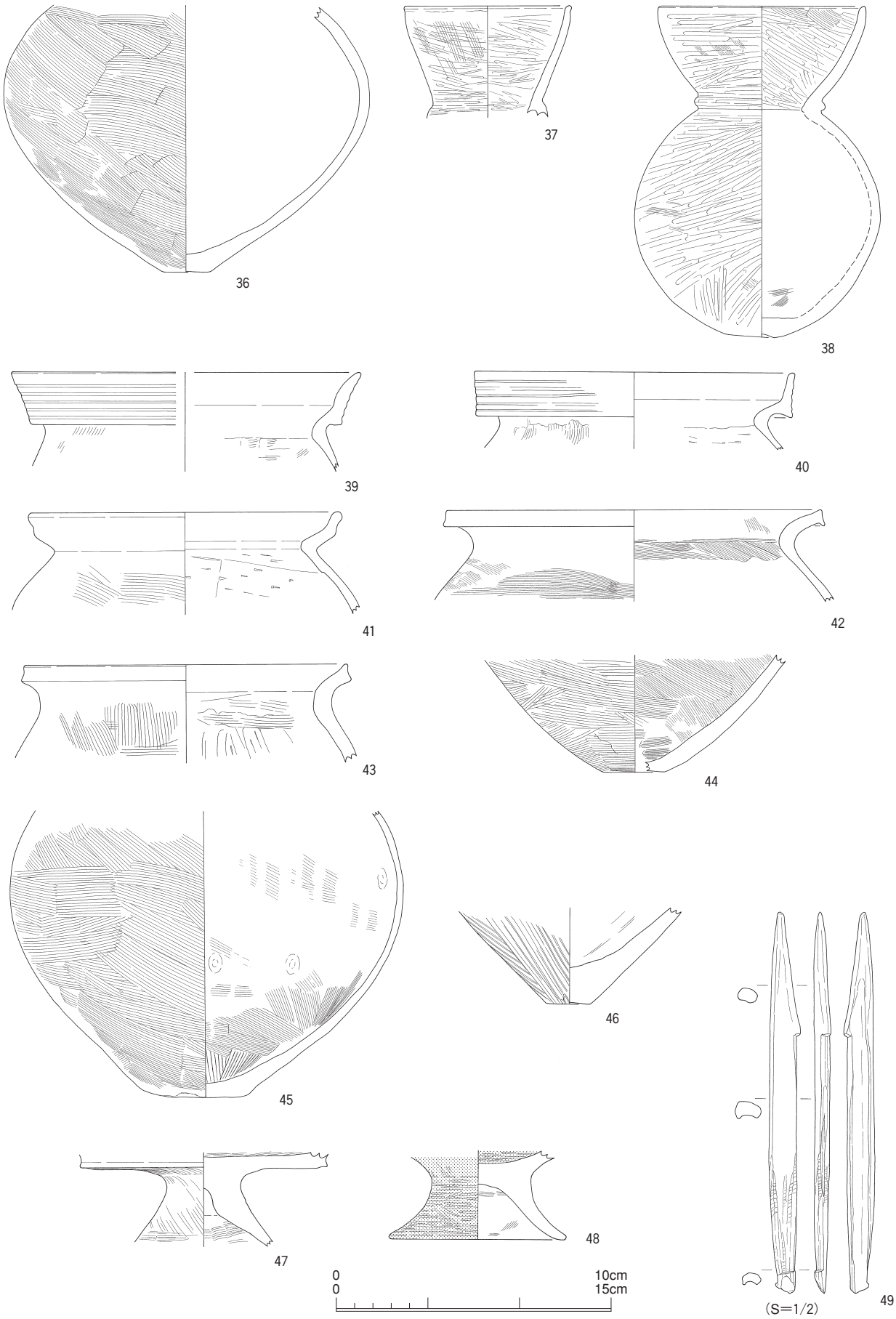
第７図　P・SE 出土遺物実測図（S＝1/3）



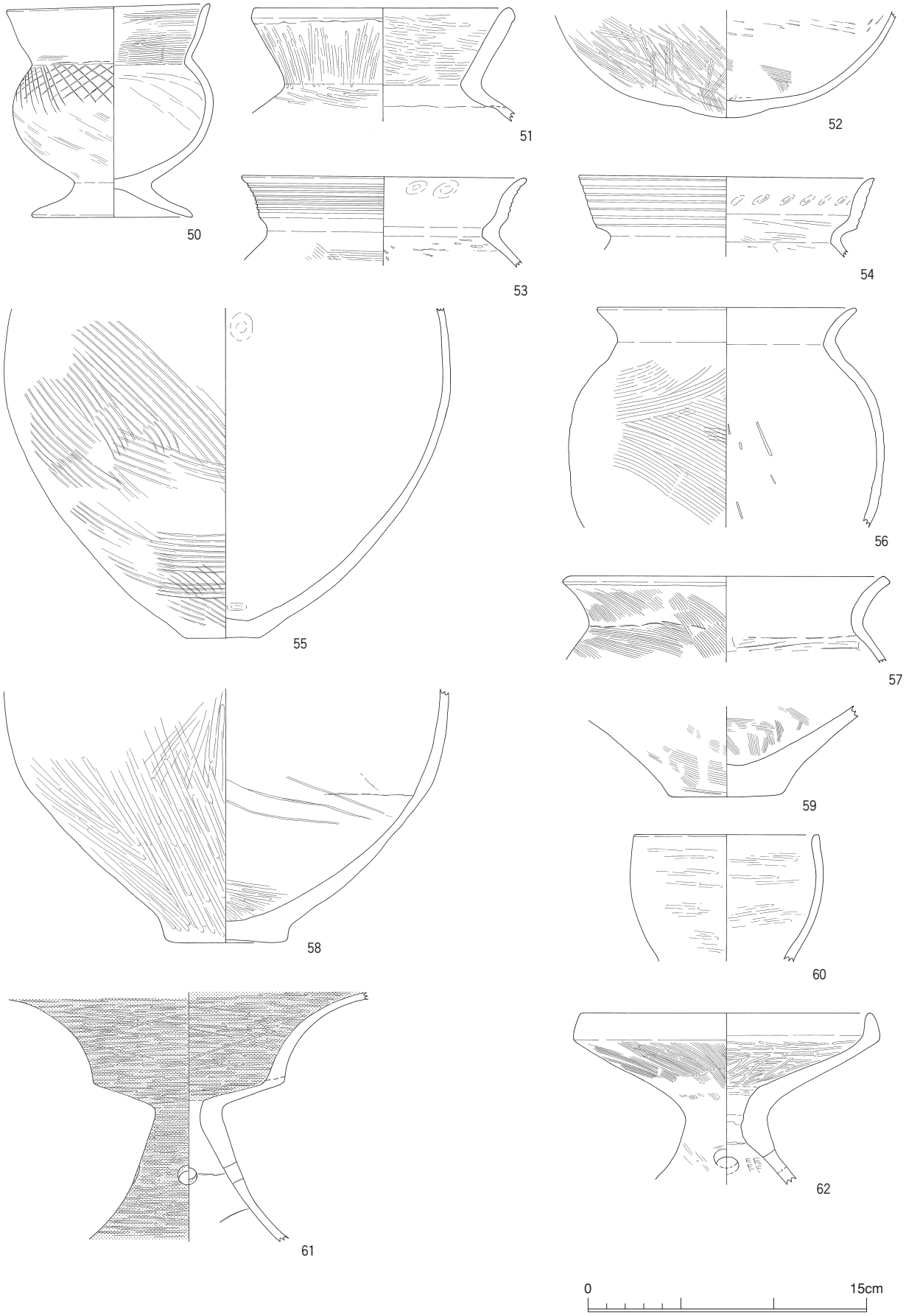
第 8 図　SE 出土遺物実測図（S＝1/3）



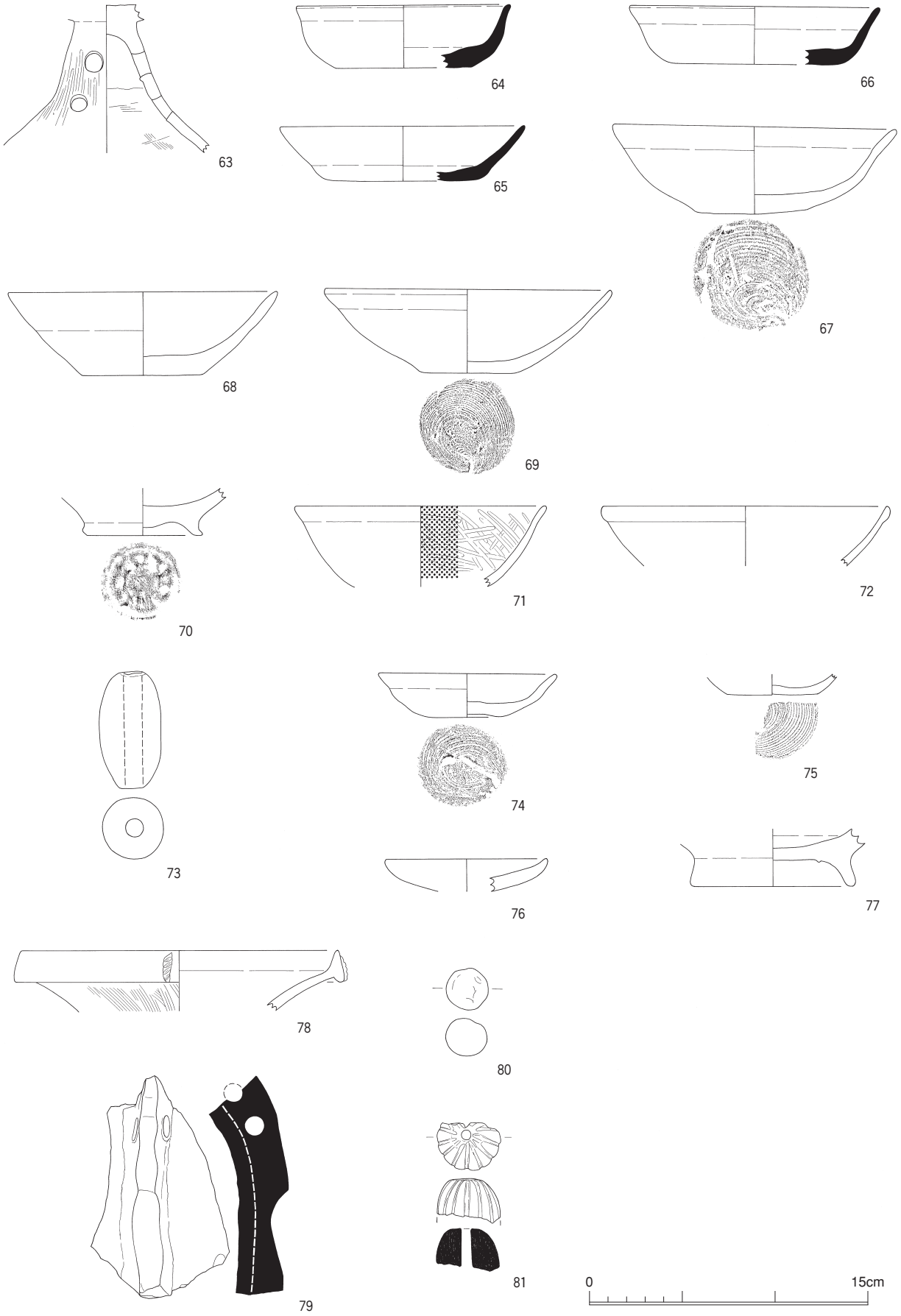
第 9 図　SE 出土遺物実測図（S＝1/3）



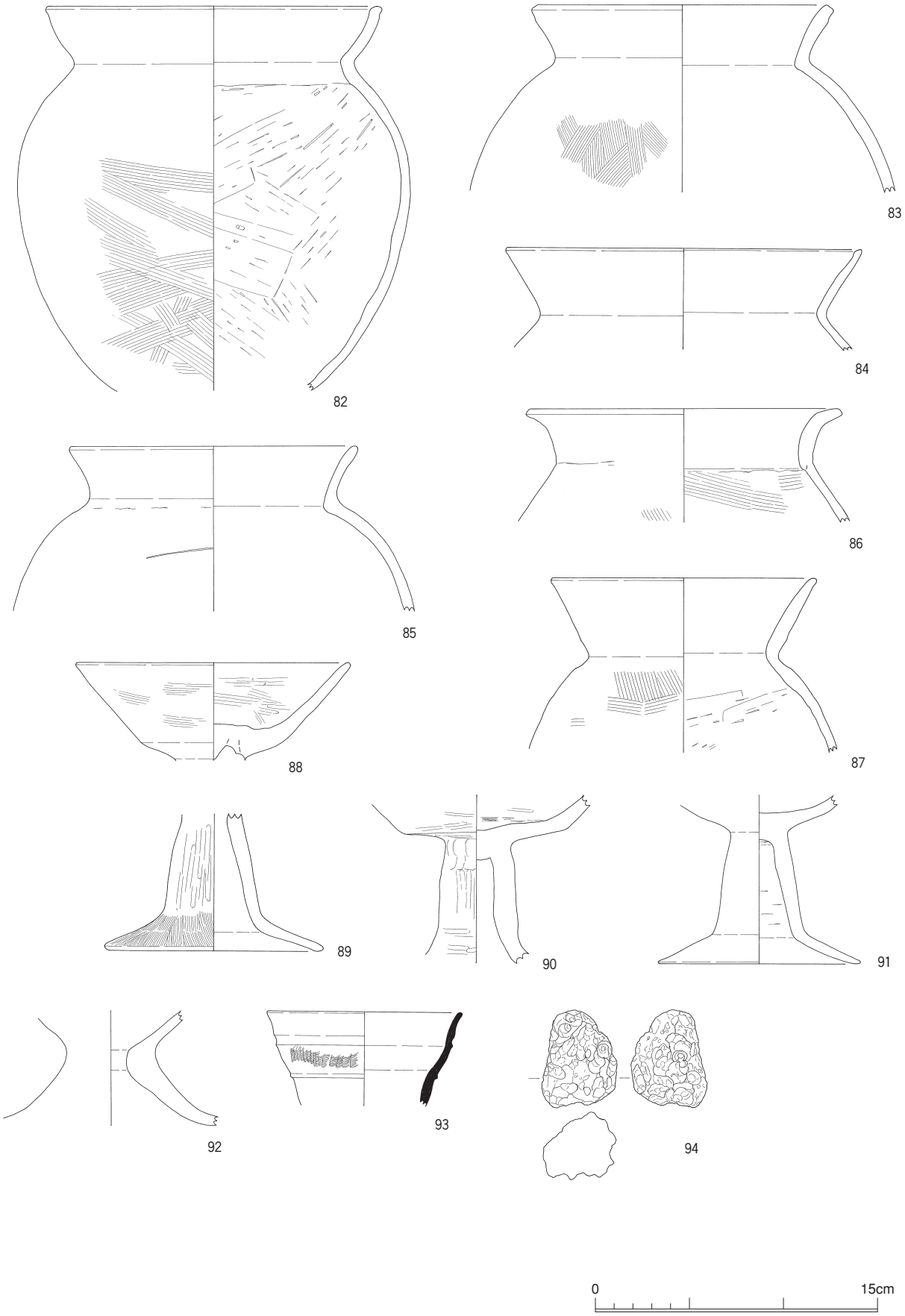
第10図　SE 出土遺物実測図（S=1/3、1/2）



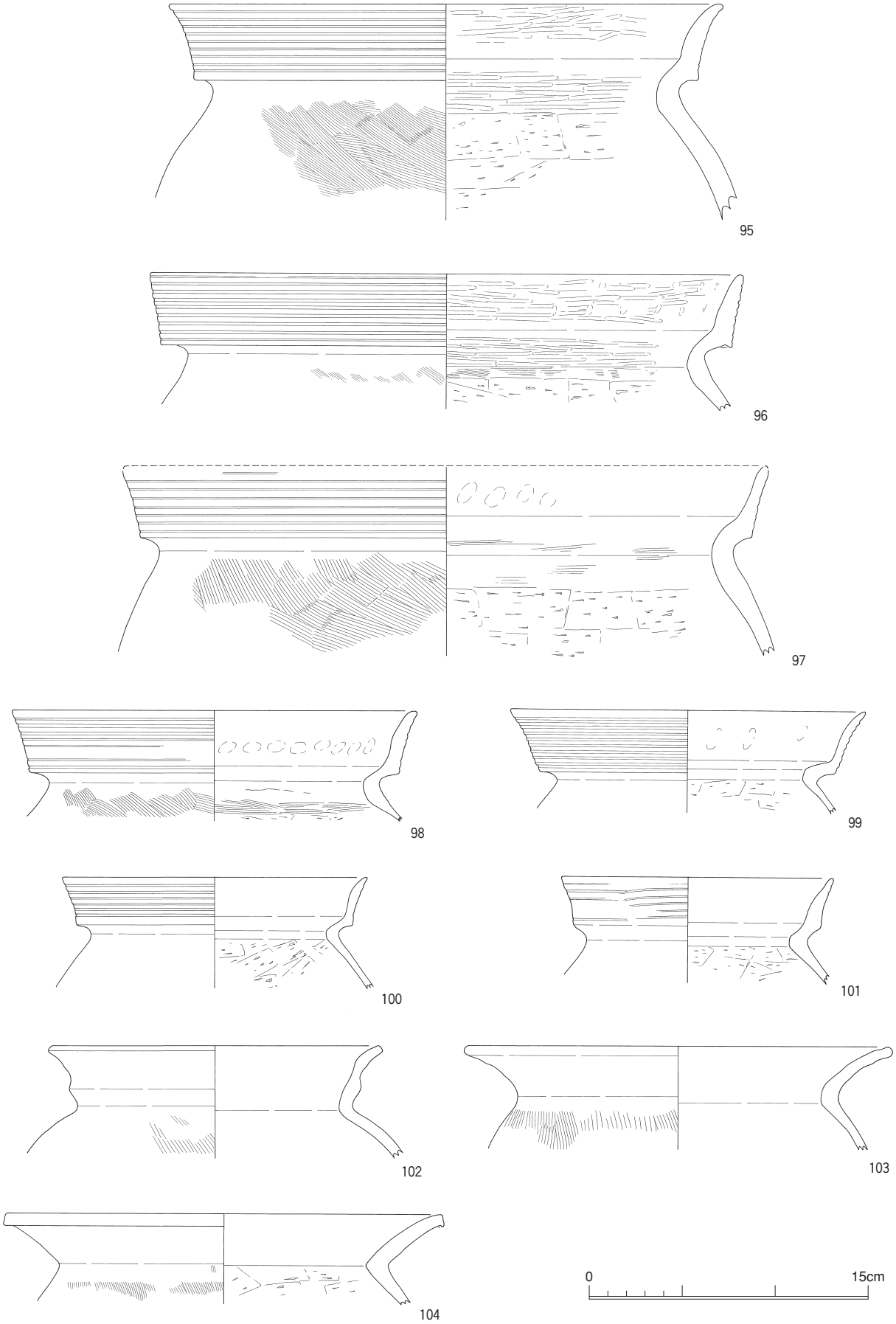
第11図　SE 出土遺物実測図（S＝1/3）



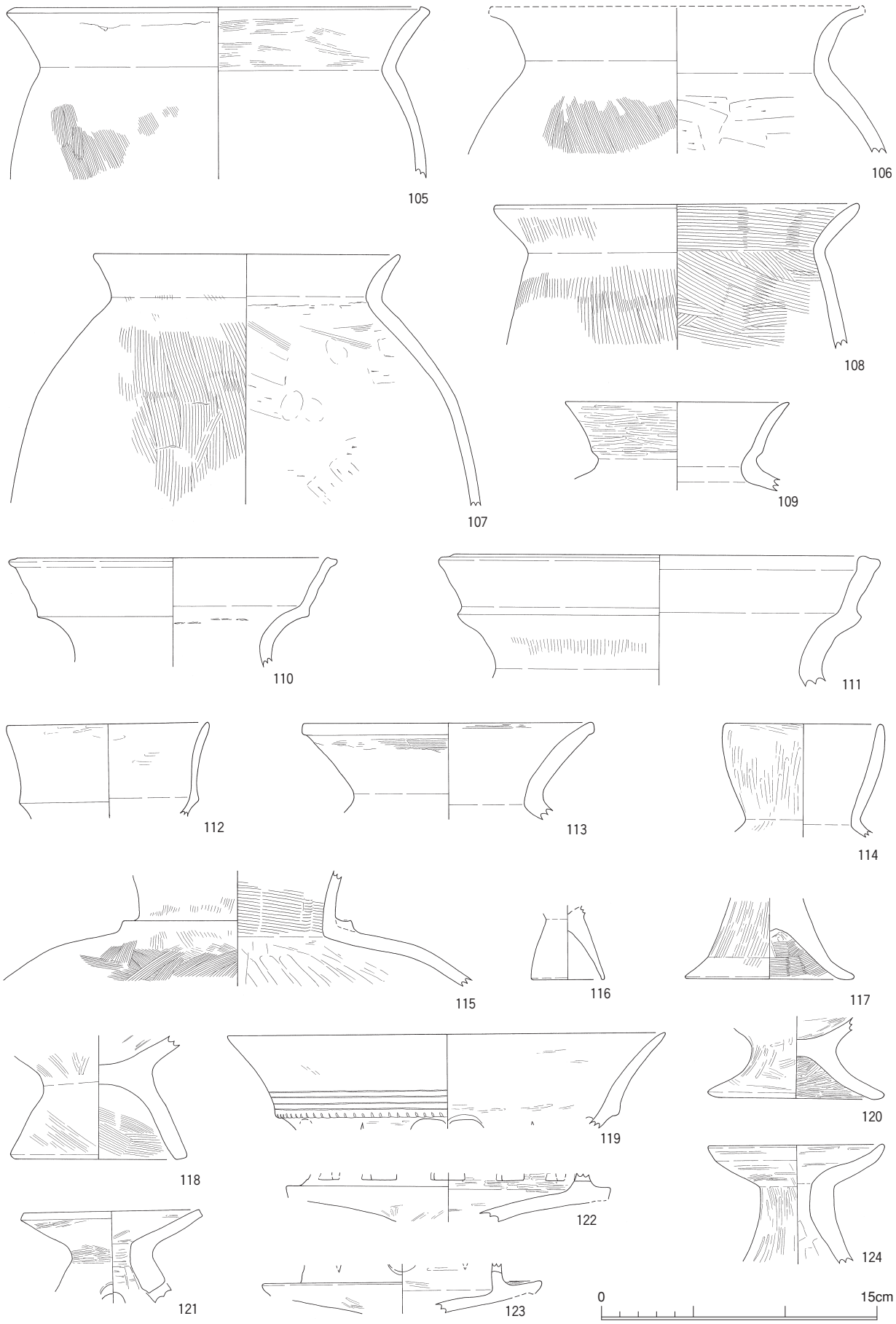
第12図　SE・SK 出土遺物実測図（S＝1/3）



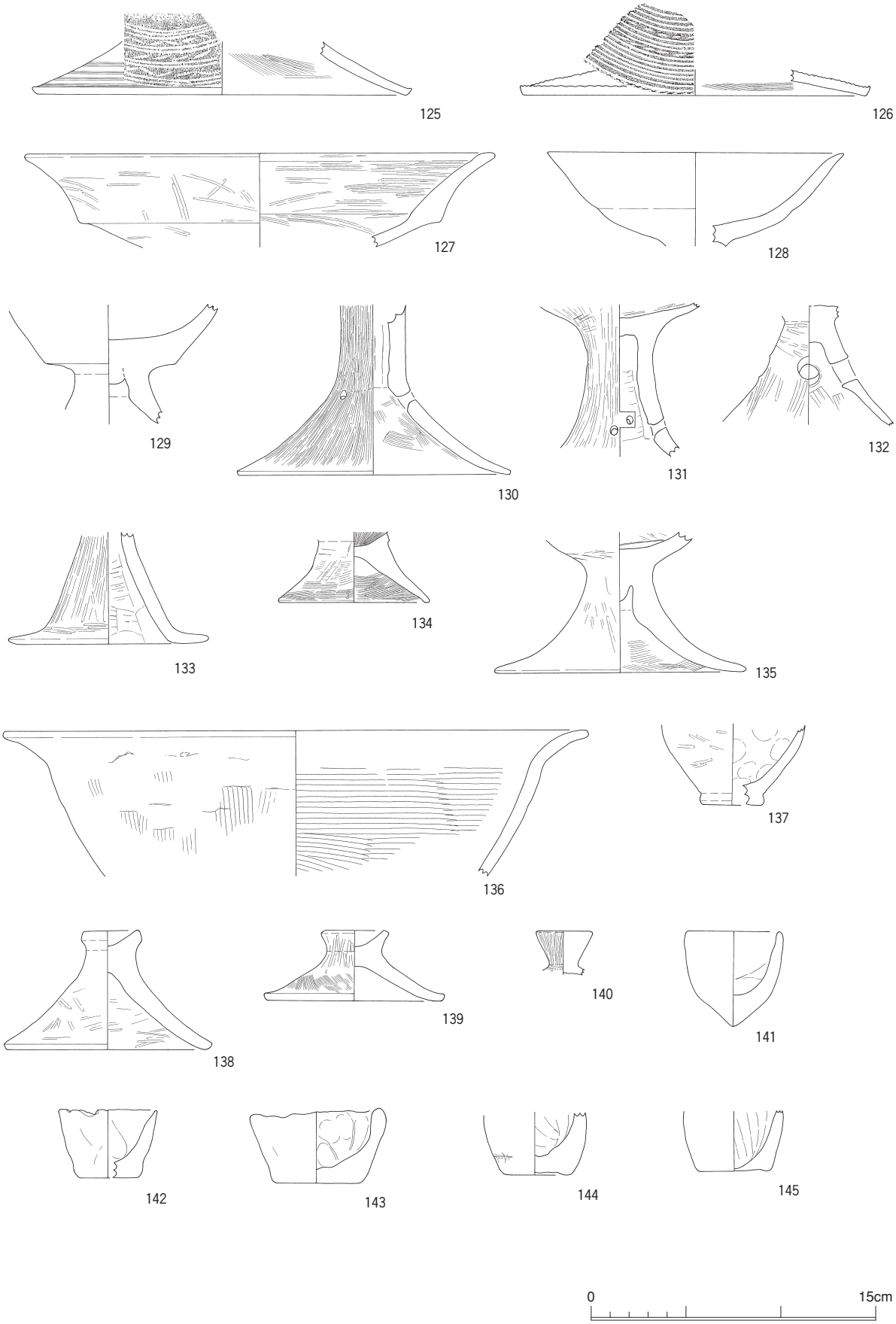
第13図　SK 出土遺物実測図（S＝1/3）



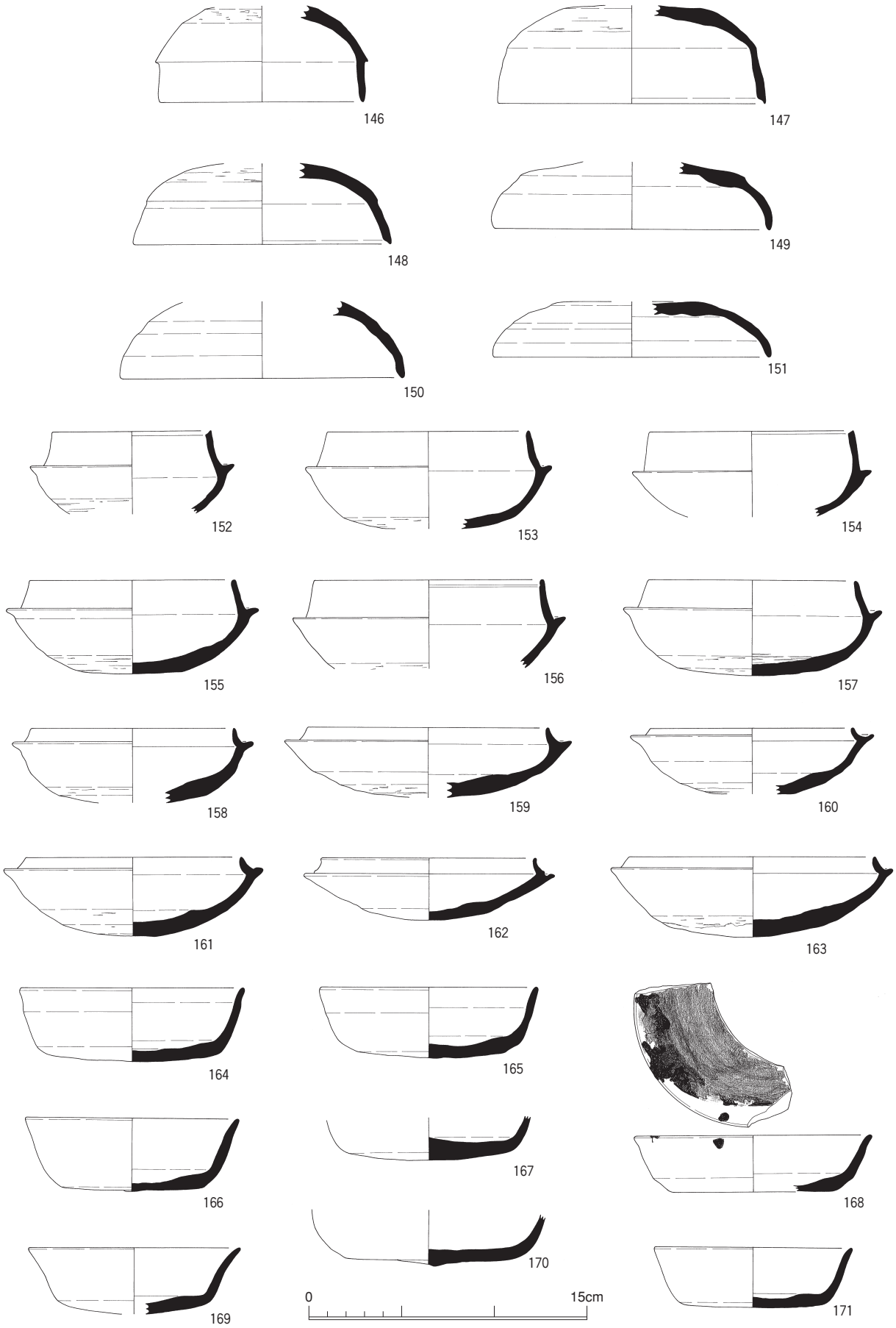
第14図　SD 出土遺物実測図（S＝1/3）



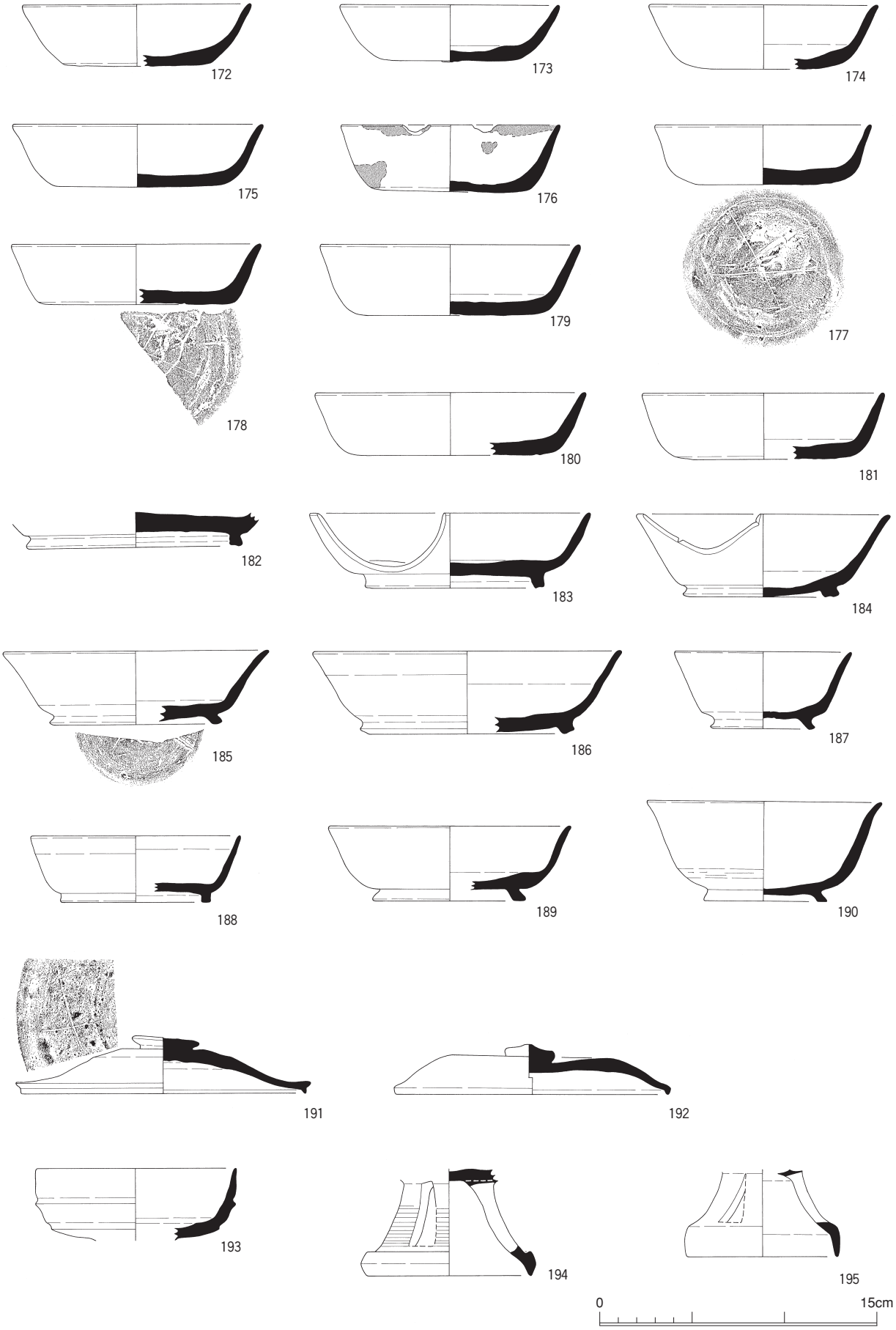
第15図　SD 出土遺物実測図（S＝1/3）



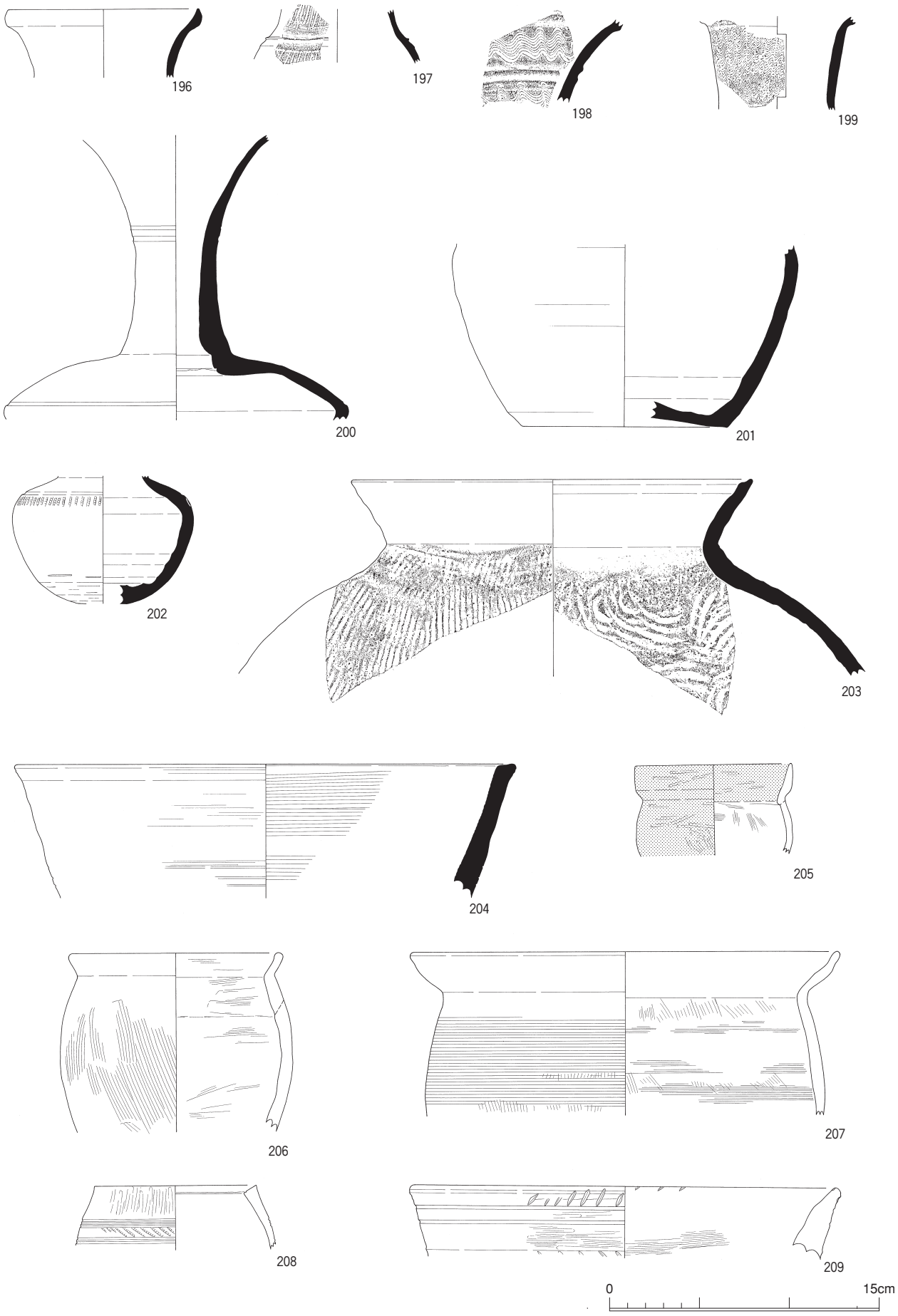
第16図　SD 出土遺物実測図（S＝1/3）



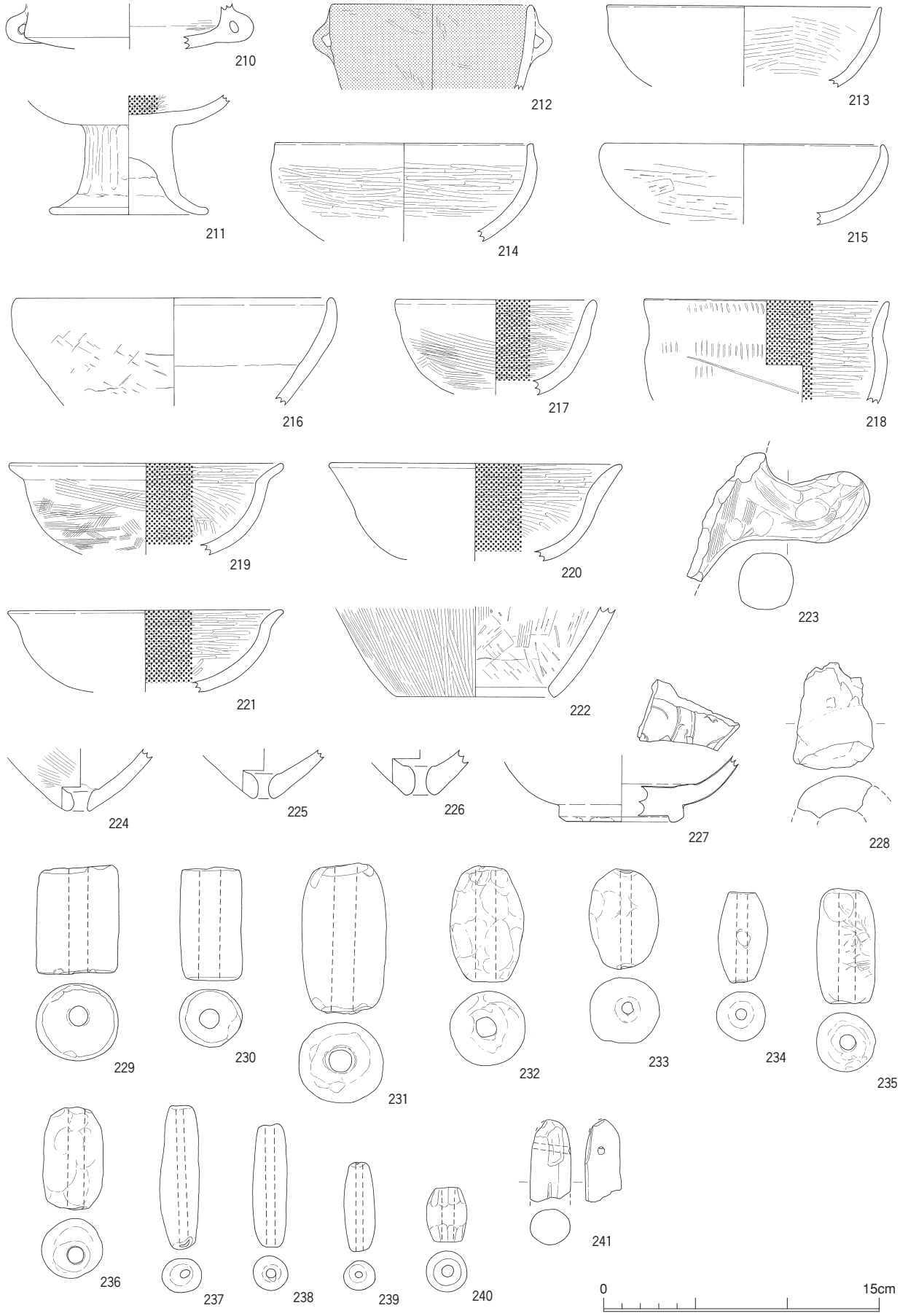
第17図　SD 出土遺物実測図（S＝1/3）



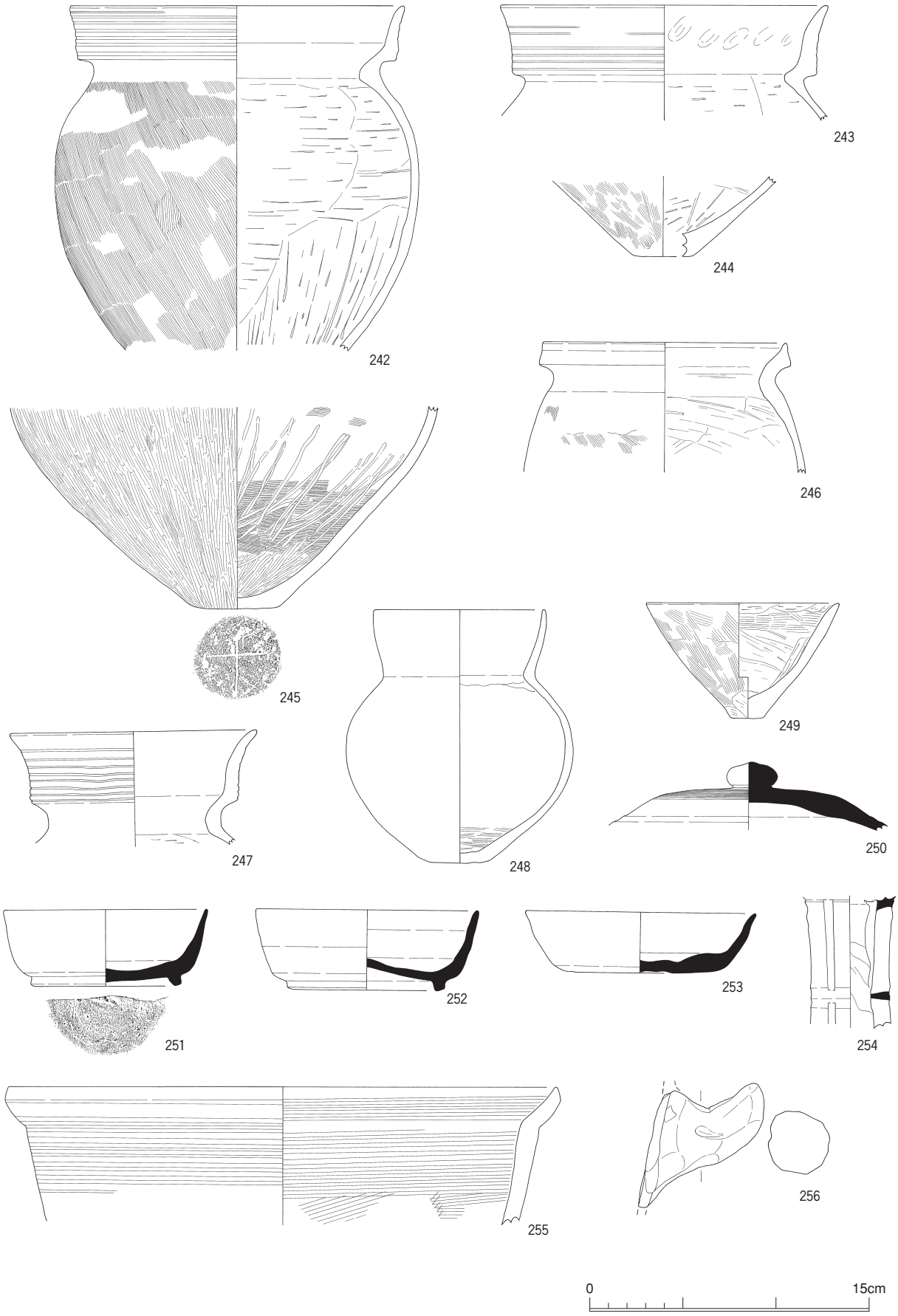
第18図　SD 出土遺物実測図（S＝1/3）



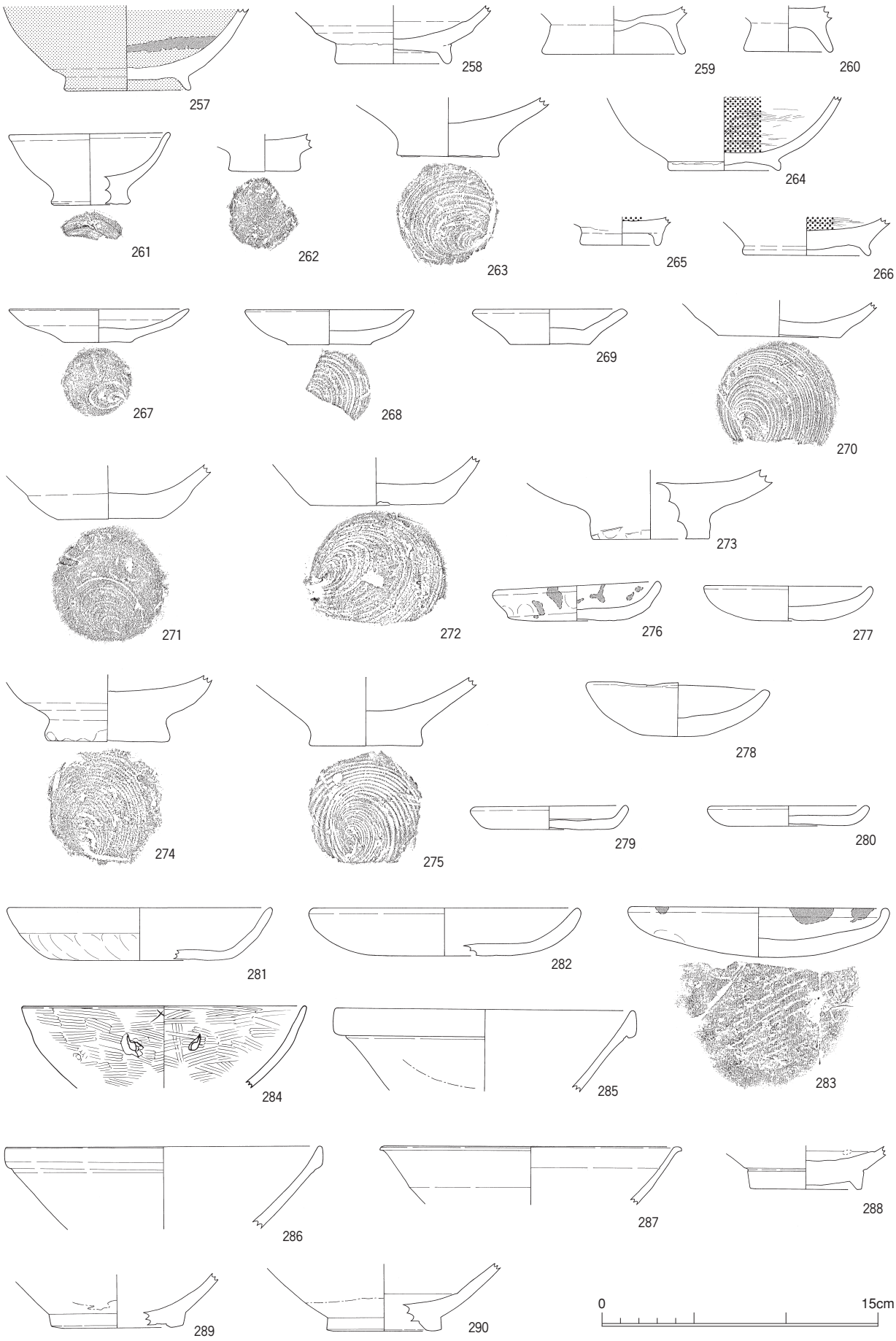
第19図　SD 出土遺物実測図（S＝1/3）



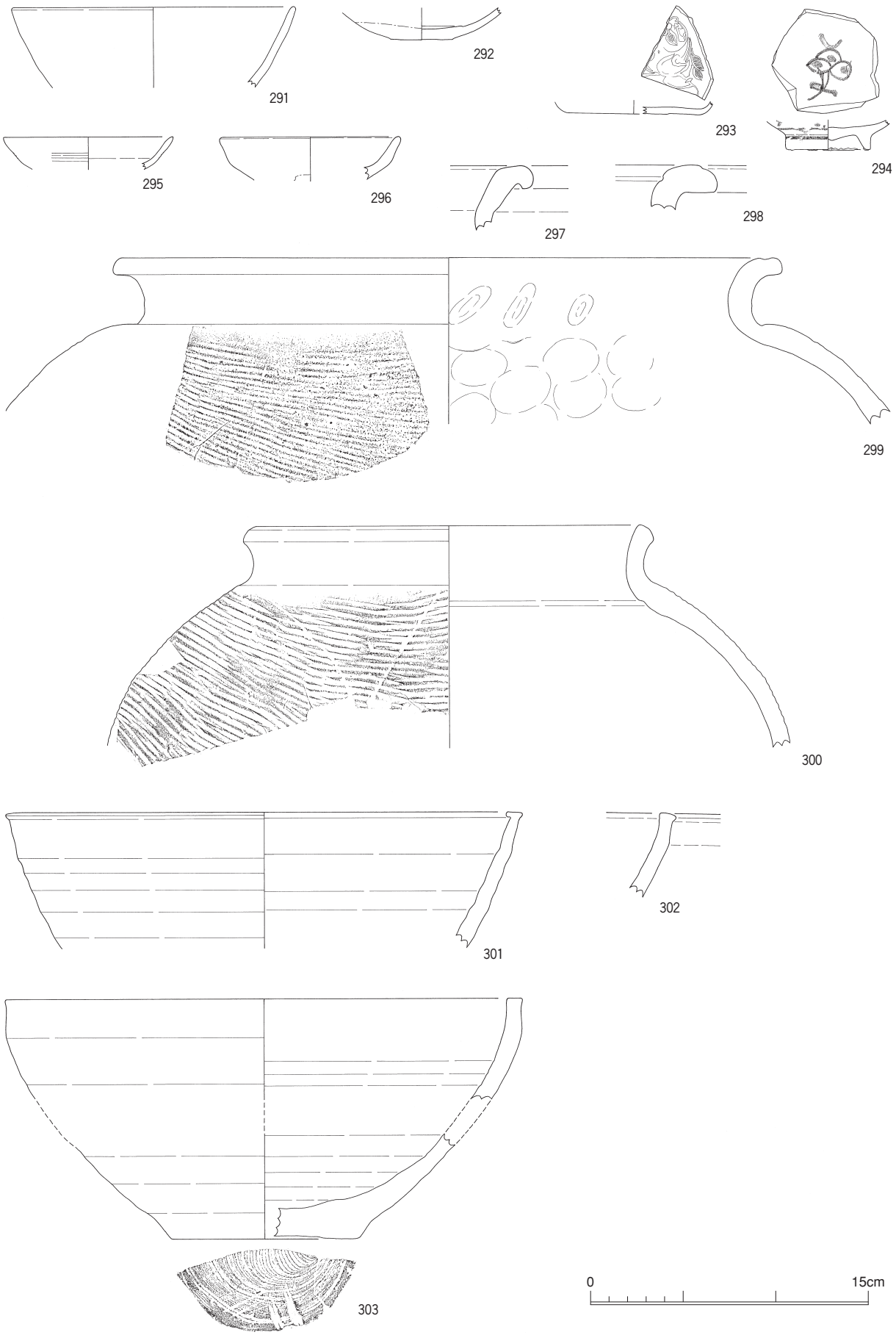
第20図　SD 出土遺物実測図（S＝1/3）



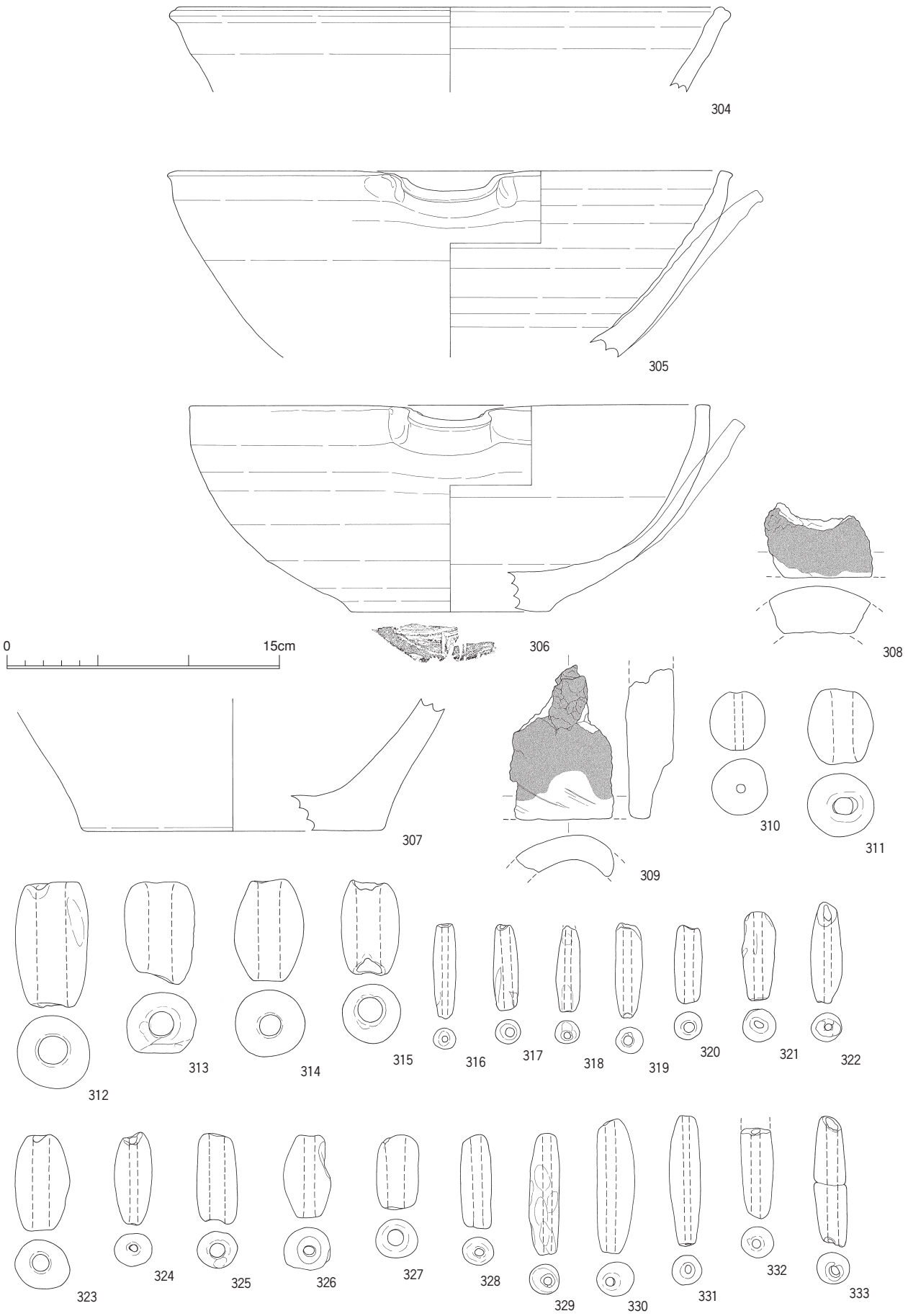
第21図　SD 出土遺物実測図（S＝1/3）



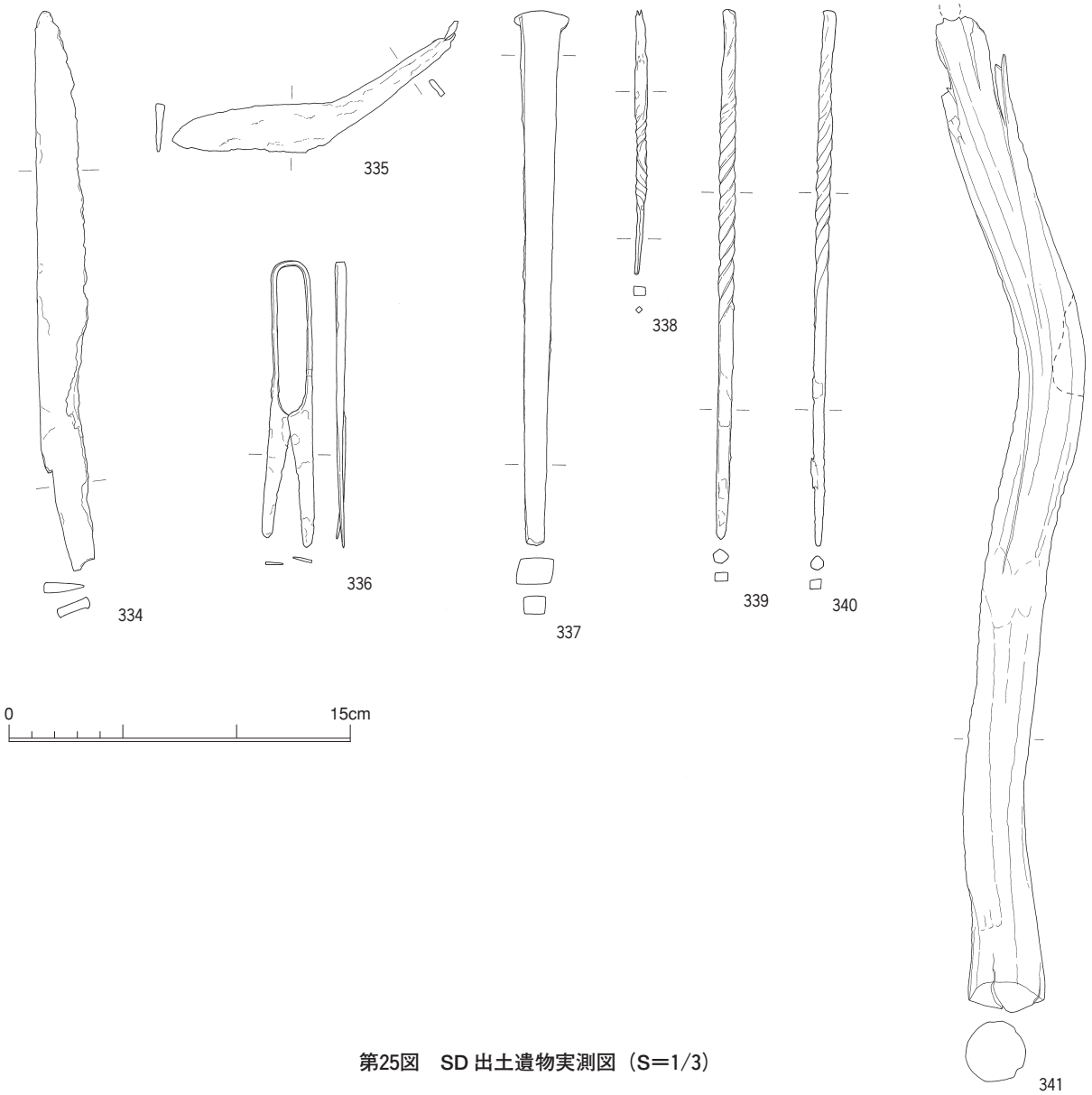
第22図　SD 出土遺物実測図（S＝1/3）



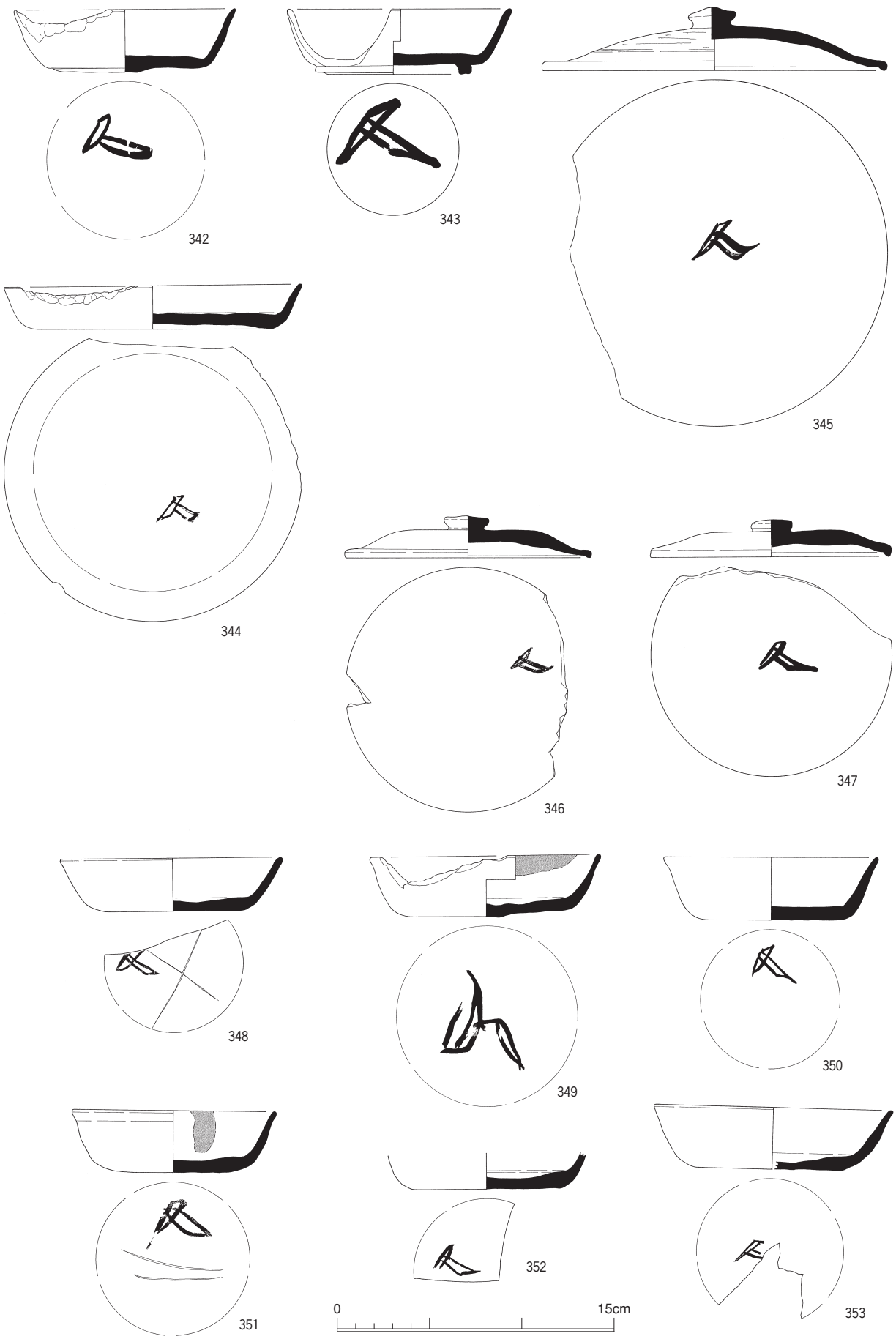
第23図　SD 出土遺物実測図（S＝1/3）



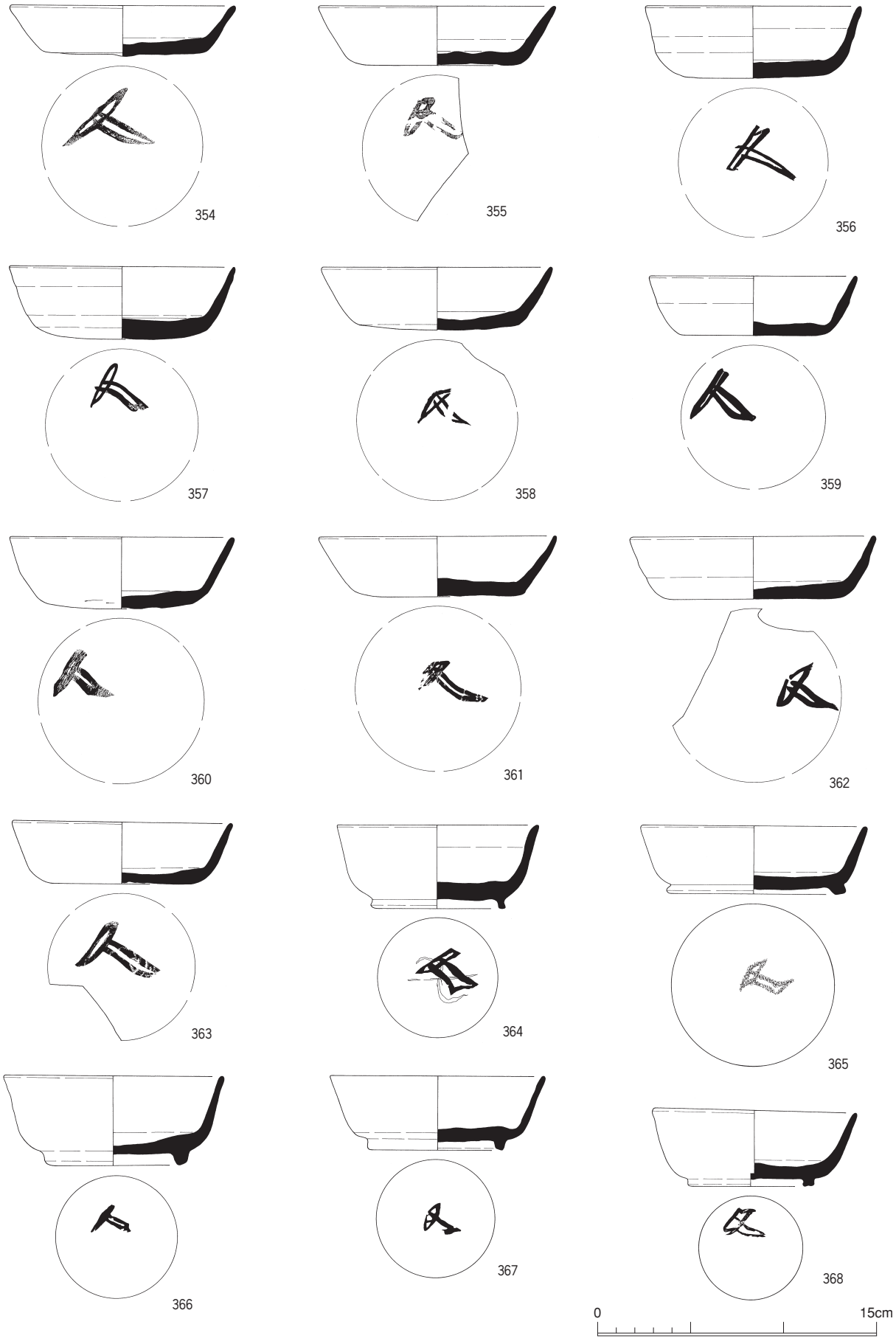
第24図　SD 出土遺物実測図（S＝1/3）



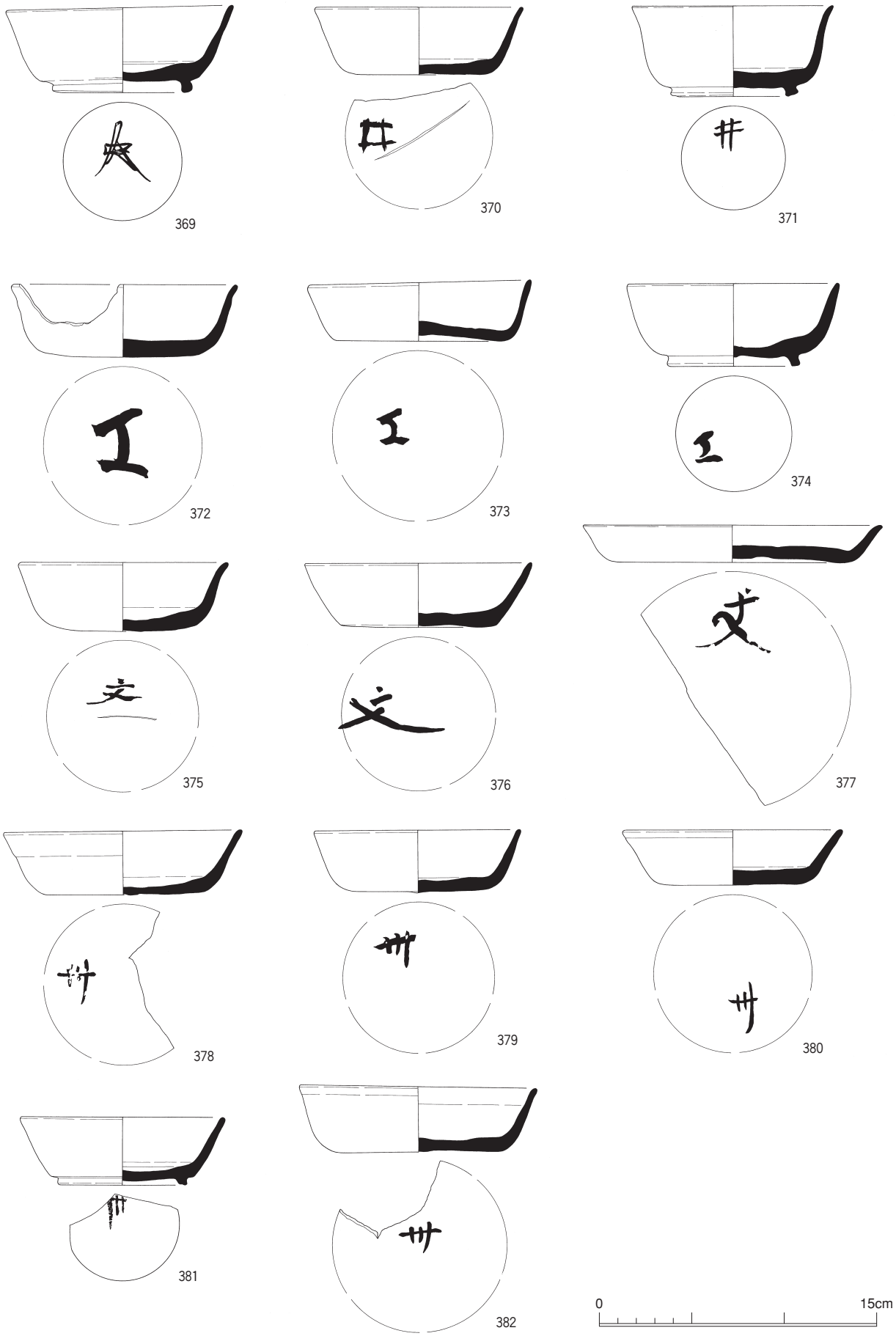
第25図　SD 出土遺物実測図（S＝1/3）



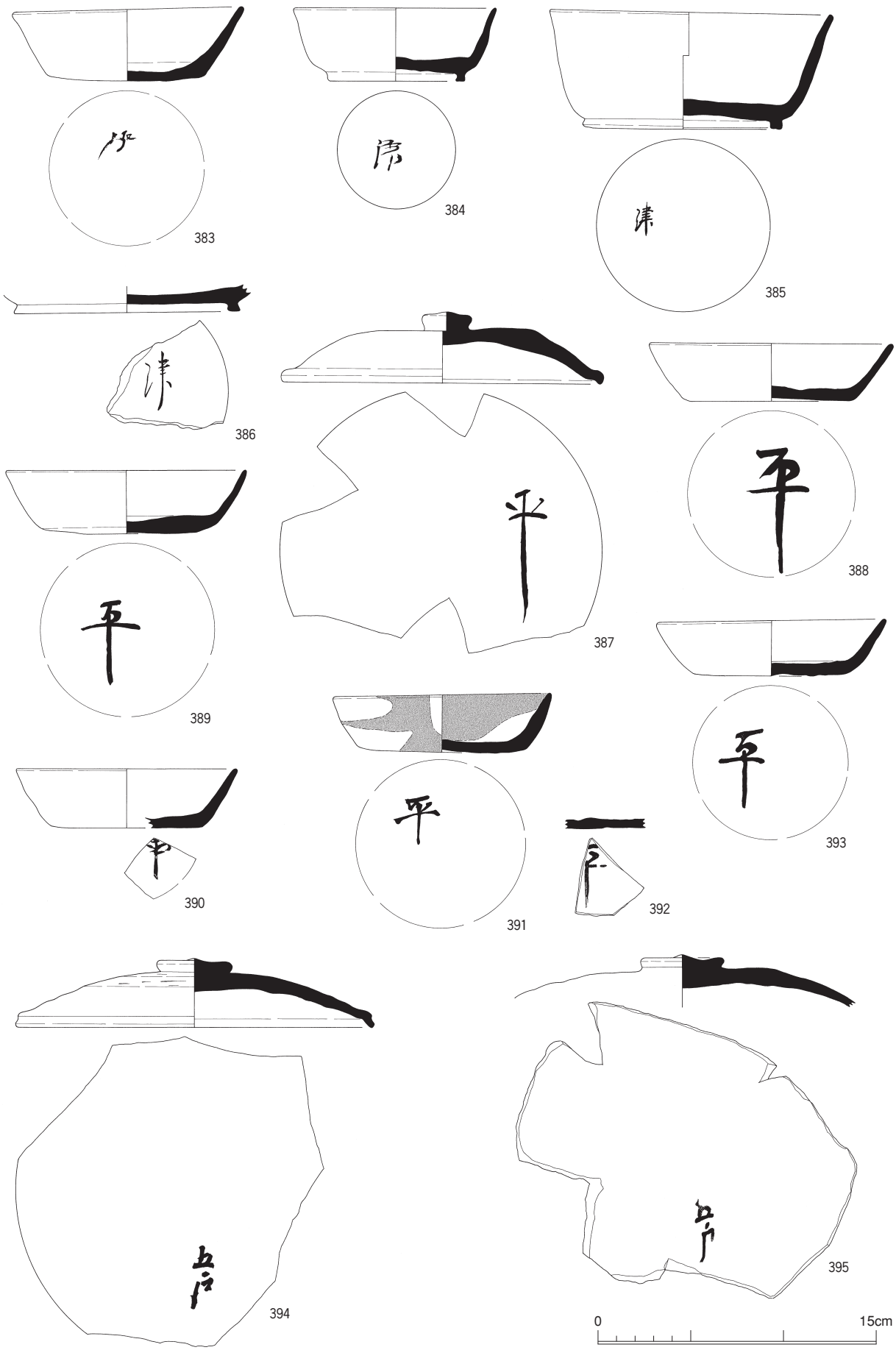
第26図　墨書土器実測図（S＝1/3）



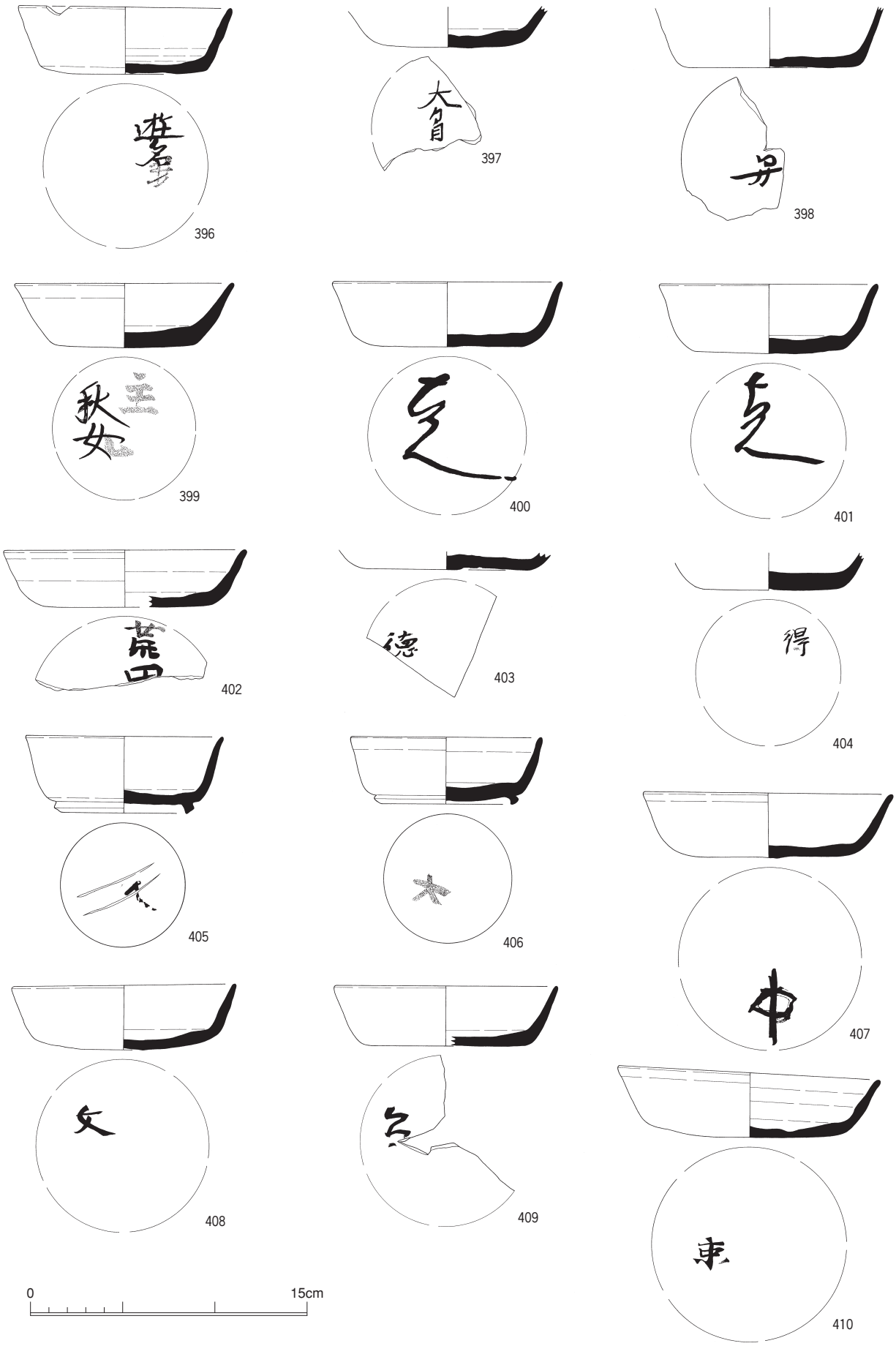
第27図　墨書土器実測図（S＝1/3）



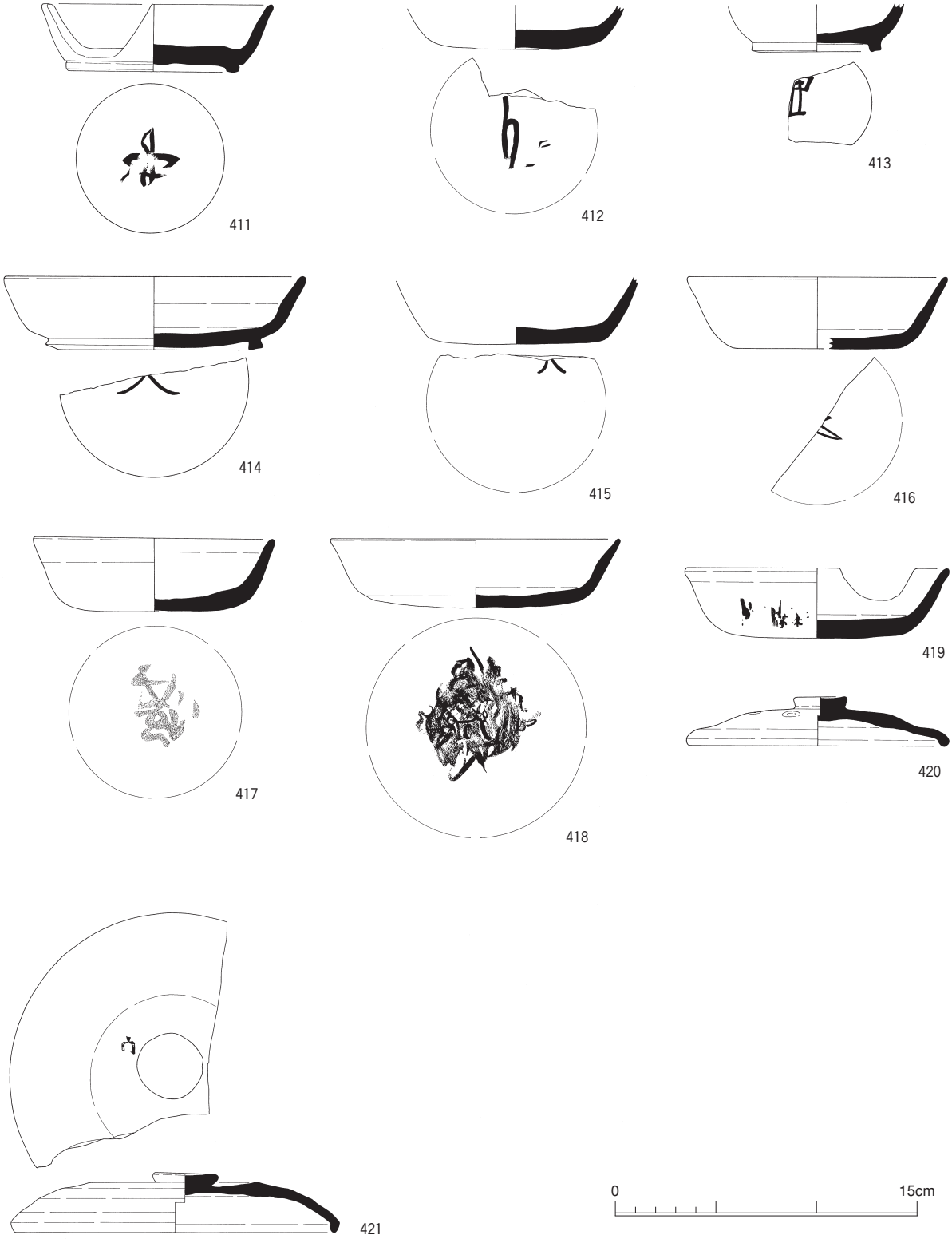
第28図　墨書土器実測図（S＝1/3）



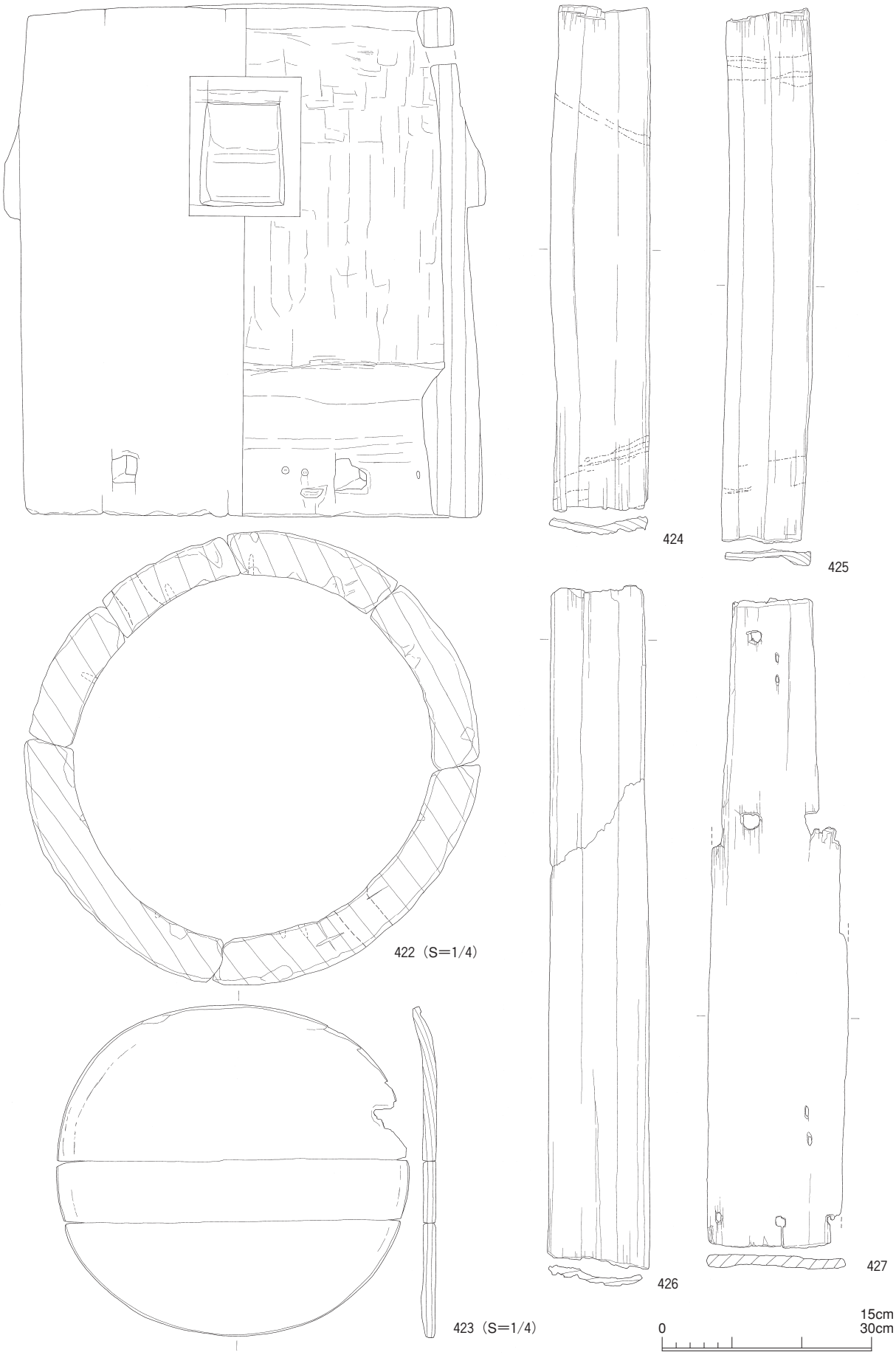
第29図　墨書土器実測図（S＝1/3）



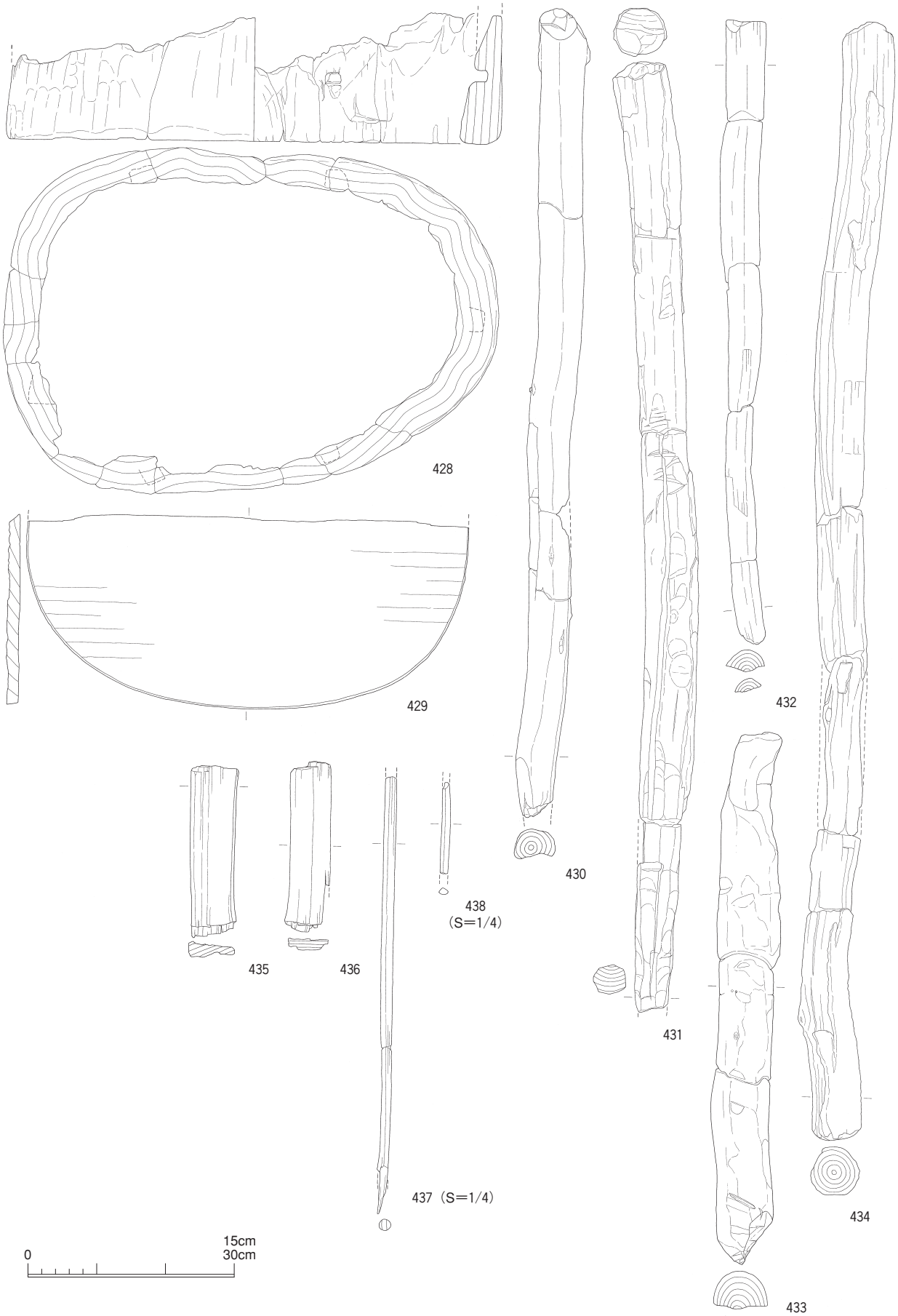
第30図　墨書土器実測図（S＝1/3）



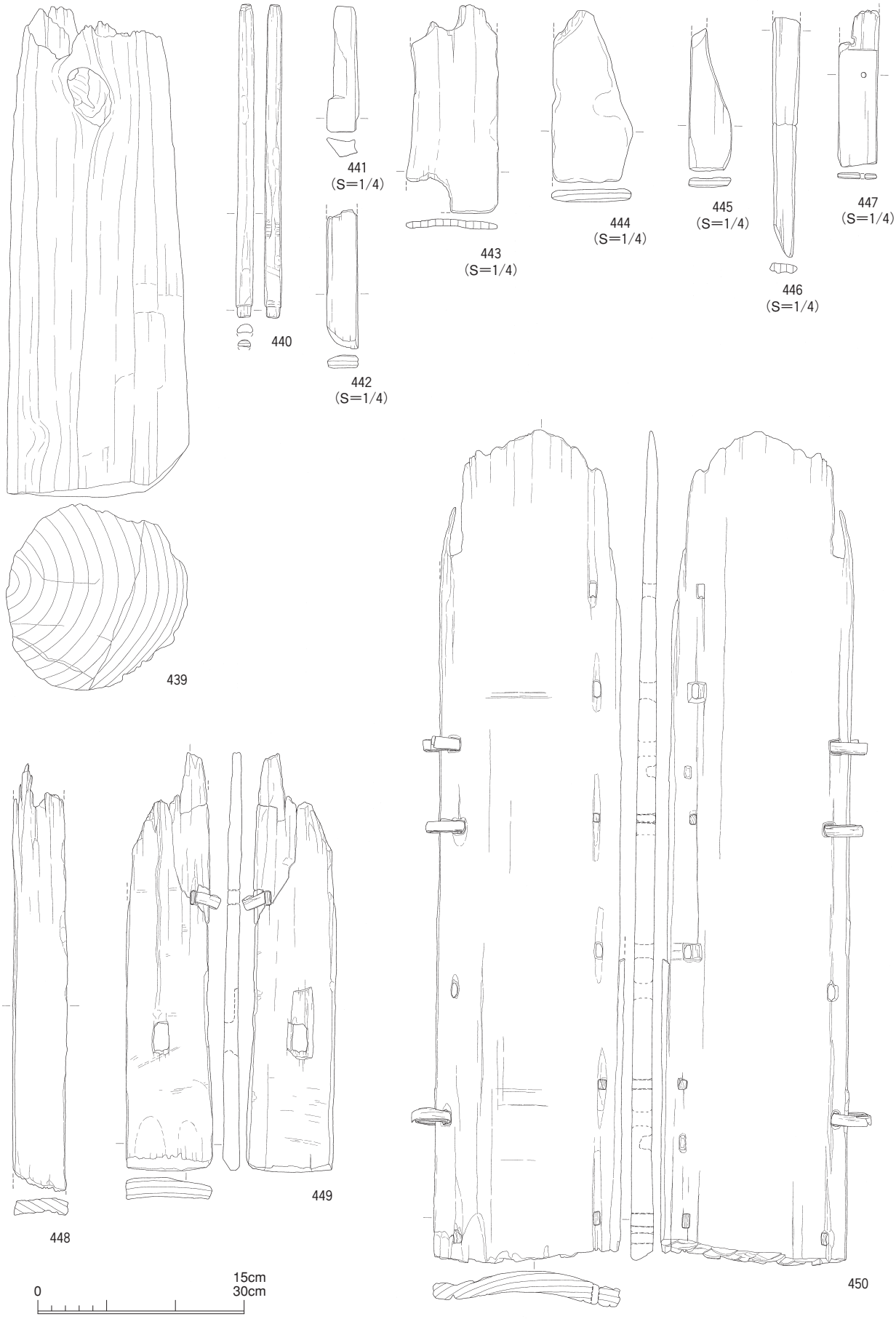
第31図　墨書土器実測図（S＝1/3）



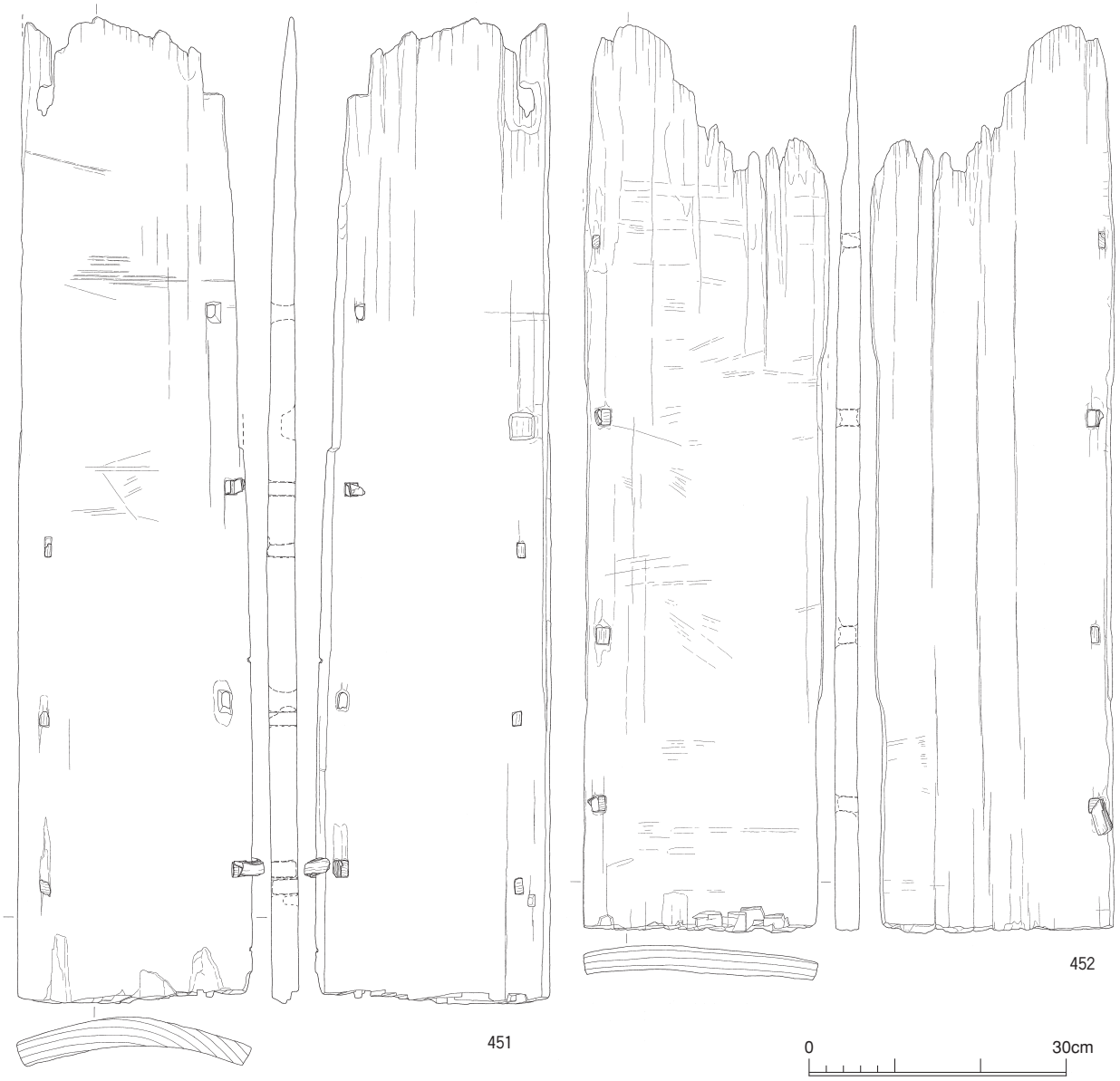
第32図　SE 出土木製品実測図（S=1/4、1/8）



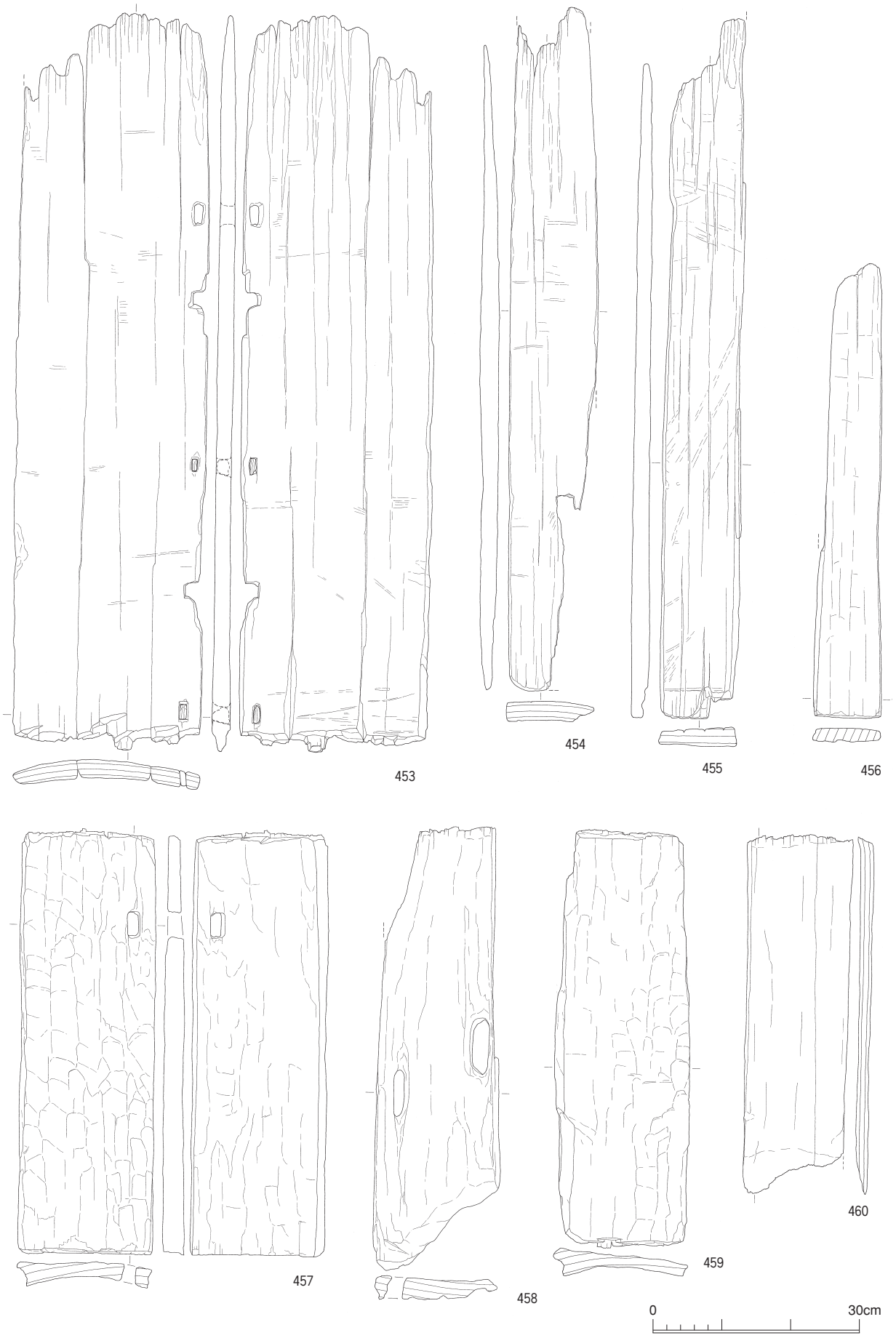
第33図　SE 出土木製品実測図（S=1/4、1/8）



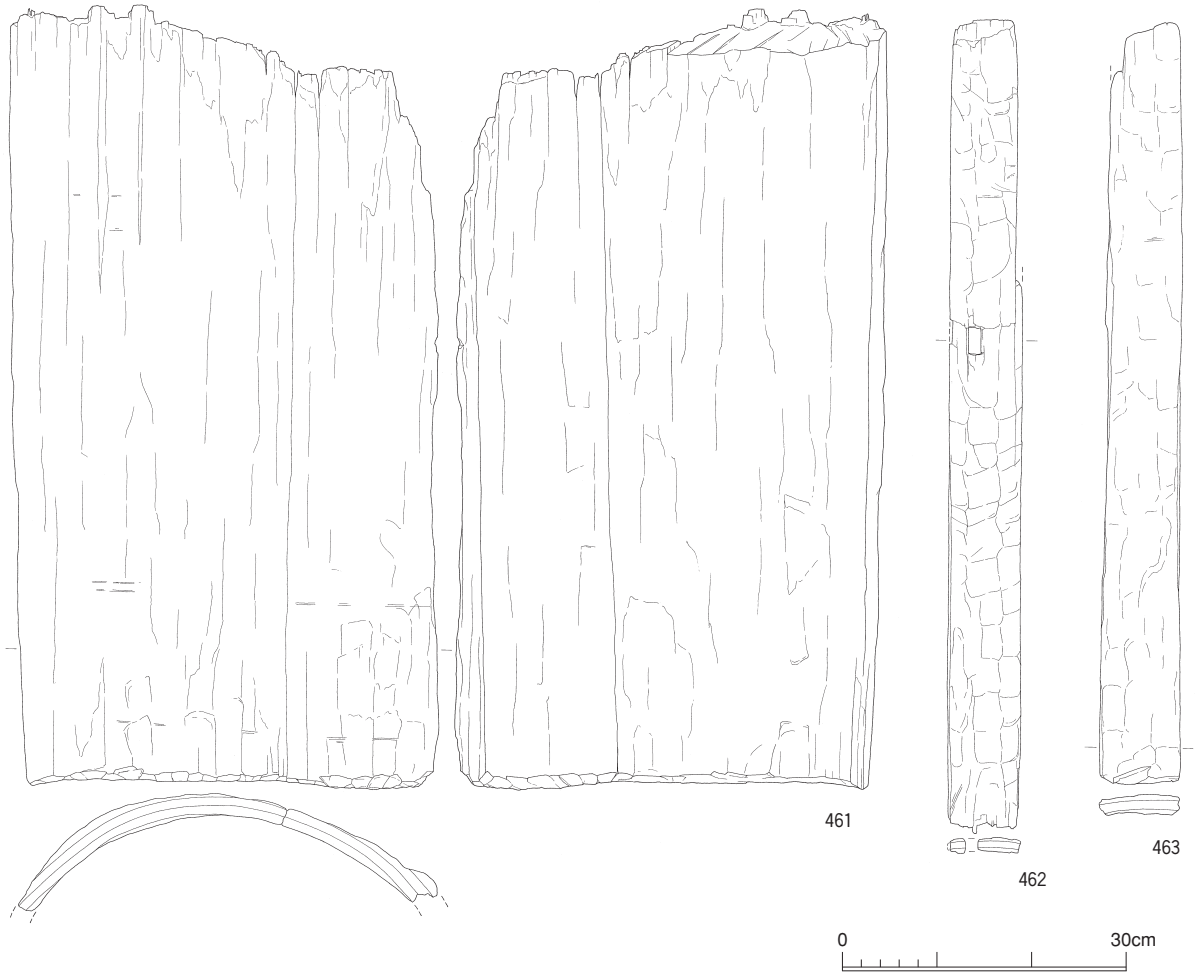
第34図　SE 出土木製品実測図（S=1/4、1/8）



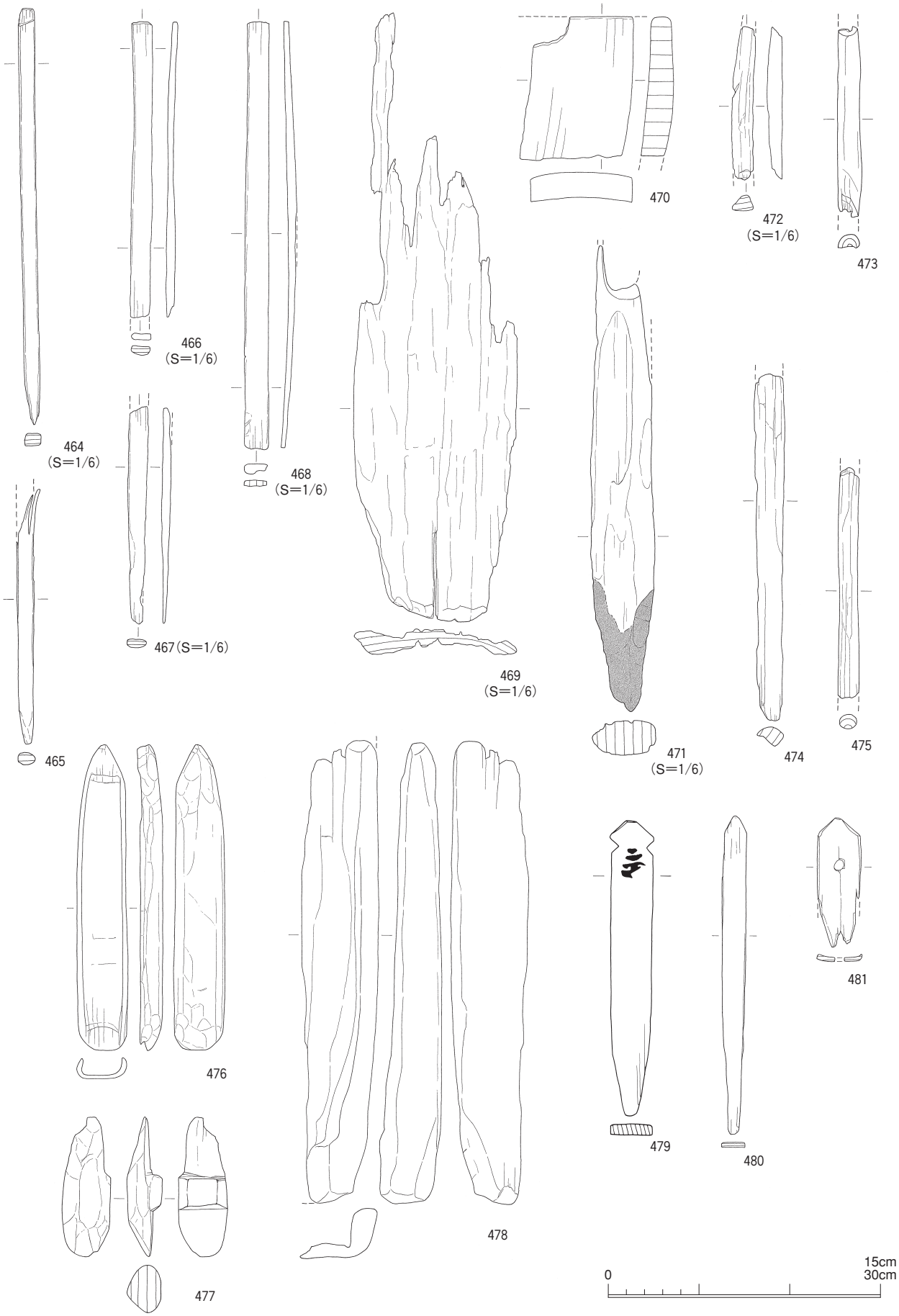
第35図　SE 出土木製品実測図（S＝1/8）



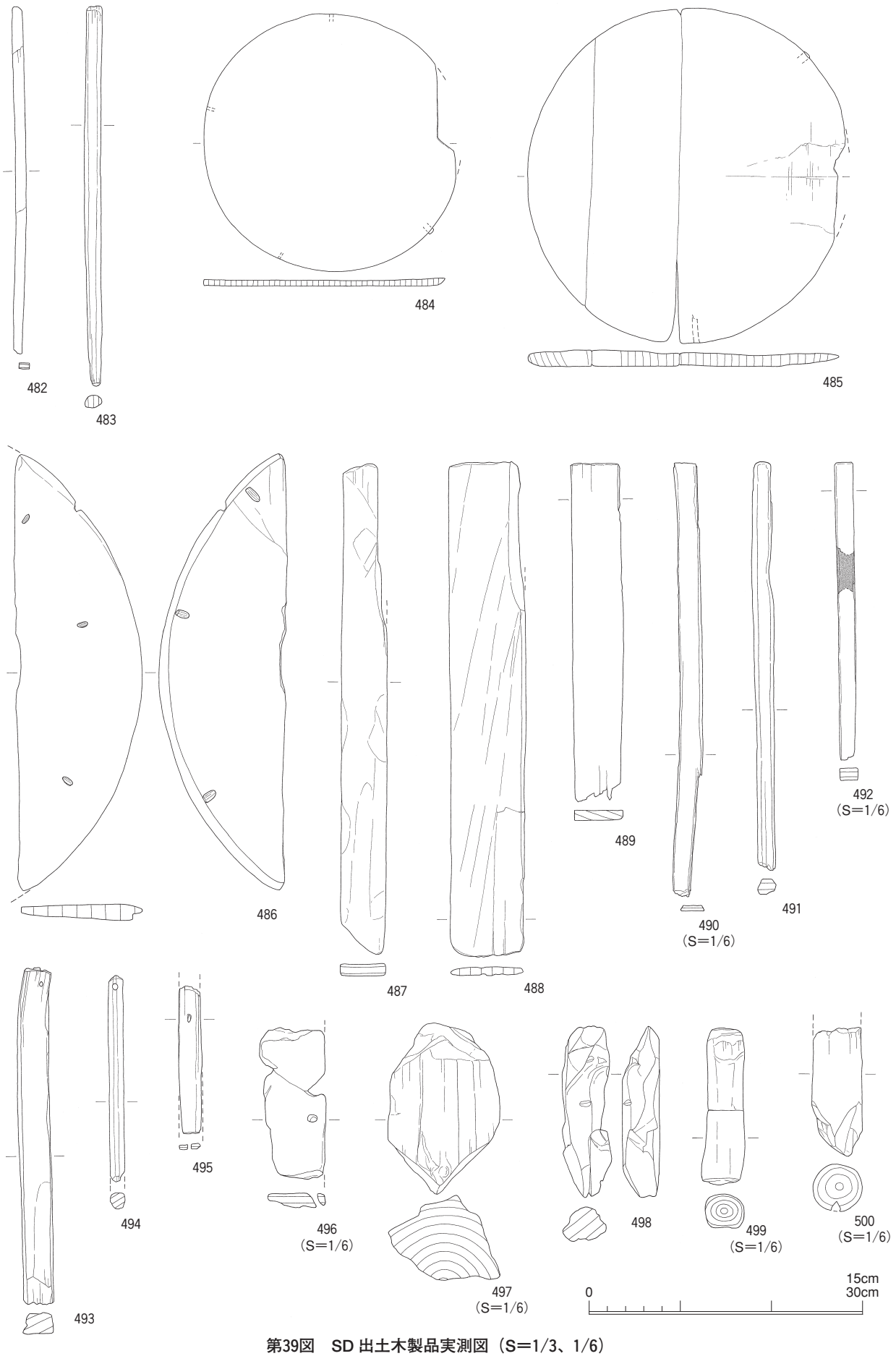
第36図　SE 出土木製品実測図（S＝1/8）



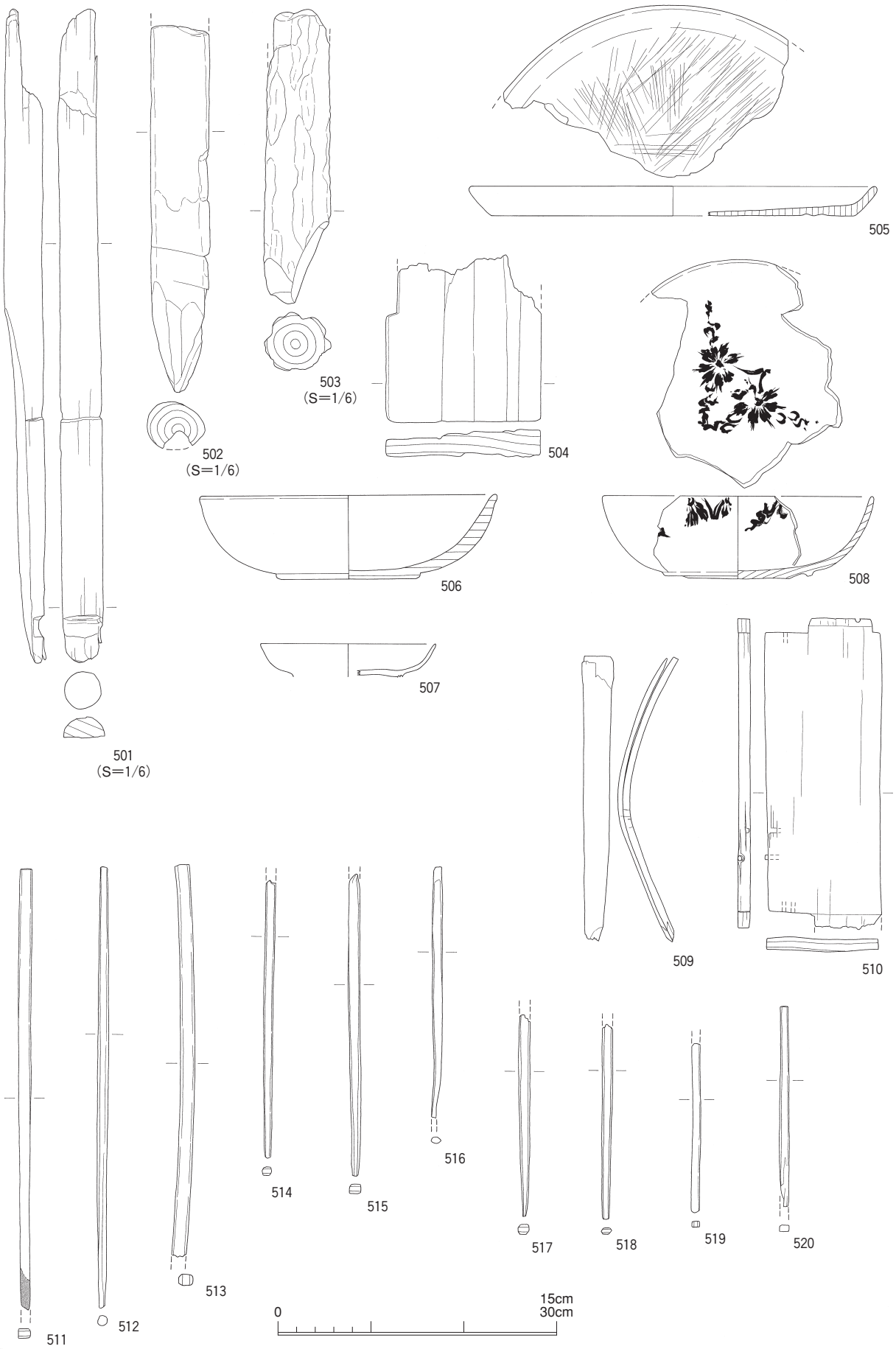
第37図　SE 出土木製品実測図（S＝1/8）



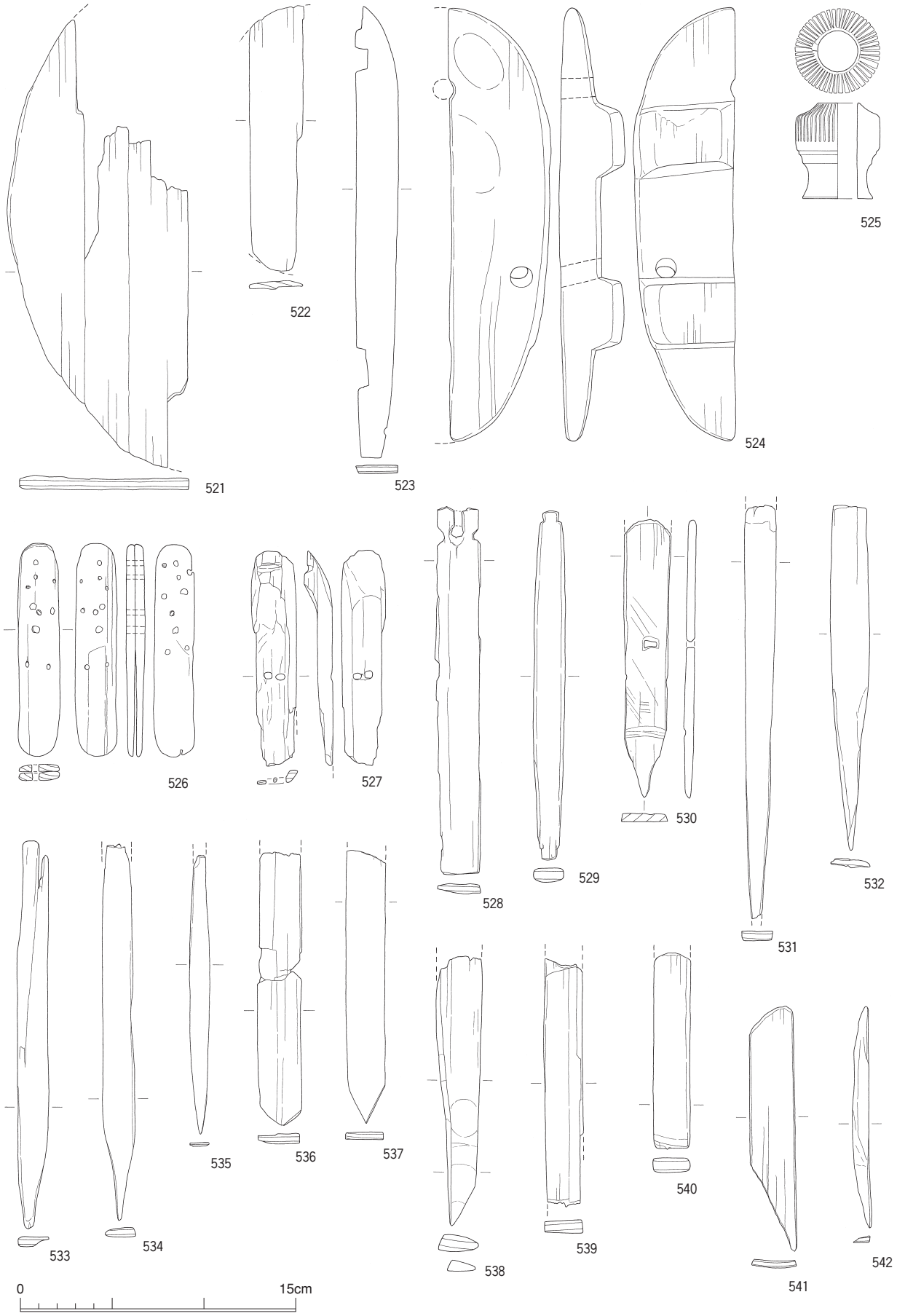
第38図　SE・SK・SD 出土木製品実測図（S=1/3、1/6）



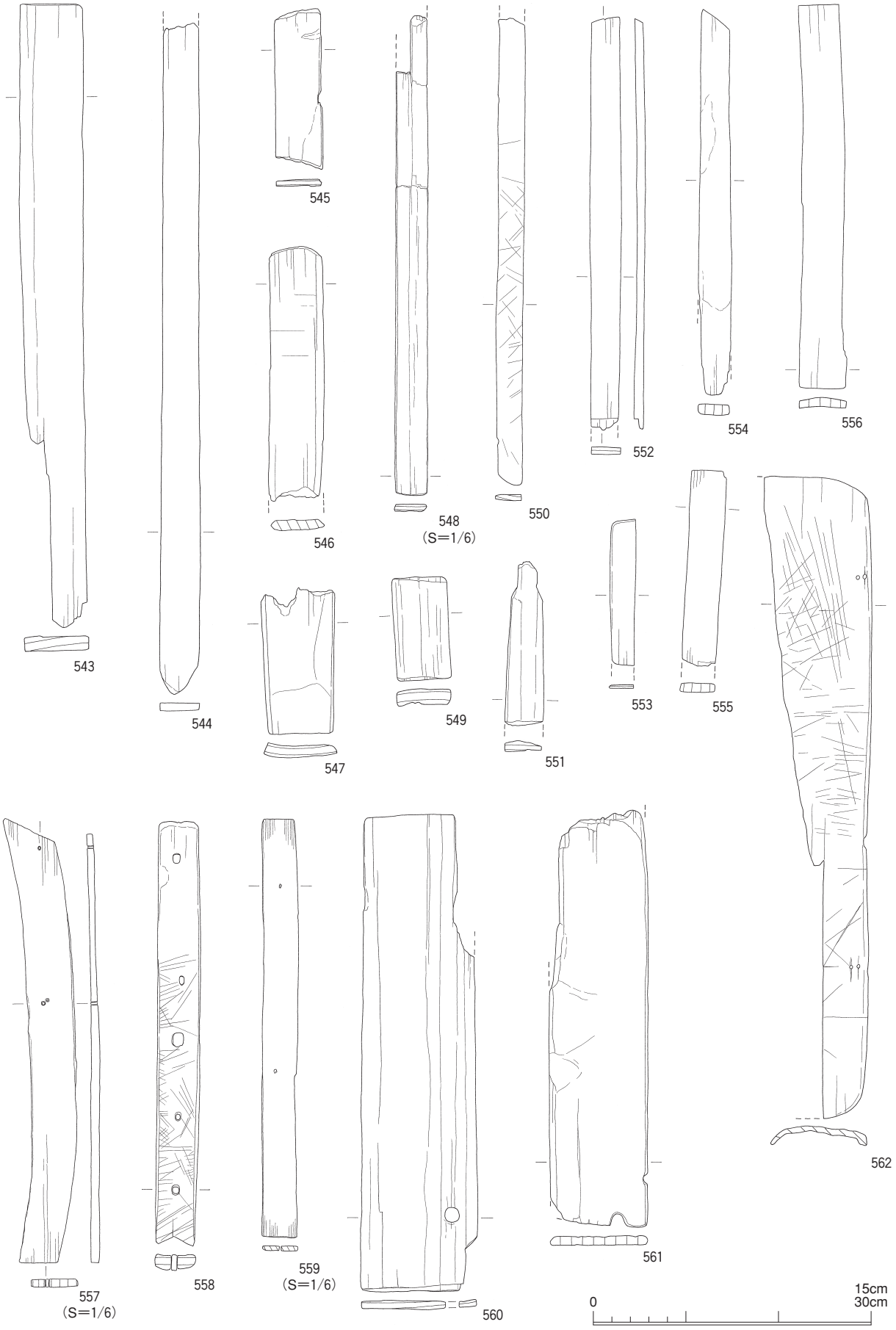
第39図　SD 出土木製品実測図（S=1/3、1/6）



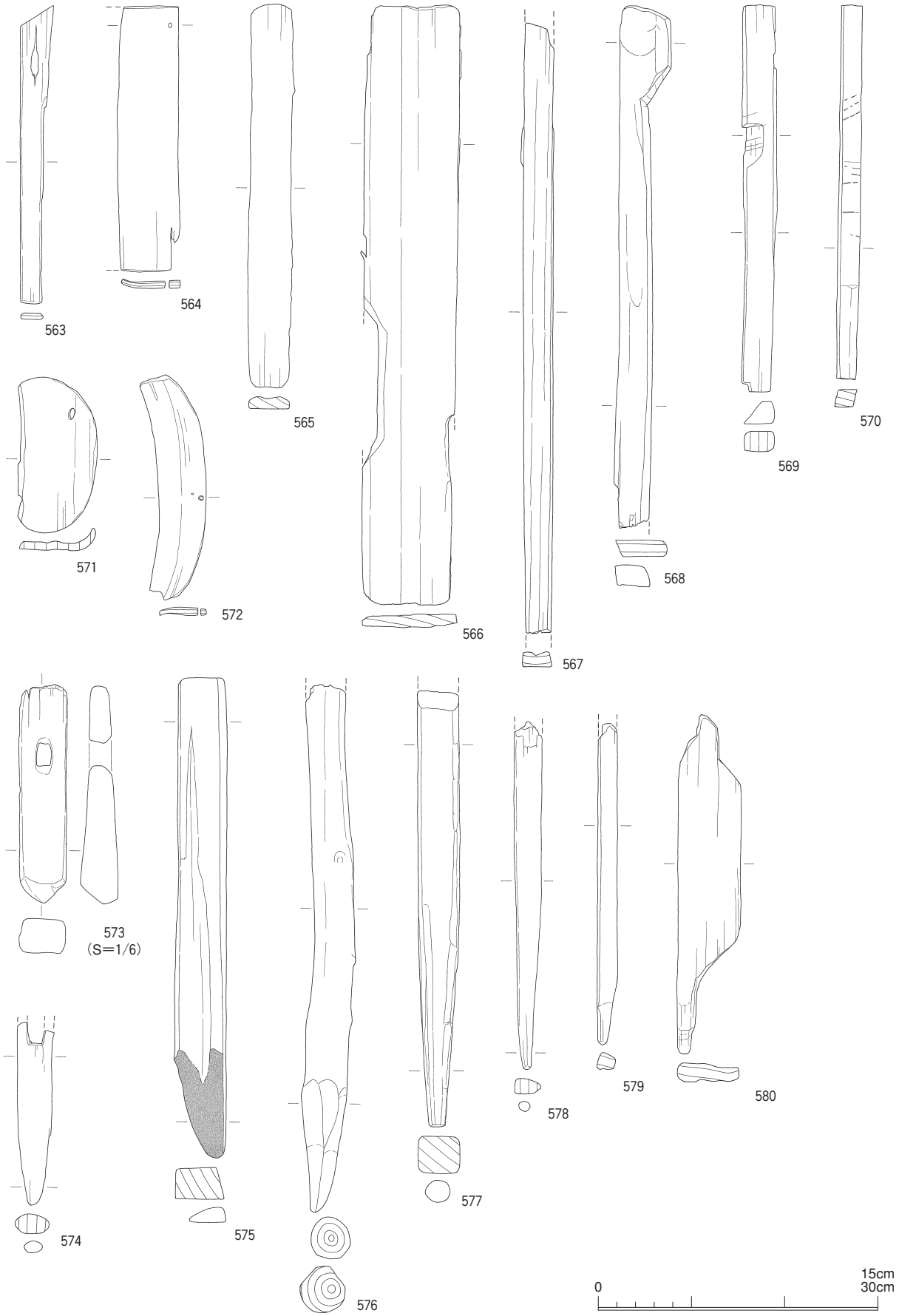
第40図　SD 出土木製品実測図（S=1/3、1/6）



第41図　SD 出土木製品実測図（S＝1/3）

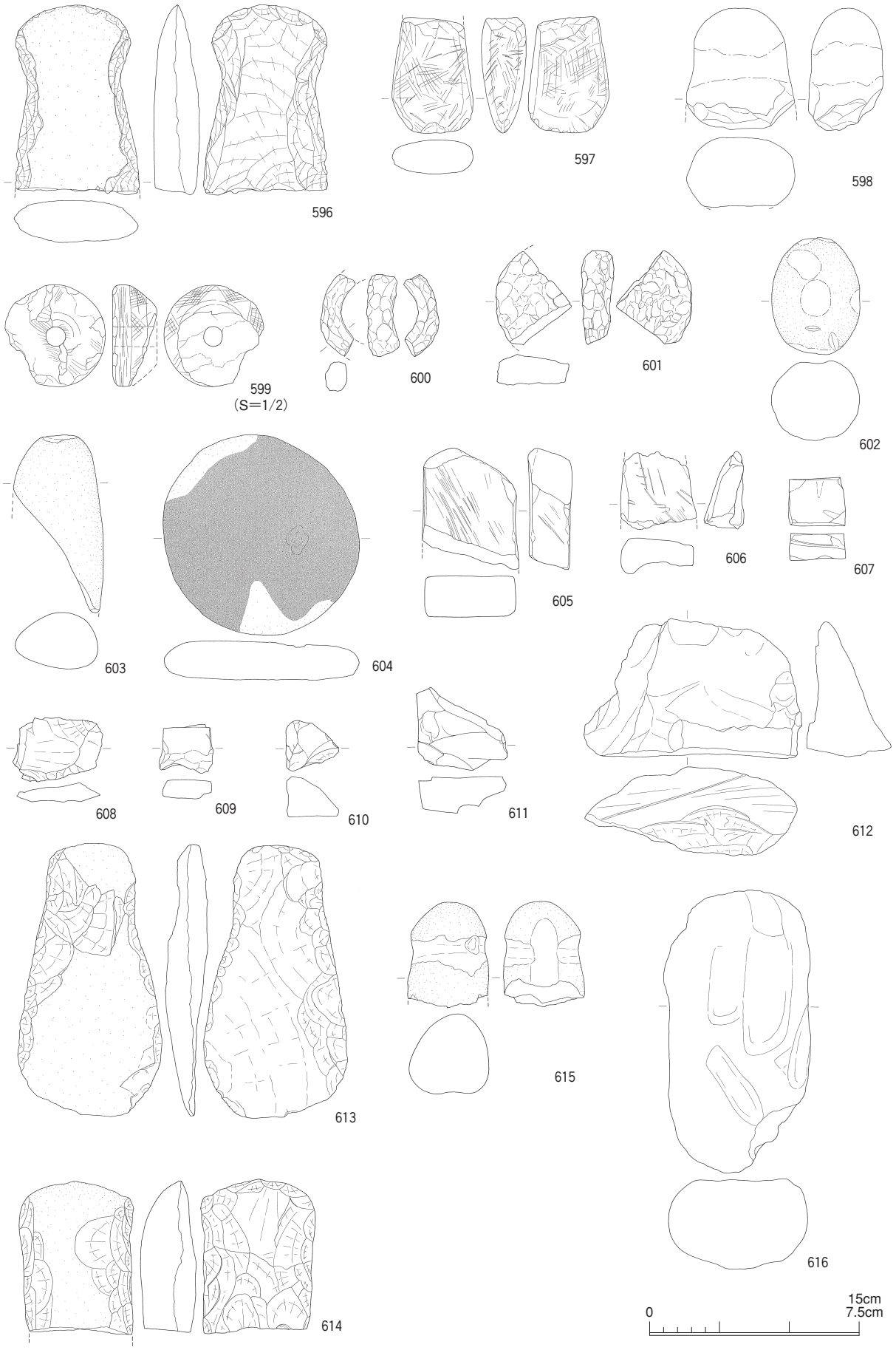


第42図　SD 出土木製品実測図（S=1/3、1/6）



第43図　SD 出土木製品実測図（S=1/3、1/6）

第44図　SE・SK・SD 出土石製品実測図（S=1/2、1/4）



第45図　SD 出土石製品実測図（S=1/2、1/4）

第３章　総括

第１節　３区についてのまとめ

弥生時代末～古墳時代初頭

この時期の遺構は、SE202、SE203、SX211、SD201、SD222などがある。建物関連の明確な遺構はなく、平成14年度に調査を行った寺中Ｂ遺跡・桂寺中遺跡で弥生時代終末の竪穴建物や掘立柱建物などが確認された集落の南東端と考えられる。

古墳時代

建物関連ではST01から古墳時代初頭の遺物が出土している。井戸では古墳時代初頭のSE206、古墳時代前期のSE205、SE208、土坑では古墳時代前期末～中期頃の土器が出土したSK226、溝ではSD201、SD222などである。しかし、集落の中心となるような建物跡は未検出である。平成14年度調査区では竪穴建物や掘立柱建物などが検出されており、さらに平成16年度に調査を行った、３区より西に位置する西調査区からも古墳時代の掘立柱建物や布堀建物、平地式建物跡が検出されていることから、古墳時代においても３区はSD201を東端とする集落の外れに位置すると考えられる。

古代

SE201、SE204、SK208、SK211、SD201、SD222などの遺構が該当する。平成14年度調査区で建物跡や庇付建物が１棟、区画溝などが検出されていることから集落の東端になると考えられる。

SD201は石川県調査区から続く古代の河道跡であるが、３区で出土した墨書土器は２区よりも少なくなっており、４区に入ると極少量となる。SD222出土の権状錘の出土から考えて、11世紀後半頃においても権を使用する機関が存在していたと想定される。

中世

SD202、SD222などがある。SD202は平成16年度調査区の東調査区でも検出されているので、区画溝のような性格であったのかもしれない。その他は明確な遺構は検出されていないが、SD222出土の白磁や珠洲焼などの陶磁器類をはじめとする土師器皿・金属製品など様々な生活用品の出土から平成14年度調査区で検出されている掘立柱建物などがある集落の南東端と想定できよう。

まとめ

３区は各時期をとおして平成14年度調査区で見つかった集落の縁辺部であったと推定される。弥生時代末～奈良・平安時代にかけてはSD201沿いに井戸が多く掘削されている。川近くの低い土地のほうが帯水層まで近く、掘削作業が容易だったのかもしれない。出土遺物から見るとSD201・SD222・SE204から舟形が出土しているので、水辺の祭祀を行っていたと考えられる。また、漁撈具としてSE206（古墳時代前期頃）からヤスが出土している。ヤスは小型の刺突具で柄に装着し使用する。アグ（かえり）があることから中型魚を捕獲する際に使用したと考えられる。川で漁をするときに使用したのであろう。SD222からヤマトシジミの殻に混ざってコタマガイという海辺で採取される貝が出土していることから、弥生末～中世にかけて畝田・寺中遺跡では海や川の貝を食べ、出土した骨からウシやウマ、イヌなどの動物が身近にいたことがうかがわれる。SD201の底からは大量の土器の細片が出土していることから、廃棄の場であったと考えられる。

以上が３区についての概要である。今後、２区の未報告部分、３区の北にある４区・５区、東西にある東調査区や西調査区の報告を順次行う予定である。

第２節　墨書土器について

第４分冊と第５分冊で報告した墨書土器を、文字毎に出土遺構、器種別に分類した。合計141点を数える。

袋文字の「人」が48%を占め、次いで「平」、「卅」の５%が続く。圧倒的に袋文字の「人」が多いことが伺える。

袋文字とは文字の輪郭だけを書いた白抜き文字のことである。現在では文字を強調するために使用することが多いが、古代においてどういう意図で使用したのかは不明である。また、出土点数も68点と多いが、なぜ画数が倍になる袋文字を使用したのかも疑問が残る。

袋文字の「人」が67点、袋文字の「大」が２点出土しているが、出土地点をみると、すべて２区に集中している。

その他は「平」と「卅」が７点、「工」が５点、「大」が４点、「文」と「津司」が３点、「井」・「牛」・「津」・「五戸」・「得」・「古人」が２点、「人」・「中」・「束」・「徳」・「公」・「主□　秋女」・「荒田」・「中河」・「山田」・「女」・「大刀自」・「□刀女」・「遊名安ヵ」・「安ヵ」が各１点、その他判読不明が16点出土した。

第２表　畝田・寺中遺跡墨書土器一覧

墨書	遺構	有台坏	無台坏	蓋	盤	小計	合計
人（袋文字）	２区 SD240	6	13	1		20	67
	２区 SD303	16	13	14	1	44	
	２区 SD222	1		1		2	
	２区 P20		1			1	
大（袋文字）	２区 SD303		2			2	2
人	２区 SD240	1				1	1
工	２区 SD240		1			1	6
	２区 SD303	1	1	1	1	4	
	１区包含層		1			1	
井	２区 SD303	1	1			2	2
文	２区 SD240		1			1	3
	２区 SD303		1	1		2	
牛	２区 SD303		2			2	2
津	２区 SD240	1				1	2
	４区大河跡	1				1	
津司	２区 SD303		2	1		3	3
大	２区 SD240		1			1	4
	２区 P20	1				1	
	２区 SD303		1			1	
	３区 SD201	1				1	
中	３区 SD201		1			1	1
平	２区 SD240		4	1		5	7
	２区 SD303	1	1			2	
卅	２区 SD240	1	3			4	7
	２区 SD303		2			2	
	３区 SD201		1			1	
束	３区 SD201		1			1	1
五戸	２区 SD244			2		2	2
徳	１区 SD220		1			1	1
得	２区 SD303		1			1	2
	３区 SD201		1			1	
公	２区 SD240		1			1	1
古（右か）人	２区 SD240		2			2	2
主□　秋女	２区 SD303		1			1	1
荒田	３区 SD201		1			1	1
中河	２区 SD303			1		1	1
山田	２区 SD303		1			1	1
女	２区 SD240		1			1	1
大刀自	２区 SD240		1			1	1
□刀女	２区 SD240		1			1	1
遊名安ヵ	２区 SD240		1			1	1
安ヵ	２区 SD240	1				1	1
不明	２区 SD240	1	1	1		3	16
	２区 SD244		1			1	
	２区 SD303	4	2			6	
	３区 SD201	2	3	1		6	
合　計		40	74	25	2	141	141

器種別に墨書が書かれている割合をみてみると、無台坏が53%と一番多い。次いで有台坏の28%、蓋の17%、盤の２%と続く。

出土地区でみると、およそ89.3%を２区が占め、３区8.5%、１区1.4%、４区0.7%となる。２区で出土する墨書土器量が圧倒的に多いことが伺える。石川県調査区で報告されている、旧河道を中心とする75棟の掘立柱建物を管理する古代加賀郡の加賀郡津と想定される関連施設の一部が２区周辺にもあり、施設を管理する役人が墨書土器を使用したり廃棄したりしたのではないかと考えられる。

H15年度畝田・寺中遺跡出土遺物観察表

番号	遺構	器種	法量					遺存/12	胎土				調整					色調		産地	備考	実測番号
			口径	器高	胴径	底径	頸径		砂	骨	礫	赤	口縁外面	胴部外面	口縁内面	胴部内面	底部外面	外面	内面			
1	Ⅲ区 P202	土師器 小型甕	117	77	98	19	94	口12	◎	△	△		ハケ ナデ	ハケ ナデ	ナデ	ナデ		淡灰褐	淡灰褐			F11
2	Ⅲ区 P211	土師器 甕	187	(51)				口1	◎	△			ナデ	ハケ	ナデ	ケズリ		淡灰褐	淡灰褐			F9
3	Ⅲ区 P214	土師器 脚部		(23)					△					マメツ		マメツ		淡橙灰褐	淡橙灰褐			F10
4	Ⅲ区 P224	土師器 高坏		(77)		114		底3	◎	△	△			マメツ		マメツ		淡橙灰褐	淡橙灰褐			F8
5	Ⅲ区 SE201	土師器 甕	158	(80)	160			口1	◎		△		ナデ	ナデ カキメ	ナデ	ヘラケズリ		淡灰褐	淡灰褐			T8
6	Ⅲ区 SE201	土師器 甕	128	(73)		40		口3	○	△	△		ハケ後ナデ	ハケ	ハケ後ナデ	ヘラケズリ 後ナデ		淡褐	淡灰褐		外面スス付着	T7
7	Ⅲ区 SE201	須恵器 坏	146	(47)				口2	△				ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ		灰	褐灰		内外面錆付着	T307
8	Ⅲ区 SE201	土師器 無台坏	118	33		80		口1	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ		灰白	灰白			T6
9	Ⅲ区 SE202	珠洲 甕	220	(48)				口3	△	△			ロクロナデ		ロクロナデ	タタキ		淡灰	淡灰			T9
10	Ⅲ区 SE202	鞴の羽口	長 (42)	幅 (60)	厚 (36)	重 (54)																T11
11	Ⅲ区 SE203	土師器 壺	100	168	164	22	68	口12	○	○	△		ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ナデ		淡褐	淡褐		外面黒斑	T2
12	Ⅲ区 SE203	土師器 壺	100	155	151	34	75	口12	○		△		ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラケズリ ナデ		淡橙褐	淡橙褐		外面赤彩、黒斑	T1
13	Ⅲ区 SE203	土師器 壺		(100)	150		75	胴5	○	○				ハケ後 ヘラミガキ		ナデ ハケ					内面指頭圧痕	T3
14	Ⅲ区 SE203	土師器 甕	118	(77)	135		106	口5	◎	△			ナデ	ハケ	ナデ	ケズリ		淡灰褐	淡灰褐		外面スス付着	FJ25
15	Ⅲ区 SE203	土師器 甕		(63)		26		底12	○	○				ハケ		ケズリ		淡灰黄	淡灰黄		内外面スス付着	E128
16	Ⅲ区 SE203	土師器 甕	182	(117)	217		158	口4	○		△		擬凹線5条 ナデ	ハケ	ナデ	ハケ ケズリ		淡灰褐	淡灰褐		外面スス付着	FJ26
17	Ⅲ区 SE203	土師器 甕	178	(55)				口4	○	△			擬凹線3条 ナデ		ナデ	ハケ後ナデ ヘラケズリ		淡白褐	淡灰褐		外面スス付着	T4
18	Ⅲ区 SE203	土師器 甕	170	235	200	30	151	口12	○	△			擬凹線5条 ナデ	ナデ ハケ	ナデ	ヘラケズリ		淡褐	淡褐		外面スス・炭化物付着 口縁内面指頭圧痕	T5
19	Ⅲ区 SE203	土師器 甕	166	213	183	28	136	口11	◎	△	△		擬凹線8条 以上 ナデ	ハケ	ナデ	ハケ ケズリ		橙灰褐	橙灰褐		外面黒斑 口縁内面工具痕	FJ27
20	Ⅲ区 SE203	土師器 甕	160	243	195	18	132	口12	◎	△			擬凹線3条 ナデ	ハケ	ナデ	ハケ ケズリ		淡黄灰	淡黄灰		外面スス付着	E127
21	Ⅲ区 SE203	土師器 甕	154	209	180	14	140	口8	◎	○			ナデ	ハケメ	ナデ	ハケメ ケズリ		淡黄灰	淡黄灰		外面スス付着	E126
22	Ⅲ区 SE203	土師器 甕	160	210	175	24	131	口8	○	△			擬凹線2条 ナデ	ハケ	ナデ	ケズリ		淡灰褐	灰褐		外面スス付着 内面黒色付着物	FJ28
23	Ⅲ区 SE204	磁器 碗	56	(26)				底2													白磁釉 胎土：灰白 内面見込み貫入	T308
24	Ⅲ区 SE204	灯明皿	138	19		80		口1	△				ナデ	ナデ	ナデ	ナデ		淡褐	淡褐		内面灯芯油痕	T10
25	Ⅲ区 SE204	不明 土製品		(34)					△					ナデ		ナデ		淡黄褐	淡黄褐			T309
26	Ⅲ区 SE204	鞴の羽口	長 64	幅 38	厚 20	重 27.2																T12
27	Ⅲ区 SE205	土師器 壺	176	(44)			83	口1	○	△	△	○	ハケ後ナデ キザミ		ナデ ハケ			淡黄桃	淡黄桃			EE3
28	Ⅲ区 SE205	土師器 甕	165	(38)			144	口2	△	○	○		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ハケ		黒褐	淡灰褐			EE1
29	Ⅲ区 SE205	土師器 甕	162	(48)			139	口1	△	○	○		ナデ	ハケ	ハケ後ナデ	ハケ		淡褐	橙褐		外面口縁部にスス付着	EE2
30	Ⅲ区 SE205	土師器 甕		(241)	240	31		底12	○	△	△	△		ハケ		ハケ		淡黄桃	淡黄桃		外面スス付着 内面にも一部スス付着	EE5
31	Ⅲ区 SE205	土師器 器台	82	(47)			35	口5	○	△	△	○	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ケズリ		淡桃黄褐	淡桃黄褐		透かし穴3箇所	EE4
32	Ⅲ区 SE206	土師器 壺	88	(140)	124		82	口5	◎		○		ナデ	クシメ後 ナデ ハケ	横ナデ	ナデ		黄褐	黄褐		外面黒斑	TM119
33	Ⅲ区 SE206	土師器 壺	102	(202)	167	40	88	口6	◎	○	○		ナデ	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ		淡黄褐	淡黄褐		内外面黒斑	TM115
35	Ⅲ区 SE206	土師器 壺	158	(132)			138	口3	○	△	△	○	ナデ	ハケ	ナデ	ハケ		淡橙灰褐	淡橙灰褐		内外に黒い点状の付着物有り	S45
36	Ⅲ区 SE206	土師器 壺		(146)	202	24		底12	◎	△	△			ハケ		ナデ		淡黄褐	淡黄褐		外面黒斑	TM114
37	Ⅲ区 SE206	土師器 壺	90	(61)				口9	○	◎	◎		ハケ後 ヘラミガキ		ヘラミガキ			淡橙褐	淡橙褐			TM112
38	Ⅲ区 SE206	土師器 壺	112	182	135	23	71	口9	○				ハケ後 ヘラミガキ	ハケ後 ヘラミガキ	ハケ後 ヘラミガキ	ハケ後ナデ		淡橙褐	淡橙褐		外面黒斑	TM118
39	Ⅲ区 SE206	土師器 甕	192	(54)			154	口1	○		△	○	擬凹線5本	ナデ ハケ マメツ	ナデ ハケ マメツ	ナデ ハケ マメツ		淡橙灰	淡橙灰			S50
40	Ⅲ区 SE206	土師器 甕	174	(42)			146	口1	○	△		○	擬凹線5本	ナデ ハケ	ナデ	ヘラケズリ		淡灰褐	淡灰褐			S49
41	Ⅲ区 SE206	土師器 甕	168	(56)			144	口3	◎	○	◎		ナデ	ハケ	ナデ	ヘラケズリ		淡褐	淡灰		外面スス付着 口縁内面黒斑	TM113
42	Ⅲ区 SE206	土師器 甕	204	(50)			176	口3	○		△	○	ナデ ハケ	ナデ ハケ	ナデ ハケ	ナデ ハケ		淡桃灰	桃褐		内面一部黒斑有	S48
43	Ⅲ区 SE206	土師器 甕	176	(38)			160	口1	○		△	△	ナデ	ハケ	ナデ	ハケ ケズリ		濃褐	淡褐		外面スス付着	S44
44	Ⅲ区 SE206	土師器 甕		(64)		34		底6	○	△				ハケ		ハケ	ハケ ナデ	橙灰褐	灰褐		内外面スス付着	S51
45	Ⅲ区 SE206	土師器 甕		(156)	215	57		底12	◎	○	○			ハケ		ハケ後ナデ ハケ		淡黄褐	淡褐		内外面スス 内面指頭圧痕 炭化物付着	TM117
46	Ⅲ区 SE206	土師器 甕		(53)		24		底12	△	△				ハケ		ハケ	ハケ 工具痕	濃灰褐	濃灰褐		内外面スス付着	S52
47	Ⅲ区 SE206	土師器 高坏		(52)			40		○	○	△	△		ナデ ハケ後 ヘラミガキ	ハケ ヘラミガキ	ナデ ハケ		淡桃灰	淡灰褐			S47
48	Ⅲ区 SE206	土師器 高坏		(49)	96		54	脚11	○	○		△		ヘラミガキ	ヘラミガキ	ハケ ナデ		赤橙褐	灰褐		内外面赤彩 底部内面に黒斑有	S46
50	Ⅲ区 SE206	土師器 台付壺	109	114	108	85	86	口12	○	◎	△		ハケ後ナデ	ハケ キザミ	ハケ後ナデ	ナデ		淡橙灰褐	淡橙灰褐		外面一部黒斑有 内面指頭圧痕有	SH8

H15年度畝田・寺中遺跡出土墨書土器観察表

番号	名称	製品	法量 口径	器高	胴径	底径	頸径	遺存/12	胎土 砂	骨	礫	焼	調整 口縁外面	胴部外面	口縁内面	胴部内面	底部外面	色調 外面	内面	産地	備考	管理番号
51	Ⅲ区 SE206	土師器 壺	138	(61)			106	口6	○	○	△	△	ナデ	ミガキ	ハケ後 ミガキ	マメツ		淡橙灰褐	淡橙灰褐		内面一部黒斑有	SH 3
52	Ⅲ区 SE208	土師器 壺		(58)		50		底12	○	◎	△			ハケ後 ヘラミガキ		ケズリ後ナデ ハケ後ナデ ヘラケズリ		橙褐	橙褐		内外面黒斑	TM122
53	Ⅲ区 SE208	土師器 甕	150	(48)			125	口4	◎	○	◎		擬凹線7条	ナデ ハケ後ナデ	ナデ	ヘラケズリ		淡橙褐	淡橙褐		外面スス付着 口縁内面指頭圧痕	TM123
54	Ⅲ区 SE208	土師器 甕	158	(43)			124	口2	○	△	△		擬凹線7条	ナデ	ナデ ハケ	ケズリ		淡褐	橙灰褐		外面スス付着 内面指頭圧痕有	SH 1
55	Ⅲ区 SE208	土師器 甕		(178)	242	40		底12	◎	◎	△			ハケ		ナデ		淡灰褐	淡褐		内面指頭圧痕	TM125
56	Ⅲ区 SE208	土師器 甕	138	(119)	170		119	口2	◎	◎	○		ナデ	ハケ	ナデ	ヘラケズリ 後ナデ		橙褐	橙褐			TM124
57	Ⅲ区 SE208	土師器 甕	170	(46)			148	口2	○	○	△		ナデ ハケ	ハケ	ナデ	ケズリ		淡桃灰褐	淡桃灰褐		内外面スス付着	SH 2
58	Ⅲ区 SE208	土師器 甕		(137)		65			◎	◎	◎			ヘラミガキ		ナデ ヘラミガキ		黄褐	暗灰		外面スス付着 内面工具痕	TM121
59	Ⅲ区 SE208	土師器 甕		(49)		60		底12	◎	◎	○			ハケ後ナデ		ハケ後ナデ		淡灰褐	暗灰		内面黒斑	TM120
60	Ⅲ区 SE208	土師器 鉢	98	(68)	104			口3	○	△	△	△	マメツ ミガキ	マメツ ミガキ	マメツ ミガキ	マメツ ミガキ		淡桃灰褐	淡桃灰褐			SH 4
61	Ⅲ区 SE208	土師器 器台		(134)			36		△	△			ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		赤橙	赤橙		内外面赤彩 透かし穴4箇所有	SH 7
62	Ⅲ区 SE208	土師器 器台	156	(92)				口7	○	○	△	△	ナデ	ハケ後 ミガキ	ナデ	ミガキ ナデ ハケ		淡桃灰	淡桃灰		透かし穴1箇所有	SH 5
63	Ⅲ区 SE208	土師器 高坏		(80)			33		△	△	△	△		マメツ ミガキ		ハケ ナデ		橙褐	橙褐		透かし穴3箇所有	SH 6
64	Ⅲ区 SK208	須恵器 無台坏	114	34		74		口2	△		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切痕	灰	灰		口縁部重ね焼き痕	HK 8
65	Ⅲ区 SK208	須恵器 無台坏	131	30		82		口2	△		○		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切痕	灰	灰		口縁部重ね焼き痕	HK 9
66	Ⅲ区 SK208	須恵器 無台坏	134	31		90		口2	△		○		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切痕	灰	灰		口縁部重ね焼き痕	HK 7
67	Ⅲ区 SK208	土師器 無台椀	152	47		60		口9	△	△	△		ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	回転糸切痕	橙褐	橙褐			HK 2
68	Ⅲ区 SK208	土師器 無台椀	144	45		64		底7	◎		○		ナデ	ナデ	ナデ	ナデ		淡褐	淡橙褐			HK 3
69	Ⅲ区 SK208	土師器 無台椀	154	45		52		口11	△				ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	回転糸切痕	淡橙褐	淡橙褐			HK 1
70	Ⅲ区 SK208	土師器 有台椀		(25)		63		底7	○	△	○	△		ナデ		ナデ	ナデ	淡褐	淡褐			HK 4
71	Ⅲ区 SK208	内黒 椀	135	(43)				口3	△				ナデ	ナデ	ミガキ	ミガキ		淡橙褐	黒			HK 5
72	Ⅲ区 SK208	白磁 碗	154	(32)				口2										白磁釉	白磁釉	中国	胎土白色	HK 6
73	Ⅲ区 SK208	土錘		長63	厚33				△									淡褐	淡褐			HK10
74	Ⅲ区 SK211	土師器 皿	95	24		44		口7	○		○			横ナデ		横ナデ	回転糸切痕	淡橙褐	淡橙褐			HK15
75	Ⅲ区 SK211	土師器 皿		(11)		48		底3	△					ナデ		ナデ	回転糸切痕	淡橙褐	淡褐			HK13
76	Ⅲ区 SK211	土師器 皿	87	(17)				口2	○			△		ナデ		ナデ		淡褐	淡褐			HK14
77	Ⅲ区 SK211	土師器 台付碗		(31)		89		底6	△		△			ナデ		ナデ	回転糸切痕 ナデ	淡褐	淡褐			HK12
78	Ⅲ区 SK211	土師器 壺	170	(32)				口1	○		○		ナデ	ハケ	マメツ	マメツ		淡褐	淡褐		口縁部に棒状付文有	HK16
79	Ⅲ区 SK211	須恵器 瓶																灰	灰		穴径11㎜	HK17
80	Ⅲ区 SK211	無孔土玉		22	20													淡褐	淡褐			HK19
81	Ⅲ区 SK211	須恵器 権状錘	径 34.5	高さ (24)														灰	灰		穴径5㎜ 重さ19g	A10
82	Ⅲ区 SK226	土師器 甕	176	(205)	210			口1	○		△	△		ハケ	ナデ	ヘラケズリ		淡褐	淡灰褐			T18
83	Ⅲ区 SK226	土師器 甕	153	(100)				口3	○	○		○	ナデ	ハケ	ナデ	マメツ		淡橙褐	淡橙褐			T17
84	Ⅲ区 SK226	土師器 甕	188	(54)				口2	○			△	マメツ	マメツ	マメツ	マメツ		淡橙褐	淡橙褐			T20
85	Ⅲ区 SK226	土師器 甕	150	(88)				口3	◎			△	ナデ	ナデ	マメツ	マメツ		淡橙褐	淡橙褐			T19
86	Ⅲ区 SK226	土師器 甕	164	(60)			136	口2	◎			△	ナデ	ハケ	ナデ	ハケ		淡褐	淡褐			T15
87	Ⅲ区 SK226	土師器 甕	138	(93)			100	口2	○		△		ナデ	ハケ	ナデ	ヘラケズリ		淡橙褐	淡橙褐			T16
88	Ⅲ区 SK226	土師器 高坏	144	(60)				口8	○		△	◎	ハケ後 ミガキ	ハケ後 ミガキ	ハケ後 ミガキ	ハケ後ナデ		淡橙	淡橙			T27
89	Ⅲ区 SK226	土師器 高坏		(73)		110		底6	△	○		△		ヘラミガキ ハケ		ナデ		淡灰褐	淡灰褐			T25
90	Ⅲ区 SK226	土師器 高坏		(89)			35	頸12	△	○		○		ヘラミガキ		ナデ		淡橙褐	淡橙褐			T26
91	Ⅲ区 SK226	土師器 高坏		(90)		108		底1	○	△	△	◎		マメツ		マメツ		淡橙褐	淡橙褐			T24
92	Ⅲ区 SK226	土師器 器台		(61)			48	頸12	◎		△	○		マメツ		マメツ		淡橙褐	淡橙褐			T23
93	Ⅲ区 SK226	須恵器 長頸壺	102	(50)				口1	△				ロクロナデ		ロクロナデ			灰白	灰白		外面刷毛目模様	T13
95	Ⅲ区 SD201	土師器 甕	295	(117)			251	口3	◎	△		△	擬凹線9条 ナデ	ハケ	ミガキ ナデ	ミガキ ケズリ		淡橙灰褐	暗灰			F25
96	Ⅲ区 SD201	土師器 甕	318	(73)			278	口2	○	△	○	○	擬凹線9条 ナデ	ハケ	ミガキ ナデ	ハケ ケズリ		淡橙灰褐	淡橙灰褐		口縁部内面に指頭圧痕有	F27
97	Ⅲ区 SD201	土師器 甕	(344)	(102)			308	口1	◎		△	○	擬凹線8条 ナデ	ハケ	ナデ	ハケ ナデ ケズリ		淡灰褐	淡褐		口縁部内面に指頭圧痕有	F26
98	Ⅲ区 SD201	土師器 甕	214	(60)			177	口2	○	△	○		擬凹線7条 ナデ	ハケ	ナデ	ハケ ケズリ		赤褐	赤褐		口縁部外面スス付着 口縁部内面に指頭圧痕有	F24
99	Ⅲ区 SD201	土師器 甕	190	(56)			140	口2	◎	△	○	○	擬凹線9条 ナデ	ナデ	ナデ	ケズリ		淡灰褐	淡灰褐		口縁部内面に指頭圧痕有	F21
100	Ⅲ区 SD201	土師器 甕	162	(60)				口4	◎	△	△	○	擬凹線6条 ナデ	ナデ	ナデ	ケズリ		淡桃灰褐	淡桃灰褐		口縁部外面スス付着	F23
101	Ⅲ区 SD201	土師器 甕	144	(56)			119	口2	○		△	△	擬凹線有 ナデ	ナデ	ナデ	ケズリ		淡灰褐	灰褐			F22

H15年度畝田・寺中遺跡出土遺物観察表

番号	名称	製品	法量 口径	器高	胴径	底径	頸径	遺存/12	胎土 砂	骨	礫	焼	調整 口縁外面	胴部外面	口縁内面	胴部内面	底部外面	色調 外面	内面	産地	備考	管理番号
102	Ⅲ区 SD201	土師器 甕	176	(61)			148	口1	◎			○	ナデ	ハケ	ナデ	ナデ		淡灰褐	淡桃灰褐			F15
103	Ⅲ区 SD201	土師器 甕	225	(55)			173	口2	○			△	ナデ	ハケ	ナデ	ナデ		灰褐	灰褐		口縁部外面黒斑有	F31
104	Ⅲ区 SD201	土師器 甕	236	(48)			183	口2	○	△	○	△	ナデ	ハケ	ナデ	ハケ ケズリ		淡橙灰褐	淡橙灰褐			F29
105	Ⅲ区 SD201	土師器 甕	222	(95)			193	口2	○				ナデ	ハケ	ハケ後ナデ	ナデ		淡橙灰褐	淡橙灰褐			F30
106	Ⅲ区 SD201	土師器 甕	(200)	(80)			164	口1	◎			○	ナデ	ハケ	ナデ	ケズリ		灰褐	灰褐			F28
107	Ⅲ区 SD201	土師器 甕	173	(137)			154	口2	○		○	△	ナデ	ハケ	ナデ	ハケ ナデ ケズリ		淡灰褐	淡灰褐		内面に指頭圧痕有	F33
108	Ⅲ区 SD201	土師器 甕	196	(80)			162	口2	△	△		△	ハケ後ナデ	ハケ	ハケ	ハケ		灰褐	灰褐			F32
109	Ⅲ区 SD201	土師器 壺	120	(48)			86	口3	○	△		△	ミガキ	ハケ ナデ	ナデ	ナデ		淡灰褐	淡橙灰褐			F14
110	Ⅲ区 SD201	土師器 甕	170	(59)			107	口2	◎		△	○	ナデ		ナデ			淡黄灰褐	淡黄灰褐			F18
111	Ⅲ区 SD201	土師器 壺	222	(71)			177	口1	◎				ナデ	ハケ ナデ	ナデ	ナデ		暗灰褐	黒		内面黒斑有	F19
112	Ⅲ区 SD201	土師器 壺	109	(52)				口4	○		△	○	ミガキ		ミガキ			淡灰褐	淡桃灰褐			F13
113	Ⅲ区 SD201	土師器 壺	156	(53)			103	口3	○	△	○	○	ナデ	ハケ ナデ	ハケ	ナデ		淡灰褐	淡桃灰褐			F16
114	Ⅲ区 SD201	土師器 壺	84	(62)			63	口8	○		○	○	ミガキ		ナデ			淡橙褐	淡橙灰褐			F12
115	Ⅲ区 SD201	土師器 壺		(63)			106		△	△		△		ハケ ナデ		ハケ ケズリ		淡黄灰褐	淡黄灰褐			F20
116	Ⅲ区 SD201	土師器 脚部		(40)		39	20	底12	○	○				マメツ		ナデ		淡灰黄	淡灰黄			EE90
117	Ⅲ区 SD201	土師器 壺・鉢台		(44)		90		底5	△	○				ハケ後ナデ		ハケ ナデ		褐	橙褐		内面黒斑有 外面錆付着	EE105
118	Ⅲ区 SD201	土師器 脚部		(68)		96	60	底2	◎					ハケ		ハケ		褐	褐		内外面錆付着	EE91
119	Ⅲ区 SD201	土師器 器台	236	(52)				口1	△		△	△	ミガキ		ミガキ			灰褐	桃灰褐		外面キザミ・沈線・透かし穴有	F17
120	Ⅲ区 SD201	土師器 壺・鉢台		(45)		90	45	底11	◎					ミガキ		ミガキ		淡灰黄	淡灰黄			EE104
121	Ⅲ区 SD201	土師器 器台	96	(50)			42	口1	◎		△		ミガキ	ミガキ	ミガキ	ケズリ		淡灰黄	淡灰黄		透し穴4ヵ所残る	EE107
122	Ⅲ区 SD201	土師器 器台		(23)	177				△	△				ミガキ		ミガキ		淡桃灰	淡桃灰		内外面ややマメツ 外面スス付着	EE102
123	Ⅲ区 SD201	土師器 器台		(27)	(152)				◎	△				ミガキ		ミガキ		淡桃灰	淡桃灰		内外面マメツ 滴型の透し穴8ヵ所残	EE103
124	Ⅲ区 SD201	土師器 器台	94	(64)			40	口2	◎				ミガキ	ミガキ	ミガキ	ケズリ		淡橙黄	淡赤灰		内面ややマメツ	EE106
125	Ⅲ区 SD201	土師器 高坏	196	(28)				底1	○	○				ナデ ハケメ 工具痕		ハケ ナデ		暗黄桃褐	暗黄桃褐		内面端部スス付着 外面ハケメと工具痕	EE100
126	Ⅲ区 SD201	土師器 高坏	180	(14)				底1	△					クシメ キザミ		ハケ ナデ		黒	黒		脚部に沈線巡る 外面端部にキザミ	EE101
127	Ⅲ区 SD201	土師器 高坏	254	(50)				口1	◎				ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		淡褐	淡褐		内外面錆付着 内面黒斑有	EE99
128	Ⅲ区 SD201	土師器 高坏	154	(50)				口3	△	○	△		ナデ	ケズリ後ナデ	ナデ	ナデ		淡橙褐	赤灰褐			EE98
129	Ⅲ区 SD201	土師器 高坏		(64)			40	頸12	△	△				ハケ後ナデ		ハケ後ナデ		黄灰褐	黄灰褐		外面磨滅	EE96
130	Ⅲ区 SD201	土師器 高坏		(90)		143		底3	△					ミガキ ナデ		ハケ ナデ		淡黄灰～淡桃	淡黄灰～淡桃		透し穴3個残存（穴径5㎜）	EE92
131	Ⅲ区 SD201	土師器 高坏		(81)			34	脚12	△					ハケ後 ミガキ		ケズリ		淡褐	淡桃褐		透し穴5個残存（穴径4～5㎜） 内外面錆付着	EE95
132	Ⅲ区 SD201	土師器 高坏		(63)			27	頸12	○	△				ミガキ		ケズリ		淡黄桃灰	淡黄桃灰		透し穴4ヵ所（穴径12㎜）	EE97
133	Ⅲ区 SD201	土師器 高坏		(59)		106		底7	◎	△				ミガキ ナデ		ケズリ		淡橙褐	淡灰褐		内底部黒斑	EE94
134	Ⅲ区 SD201	土師器 脚部		(37)		78	37	底9	△	○				ハケ		ハケ		淡桃黄	淡桃黄		内外面錆付着	EE89
135	Ⅲ区 SD201	土師器 高坏		(74)		133	35	底3	△					ミガキ		ケズリ ハケ		淡桃黄褐	淡桃黄褐		内外面剥離	EE93
136	Ⅲ区 SD201	土師器 鉢	304	(77)				口2	◎		△	△	ハケ ナデ	ハケ ナデ	ナデ	ハケ		淡灰褐	淡褐		外面接合痕有 スス付着	F34
137	Ⅲ区 SD201	土師器 小鉢		(42)		32		底4	△					ミガキ		ナデ		黄橙灰	黄橙灰		内面指頭圧痕	EE84
138	Ⅲ区 SD201	土師器 蓋	110	63		ツマミ 28	27	受7	○				マメツ ミガキ	マメツ ミガキ	マメツ ミガキ	マメツ		黄褐	淡黄褐			EE82
139	Ⅲ区 SD201	土師器 蓋	96	37		ツマミ 32	29	受4	△	◎			ナデ	ハケ ナデ ケズリ		ハケ後ナデ		淡黄灰	淡黄灰		受け口に1カ所スス付着	EE80
140	Ⅲ区 SD201	土師器 蓋		(23)		ツマミ 29	15	ツマミ 12	△	△				ミガキ		ミガキ		淡橙黄	淡橙黄			EE81
141	Ⅲ区 SD201	土師器 ミニチュア甕	48	50		1		口1以下	△				ナデ	ナデ	ナデ	ナデ		淡灰黄	淡灰黄			EE83
142	Ⅲ区 SD201	手捏 土器	51	36		30		口1以下	△	△								褐	褐		内外面錆付着 内面指頭圧痕	EE85
143	Ⅲ区 SD201	手捏 土器	66	40		44		口2	△	△			ナデ	ナデ				淡黄灰	淡黄灰		内面指頭圧痕 内面錆付着	EE88
144	Ⅲ区 SD201	手捏 土器		(33)		36		底12	△	○	△			ナデ				淡黄灰	淡桃黄			EE86
145	Ⅲ区 SD201	手捏 土器		(32)		40		底12	○	△				ナデ				淡黄灰	淡黄褐			EE87
146	Ⅲ区 SD201	須恵器 蓋	109	(52)		61		口2	◎		△		ナデ	ナデ ケズリ	ナデ	ナデ		淡灰	淡灰			F56
147	Ⅲ区 SD201	須恵器 蓋	144	(53)		77		口4	○		△		ナデ	ナデ ケズリ	ナデ	ナデ		暗灰	暗灰			F58
148	Ⅲ区 SD201	須恵器 蓋	138	(44)		68		口1	△				ナデ	ナデ ケズリ				灰	淡灰			F54
149	Ⅲ区 SD201	須恵器 蓋	148	(36)				口5	○		△		ナデ	ナデ ケズリ	ナデ	ナデ		淡灰	淡灰			F59
150	Ⅲ区 SD201	須恵器 蓋	151	(41)				口4	○				ナデ	ナデ	ナデ	ナデ		暗灰	灰			F53
151	Ⅲ区 SD201	須恵器 蓋	149	(30)		88		口5	○				ナデ	ナデ	ナデ	ナデ		灰	灰		天井部外面ヘラ切・ヘラ起こし	F55

H15年度畝田・寺中遺跡出土遺物観察表

番号	遺構	器種	法量					遺存/12	胎土				調整					色調		産地	備考	実測番号
			口径	器高	胴径	底径	頸径		砂	骨	礫	赤	口縁外面	胴部外面	口縁内面	胴部内面	底部外面	外面	内面			
152	Ⅲ区 SD201	須恵器 坏	96	(44)				口 1	○				ナデ	ナデ ケズリ	ナデ	ナデ		暗灰	暗灰			F48
153	Ⅲ区 SD201	須恵器 無台坏	108	(52)		65		口 1	◎				ナデ	ナデ ケズリ	ナデ	ナデ		暗灰	灰			F50
154	Ⅲ区 SD201	須恵器 坏	110	(47)				口 3	△				ナデ	ナデ	ナデ	ナデ		灰	灰		接合痕有	F45
155	Ⅲ区 SD201	須恵器 無台坏	112	51		63		口 1	◎				ナデ	ナデ ケズリ	ナデ	ナデ		灰	暗灰		外面降灰 接合痕有	F51
156	Ⅲ区 SD201	須恵器 坏	122	(48)				口 5	△				ナデ	ナデ ケズリ	ナデ	ナデ		暗灰	暗灰			F44
157	Ⅲ区 SD201	須恵器 無台坏	112	52		78		口12	○				ナデ	ナデ ケズリ	ナデ	ナデ ケズリ		灰白	暗灰			F42
158	Ⅲ区 SD201	須恵器 無台坏	109	(40)		80		口 2	○		△		ナデ	ナデ ケズリ	ナデ	ナデ		暗灰	灰			F49
159	Ⅲ区 SD201	須恵器 無台坏	129	(38)		74		口 5	△		△		ナデ	ナデ ケズリ	ナデ	ナデ		暗灰	暗灰			F41
160	Ⅲ区 SD201	須恵器 無台坏	109	(35)		62		口 5	△				ナデ	ナデ ケズリ	ナデ	ナデ		暗灰	灰			F47
161	Ⅲ区 SD201	須恵器 無台坏	116	42		75		口 3	△	△	△		ナデ	ナデ ケズリ	ナデ	ナデ		白灰	白灰		接合痕有	F46
162	Ⅲ区 SD201	須恵器 無台坏	114	34		70		口 3	○				ナデ	ナデ	ナデ	ナデ		灰	灰		外面降灰	F52
163	Ⅲ区 SD201	須恵器 無台坏	132	43		80		口 2	△				ナデ	ナデ ケズリ	ナデ	ナデ		暗灰	暗灰			F43
164	Ⅲ区 SD201	須恵器 無台坏	120	40		97		口 7	○		△		ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ヘラ切後ナデ	灰	灰		口縁部重ね焼き痕	SH29
165	Ⅲ区 SD201	須恵器 無台坏	116	39		80		口12	○		△		ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ ヘラ切後ナデ 工具痕有	灰	灰		口縁部重ね焼き痕	SH26
166	Ⅲ区 SD201	須恵器 無台坏	114	40		76		底 6	○		△		ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ヘラ切後ナデ	灰白	灰		口縁部重ね焼き痕有	SH42
167	Ⅲ区 SD201	須恵器 無台坏				86		底 6	△					ナデ		ナデ	ヘラ切後ナデ	灰	灰			SH44
168	Ⅲ区 SD201	須恵器 無台坏	126	31		92		口 3	△				ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ヘラ切後ナデ	淡灰白	淡灰白		内外面漆付着	SH34
169	Ⅲ区 SD201	須恵器 無台坏	94					口 3	○		△		ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	灰	淡灰褐		外面一部降灰	SH39
170	Ⅲ区 SD201	須恵器 無台坏				90		底12	△		△			ナデ		ナデ	ヘラ切・ヘラ起こし後ナデ	灰白	灰白			SH32
171	Ⅲ区 SD201	須恵器 無台坏	106	33		78		口 4	△				ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ヘラ切・ヘラ起こし後ナデ	灰	灰		内面底部に重ね焼き痕有	SH35
172	Ⅲ区 SD201	須恵器 無台坏	122	34		80		口 1	○		△		ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ヘラ切・ヘラ起こし・ナデ	灰	灰		内面緑灰色の付着物有	SH40
173	Ⅲ区 SD201	須恵器 無台坏	118	31		74		口 1	○				ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ヘラ切・ヘラ起こし後ナデ	灰	灰		口縁部及び内面に重ね焼き痕有 焼ぶくれ有	SH41
174	Ⅲ区 SD201	須恵器 無台坏	122	35		90		口 4	△		△		ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ヘラ切後ナデ	灰	灰		口縁部重ね焼き痕	SH36
175	Ⅲ区 SD201	須恵器 無台坏	134	34		95		口12	△		△		ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ヘラ切後ナデ、ヘラ起こし	濃灰	濃灰		口縁部重ね焼き痕	SH27
176	Ⅲ区 SD201	須恵器 無台坏	118	37		90		口 9	△		△		ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ヘラ切後ナデ 灯明痕	灰白	灰白		口縁部重ね焼き痕 口縁部打欠有	SH31
177	Ⅲ区 SD201	須恵器 無台坏	116	33		90		底12	△		△		ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ヘラ切後ナデ、工具痕、ヘラ記号有	灰	灰			SH33
178	Ⅲ区 SD201	須恵器 無台坏	132	33		110		口 3	○		△		ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ヘラ切後ナデ ヘラ記号有	灰	灰		口縁部に重ね焼き痕有	SH43
179	Ⅲ区 SD201	須恵器 無台坏	140	38		104		口 8	△		△		ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ヘラ切後ナデ	淡灰褐	淡灰褐		口縁部重ね焼き痕	SH28
180	Ⅲ区 SD201	須恵器 無台坏	146	34		114		口 2	△		△		ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ヘラ切後ナデ	灰 白灰	白灰		内外面に黒色付着物有り	SH38
181	Ⅲ区 SD201	須恵器 無台坏	130	36		96		口 3	○		△		ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ヘラ切後ナデ	灰	灰			SH37
182	Ⅲ区 SD201	須恵器 無台坏				116		底 9	○		△			ナデ		ナデ	ヘラ切後ナデ	灰	灰			SH45
183	Ⅲ区 SD201	須恵器 有台坏	140	41		97		口 9	○		△		ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ヘラ切・ヘラ起こし後ナデ	灰	灰		底部外面及び外面側部に墨痕有 口縁部打欠有	SH24
184	Ⅲ区 SD201	須恵器 有台坏	136	45		84		口 7	△		△		ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ヘラ切後ナデ	淡灰褐	淡灰褐		口縁部打欠有	SH20
185	Ⅲ区 SD201	須恵器 有台坏	142	40		92		口 1	△		△		ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ヘラ切後ナデ ヘラ記号	灰	淡灰桃			SH23
186	Ⅲ区 SD201	須恵器 有台坏	166	45		116		口 2	△				ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	自然釉	濃灰	灰			SH18
187	Ⅲ区 SD201	須恵器 有台坏	92	42		56		口 1	○		△		ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ヘラ切後ナデ	灰	灰		外面体部一部自然釉	SH21
188	Ⅲ区 SD201	須恵器 有台坏	112	36		80		口 4	△				ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ヘラ切後ナデ ヘラ記号	灰	灰			SH19
189	Ⅲ区 SD201	須恵器 有台坏	130	41		83		口 3	○				ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	灰	灰		口縁部重ね焼き痕 底部外面及び外面側部に墨痕有り	SH25
190	Ⅲ区 SD201	須恵器 有台坏	126	55		65		口 4	○		△		ナデ	ナデ ケズリ	ナデ	ナデ	ナデ	濃灰	淡灰褐		内面及び底部に降灰	SH22
191	Ⅲ区 SD201	須恵器 蓋	152	31		ツマミ 36		口 5	○		△		ナデ	ナデ	ナデ	ナデ		灰	灰白		天井部ヘラ切後ナデ 外面にヘラ記号有	T68
192	Ⅲ区 SD201	須恵器 蓋	147	27		ツマミ 27		口 5	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ		灰	灰白		天井部ヘラ切後ナデ	T70
193	Ⅲ区 SD201	須恵器 高坏か	106	(39)				口 2	◎		△		ナデ	ナデ	ナデ	ナデ		淡灰	淡灰		内外面降灰	F57
194	Ⅲ区 SD201	須恵器 高坏		(58)		89	48	底 1	△		△			ナデ カキメ		ナデ		暗灰	暗灰		脚部と坏部の接合痕有 脚部に透かし穴有	F37
195	Ⅲ区 SD201	須恵器 高坏		(48)		81	43	底 3	△		△			ナデ		ナデ		灰	灰		脚部と坏部の接合痕有 脚部に透かし穴有	F39
196	Ⅲ区 SD201	須恵器 壺	105	(38)				口 2	△		△		ナデ	ナデ	ナデ	ナデ		暗灰	暗灰		内外面降灰	F40
197	Ⅲ区 SD201	須恵器 壺		(29)							△							灰	灰		外面櫛書模様有	F38
198	Ⅲ区 SD201	須恵器 壺							○		△							灰	灰		外面波状文	F35

H15年度畝田・寺中遺跡出土遺物観察表

番号	遺構	器種	法量					遺存/12	胎土				調整					色調		産地	備考	実測番号
			口径	器高	胴径	底径	頸径		砂	骨	礫	赤	口縁外面	胴部外面	口縁内面	胴部内面	底部外面	外面	内面			
199	Ⅲ区 SD201	須恵器 壺							◎		△							灰	灰		外面波状文 内面降灰	F36
200	Ⅲ区 SD201	須恵器 長頸壺		(160)			36	頸12	△					ロクロナデ		ロクロナデ		灰白	灰白		内外面自然釉 外面沈線２本有	T75
201	Ⅲ区 SD201	須恵器 瓶		(102)	193	114		底５	△					ロクロナデ		ロクロナデ	ヘラ起こし痕有	灰白	灰			T71
202	Ⅲ区 SD201	須恵器 小壺		(71)	101	27		底６	○					ロクロナデ ヘラケズリ		ロクロナデ		灰	灰		外面櫛目模様 降灰	T73
203	Ⅲ区 SD201	須恵器 甕	220	(110)			184	口１	◎		△		ナデ	タタキ	ナデ	タタキ		灰黄	灰白		内外面降灰有	T74
204	Ⅲ区 SD201	須恵器 鉢	276	(75)				口１	○		△		ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	カキメ	カキメ		灰白	灰白			T72
205	Ⅲ区 SD201	土師器 甕	87	(50)	87			口３	○	△	△		ミガキ	ミガキ	ミガキ	ハケ ナデ		淡赤灰褐	橙褐		外面・内面口縁部 赤彩	F３
206	Ⅲ区 SD201	土師器 甕	115	(100)	130		110	口１	○		△		ナデ	ハケ ナデ	ナデ	ハケ		桃灰褐	褐		接合痕有 外面スス付着	F２
207	Ⅲ区 SD201	土師器 甕	236	(91)			203	口１	○	△	△	△	ナデ	カキメ ハケ	ナデ	ハケ カキメ		淡灰褐	灰褐			F１
208	Ⅲ区 SD201	土師器 壺	90	(36)				口２	△		△	△	ヘラミガキ	ヘラミガキ 沈線キザミ	ナデ	ナデ		淡橙褐	淡橙褐			T55
209	Ⅲ区 SD201	土師器 壺	117	(39)				口１	○	△		△	ハケ後 ヘラミガキ	ハケ後 ヘラミガキ	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ		淡黄褐	淡橙褐		外面キザミ有	T56
210	Ⅲ区 SD201	土師器 不明		(25)					○		△	△		マメツ		ミガキ		淡黄褐	淡黄褐			T53
211	Ⅲ区 SD201	内黒 高坏		(65)		86		底２	△	◎		○		ナデ ヘラミガキ ナデ		ヘラミガキ ナデ		淡橙褐	黒			T63
212	Ⅲ区 SD201	土師器 鉢	107	(47)				口２	○				ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		淡橙灰褐	淡橙灰褐		内外面赤彩 把手１個残存	F４
213	Ⅲ区 SD201	土師器 鉢	148	(44)				口２	△				横ナデ	ナデ	ナデ	ハケ後ナデ		淡黄褐	淡黄褐			T65
214	Ⅲ区 SD201	土師器 鉢	140	(53)				口４	△		△	△	横ナデ	ヘラミガキ	横ナデ	ヘラミガキ		淡橙褐	淡橙褐			T64
215	Ⅲ区 SD201	土師器 鉢	152	(44)				口３	△				横ナデ	ヘラケズリ 後ナデ	横ナデ	ナデ		淡赤橙褐	淡赤橙褐		内外面化粧土	T66
216	Ⅲ区 SD201	土師器 鉢	170	(59)				口１	○			△	横ナデ	ヘラケズリ	横ナデ	ナデ		淡黄褐	淡黄褐			T67
217	Ⅲ区 SD201	内黒 椀	106	(52)				口１	△				ナデ	ハケ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		黄褐	黒		外面に黒斑有	T61
218	Ⅲ区 SD201	内黒 鉢	132	(55)	132			口３	△	△		△	ナデ	ナデ キザミ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		淡褐	黒		外面体部にヘラ記号のような痕有	T58
219	Ⅲ区 SD201	内黒 鉢	148	(50)				口２	△	○		△	横ナデ	ハケ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		淡黄褐	黒			T62
220	Ⅲ区 SD201	内黒 鉢	158	(53)				口１	△	△			横ナデ	ナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		淡橙褐	黒			T60
221	Ⅲ区 SD201	内黒 無台椀	148	(45)				口２	△	△			横ナデ	ナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ		暗灰	黒		外面全体的に黒斑有	T59
222	Ⅲ区 SD201	土師器 甑		(49)		86		底４	◎					ハケ		ハケ後 ヘラケズリ		橙褐	淡褐			T57
223	Ⅲ区 SD201	土師器 把手		(77)					○		△			ハケ		ヘラケズリ		赤褐色	赤褐色			T54
224	Ⅲ区 SD201	土師器 甑		(34)		13		底12	○					ハケ		ナデ		褐	黒			T49
225	Ⅲ区 SD201	土師器 甑		(23)		12		底５	△					ナデ		ナデ		淡黄褐	淡黄褐			T50
226	Ⅲ区 SD201	土師器 甑		(24)		18		底６	○		△			ナデ		ナデ		淡黄褐	淡灰褐			T51
227	Ⅲ区 SD201	磁器 碗				78		底１										青磁釉	青磁釉		見込み型押し	Q40
228	Ⅲ区 SD201	鞴の羽口		(57)	(42)							△						淡灰褐	淡橙灰褐			F５
229	Ⅲ区 SD201	土錘		長69	厚44																孔径10㎜ 重さ120g	T48
230	Ⅲ区 SD201	土錘		長62	厚34																孔径10㎜ 重さ68.1g	T46
231	Ⅲ区 SD201	土錘		長82	厚45																孔径12㎜ 重さ150g	T47
232	Ⅲ区 SD201	土錘		長63	厚41																孔径11㎜ 重さ86.2g	T45
233	Ⅲ区 SD201	土錘		長54	厚38																孔径6㎜ 重さ63.1g	T42
234	Ⅲ区 SD201	土錘		長49	厚27																孔径6㎜ 重さ28.8g	T39
235	Ⅲ区 SD201	土錘		長62	厚32																孔径8㎜ 重さ65.3g	T44
236	Ⅲ区 SD201	土錘		長56	厚33																孔径9㎜ 重さ51.8g	T43
237	Ⅲ区 SD201	土錘		長78	厚22																孔径5㎜ 重さ26.3g	T40
238	Ⅲ区 SD201	土錘		長67	厚19																孔径5㎜ 重さ22.7g	HK87
239	Ⅲ区 SD201	土錘		長48	厚17																孔径4㎜ 重さ10.4g	T41
240	Ⅲ区 SD201	土錘		長30	厚22																孔径7㎜ 重さ12.3g 棗玉形	HK88
241	Ⅲ区 SD201	土師器 不明		41	22																厚さ19㎜ 穿孔有	T52
242	Ⅲ区 SD225	土師器 甕	180	(186)	196		154	口11	○		△	△	擬凹線７条 ナデ	ハケ	ナデ	ヘラケズリ		灰褐	灰褐		口縁部外面スス付着	SH15
243	Ⅲ区 SD222	土師器 甕	176	(62)			150	口７	○		△		擬凹線有 ナデ		ナデ	ケズリ		淡橙灰褐	淡橙灰褐		口縁部内面に指頭圧痕有	SH11
244	Ⅲ区 SD223	土師器 甕		(43)		32		底６	○		△			ハケ		ケズリ		橙灰褐	橙			SH13
245	Ⅲ区 SD227	土師器 甕		(109)		48		底12	△					ハケ後 ミガキ		ハケ後ナデ ハケ ミガキ	ヘラ記号	淡灰褐	黒褐		内外面黒斑有	SH17
246	Ⅲ区 SD222	土師器 甕	130	(70)			118	口８	△		△	△	ナデ	ハケ	ナデ ハケ	ケズリ		灰橙褐	灰橙褐			SH10
247	Ⅲ区 SD222	土師器 甕	130	(62)			92	口６	◎		△		擬凹線８条 マメツ	マメツ	マメツ ナデ	ケズリ		淡赤橙	淡赤橙			SH12
248	Ⅲ区 SD222	土師器 壺	90	136	122	32		口１	◎		△		マメツ	マメツ	マメツ	マメツ		淡橙灰	淡灰褐		外面一部黒斑有	SH14

H15年度畝田・寺中遺跡出土遺物観察表

番号	遺構	器種	法量					遺存/12	胎土				調整					色調		産地	備考	実測番号
			口径	器高	胴径	底径	頸径		砂	骨	礫	赤	口縁外面	胴部外面	口縁内面	胴部内面	底部外面	外面	内面			
249	Ⅲ区 SD222	土師器 鉢	108	62		18		口 3	○			○	ナデ	ハケ ケズリ	ケズリ	ハケ ケズリ		淡灰橙	淡灰桃			SH16
250	Ⅲ区 SD222	須恵器 蓋		(37)	ツマミ 27			ツマミ 12	△		△			ナデ		ナデ		灰白	灰白		天井部カキメ	EE66
251	Ⅲ区 SD222	須恵器 有台坏	118	41		76		口 2	△				ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ記号	灰	灰			EE65
252	Ⅲ区 SD222	須恵器 有台坏	118	43		85		口 1	○				ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ		暗灰	灰			HK86
253	Ⅲ区 SD222	須恵器 無台坏	123	33		78		口 2	△		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後 ナデ ヘラ 起こし痕	灰白	灰白			EE67
254	Ⅲ区 SD222	須恵器 高坏		(71)			脚46	脚 4	△					ナデ				灰	灰		透かし穴 3 箇所	EE79
255	Ⅲ区 SD222	土師器 甕	294	(74)				口 2	△		△		ナデ	カキメ	カキメ	カキメ		淡桃黄	淡黄褐			EE68
256	Ⅲ区 SD222	土師器 把手	長 (64)	幅 (34)	厚 (33)						○	○						淡桃灰	淡桃灰			EE78
257	Ⅲ区 SD222	土師器 椀		(46)		67		底 1	○			△		ナデ		ナデ		淡褐	淡褐		内外面赤彩	EE69
258	Ⅲ区 SD222	土師器 鉢		(32)		58		底12	◎			○		ナデ		ロクロナデ		淡橙黄	淡橙黄		貼り付け高台	EE51
259	Ⅲ区 SD222	土師器 椀		(25)		75		底 1	○			△		ナデ		ナデ		淡灰桃	淡灰桃			EE52
260	Ⅲ区 SD222	土師器 椀		(25)		46		底12	○					ナデ		ナデ		淡桃灰	淡桃灰			EE50
261	Ⅲ区 SD222	土師器 椀	86	39		38		口 3	○		△		ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	糸切り底	淡桃灰	淡桃灰			EE59
262	Ⅲ区 SD222	土師器 椀		(20)		39		底10	△			◎					糸切り底	褐	褐			EE54
263	Ⅲ区 SD222	土師器 椀		(32)		57		底12	△			◎		ナデ		ナデ	糸切り底	淡黄褐	淡黄褐			EE60
264	Ⅲ区 SD222	内黒 椀		(41)		58		底12	△					ナデ		ミガキ		淡黄灰	黒褐			EE46
265	Ⅲ区 SD222	内黒 椀		(15)		42		底 9	△			△		ナデ		ミガキ		淡桃灰	黒褐			EE45
266	Ⅲ区 SD222	内黒 椀		(21)		67		底 4	△					ナデ		ミガキ		黄褐	黒褐			EE47
267	Ⅲ区 SD222	土師器 皿	98	18		37		口 4	◎		△	◎	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	糸切り底	明橙桃	明橙桃			EE56
268	Ⅲ区 SD222	土師器 皿	88	19		46		口 2	◎			△	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	糸切り底	橙桃褐	橙桃褐			EE57
269	Ⅲ区 SD222	土師器 皿	86	19		42		口 1	○			○	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	糸切り底	淡黄桃	淡黄桃			EE53
270	Ⅲ区 SD222	土師器 皿		(20)		66		底10	△		△	△		ナデ		ナデ	糸切り底	淡黄桃	淡黄桃			EE61
271	Ⅲ区 SD222	土師器 皿		(29)		56		底12	△			○		ナデ		ナデ	糸切り底	淡桃黄	淡桃黄			EE55
272	Ⅲ区 SD222	土師器 皿		(28)		72		底 6	◎		△	○		ナデ		ナデ	糸切り底	淡灰黄	淡灰黄			EE62
273	Ⅲ区 SD222	土師器 皿		(37)		60		底12	△								糸切り底	淡桃灰	淡桃灰			EE58
274	Ⅲ区 SD222	土師器 皿		(36)		64		底12	◎			◎					糸切り底	淡黄灰	淡黄灰		内外面にスス付着 底部に打ち欠きか	EE63
275	Ⅲ区 SD222	土師器 皿		(37)		64		底 2	△			△		マメツ		マメツ	糸切り底	淡橙黄	淡橙黄			EE64
276	Ⅲ区 SD222	土師器 皿	87	21		87		口 6	△		△	△	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ		暗黄褐	暗黄褐		内外面に油痕有	EE36
277	Ⅲ区 SD222	土師器 皿	90	(19)		38		口 2	△			△	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ		淡黄灰	淡灰黄		底部に工具痕有	EE39
278	Ⅲ区 SD222	土師器 皿	100	29		28		口 6	△			△	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ		淡黄灰	淡灰黄			EE38
279	Ⅲ区 SD222	土師器 皿	82	13		64		口11	△			△	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	指頭圧痕	淡黄灰	淡黄灰			EE37
280	Ⅲ区 SD222	土師器 皿	85	11		64		口 6	△			◎	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ		淡桃橙	淡桃橙			EE40
281	Ⅲ区 SD222	土師器 皿	142	28		90		口 4	○			△	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ		淡黄桃	淡黄桃		外面体部に指頭圧痕有	EE43
282	Ⅲ区 SD222	土師器 皿	142	26		74		口 4	△			○	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ		淡黄	淡黄			EE42
283	Ⅲ区 SD222	土師器 皿	142	27				口 3	△				ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	工具痕	淡桃黄	淡桃黄		外面体部に指頭圧痕有 口縁歪み、油痕有	EE44
284	Ⅲ区 SD222	瓦質土器 椀	155	(45)				口 3					ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		黒褐	濃灰	京都	穿孔 1 ヵ所有	EE75
285	Ⅲ区 SD222	磁器 碗	161	(44)				口 2										白磁釉	白磁釉	中国	胎土色灰色	EE 8
286	Ⅲ区 SD222	磁器 碗	175	(43)				口 1										白磁釉	白磁釉	中国	胎土色灰白色	EE 9
287	Ⅲ区 SD222	磁器 碗	159	(33)				口 1										白磁釉	白磁釉	中国	胎土色灰白色	EE13
288	Ⅲ区 SD222	磁器 碗		(23)		61		底 2										白磁釉	白磁釉	中国	胎土色灰白色 外面底部から高台無釉 見込み胎土目	EE 7
289	Ⅲ区 SD222	磁器 碗		(29)		60		底 1										白磁釉	白磁釉	中国	胎土色灰白色 外面底部から高台無釉	EE16
290	Ⅲ区 SD222	磁器 碗		(36)		55		底 2										白磁釉	白磁釉	中国	胎土色灰白色 外面底部から高台無釉	EE11
291	Ⅲ区 SD222	磁器 碗	152	(43)				口 1										白磁釉	白磁釉	中国	胎土色白色	EE10
292	Ⅲ区 SD222	磁器 皿		(17)		34		底 6										白磁釉	白磁釉	中国	胎土色灰白色 外面底部から高台無釉	EE12
293	Ⅲ区 SD222	磁器 皿		(8)		72		底 2										白磁釉	白磁釉	中国	陽刻 胎土色淡灰白色	EE17
294	Ⅲ区 SD222	磁器 碗		(17)		46		底10										透明釉	透明釉	中国	染付 高台に砂・礫付着	EE 6
295	Ⅲ区 SD222	磁器 碗	91	(18)				口 1										青磁釉	青磁釉	中国		EE15
296	Ⅲ区 SD222	陶器 碗	95	(23)				口 1										鉄釉	鉄釉			EE14

H15年度畝田・寺中遺跡出土遺物観察表

番号	遺構	器種	法量					遺存/12	胎土				調整					色調		産地	備考	実測番号
			口径	器高	胴径	底径	頸径		砂	骨	礫	赤	口縁外面	胴部外面	口縁内面	胴部内面	底部外面	外面	内面			
297	Ⅲ区 SD222	珠洲 甕		(36)				口1	△									灰	白灰			T36
298	Ⅲ区 SD222	珠洲 甕		(25)				口1	○				ロクロナデ		ロクロナデ			灰	灰			T35
299	Ⅲ区 SD222	珠洲 甕	352	(90)				口1	△		△		ロクロナデ	タタキ	ナデ	当具痕		白灰	白灰		内外面降灰有 内面指頭圧痕有	T37
300	Ⅲ区 SD222	珠洲 壺	208	(121)			210	口4	△	△			ナデ	タタキ	ナデ	ナデ						T38
301	Ⅲ区 SD222	珠洲 鉢	280	(74)				口1	△	△			ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ		暗灰	暗灰			T32
302	Ⅲ区 SD222	珠洲 鉢		(45)				口1	○				ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ		青灰	青灰			T33
303	Ⅲ区 SD222	珠洲 鉢	278	(111)		110		口1	○	△	△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切痕	灰	灰			T31
304	Ⅲ区 SD222	珠洲 鉢	300	(47)				口1	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ		灰褐	灰褐			T34
305	Ⅲ区 SD222	珠洲 片口鉢	290	(107)				口2	△	○			ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ		灰	灰			T29
306	Ⅲ区 SD222	珠洲 片口鉢	268	117		110		口1	○	△	△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切痕	淡褐灰	灰			T30
307	Ⅲ区 SD222	珠洲 鉢		(73)		166		底5	△					ナデ		ナデ		淡褐	淡褐		内外面及び断面にスス付着	T28
308	Ⅲ区 SD222	鞴の羽口	内径102	厚25																		HK43
309	Ⅲ区 SD222	鞴の羽口	内径90	厚25																		HK44
310	Ⅲ区 SD222	有孔土玉		長32	厚30													淡褐			孔径5㎜ 重さ25g	HK90
311	Ⅲ区 SD222	土錘		長41	厚36													淡桃灰			孔径12㎜ 重さ42g	EE27
312	Ⅲ区 SD222	土錘		長69	厚44													淡黄灰			孔径10㎜ 重さ90g	EE22
313	Ⅲ区 SD222	土錘		長57	厚38													淡桃灰			孔径13㎜ 重さ60g	EE25
314	Ⅲ区 SD222	土錘		長56	厚38													淡黄橙褐			孔径12㎜ 重さ60g	EE23
315	Ⅲ区 SD222	土錘		長53	厚32													淡橙褐			孔径14㎜ 重さ43g	EE24
316	Ⅲ区 SD222	土錘		長52	厚13													明黄灰			孔径3㎜ 重さ7g	EE34
317	Ⅲ区 SD222	土錘		長47	厚14													淡褐			孔径5㎜ 重さ8g	Q2
318	Ⅲ区 SD222	土錘		長47	厚14													淡橙白			孔径4㎜ 重さ7g	Q1
319	Ⅲ区 SD222	土錘		長53	厚16													暗灰			孔径6㎜ 重さ8g	EE35
320	Ⅲ区 SD222	土錘		長43	厚15													黄灰			孔径6㎜ 重さ8g	EE21
321	Ⅲ区 SD222	土錘		長49	厚18													淡灰黄			孔径6㎜ 重さ13g	EE26
322	Ⅲ区 SD222	土錘		長56	厚21													暗灰			孔径4㎜ 重さ12g	EE33
323	Ⅲ区 SD222	土錘		長53	厚30													赤褐			孔径9㎜ 重さ33g	EE20
324	Ⅲ区 SD222	土錘		長51	厚21													淡桃灰			孔径5㎜ 重さ16g	EE32
325	Ⅲ区 SD222	土錘		長50	厚22													淡黄灰			孔径8㎜ 重さ23g	EE18
326	Ⅲ区 SD222	土錘		長46	厚26													淡灰黄			孔径6㎜ 重さ20g	EE28
327	Ⅲ区 SD222	土錘		長41	厚23													淡灰白			孔径10㎜ 重さ15g	EE29
328	Ⅲ区 SD222	土錘		長52	厚17													淡黄灰			孔径6㎜ 重さ14g	EE30
329	Ⅲ区 SD222	土錘		長67	厚17													淡褐			孔径5㎜ 重さ15g	Q3
330	Ⅲ区 SD222	土錘		長74	厚21													淡黄灰			孔径5㎜ 重さ28g	EE31
331	Ⅲ区 SD222	土錘		長72	厚17													淡黄灰			孔径4㎜ 重さ17g	EE19
332	Ⅲ区 SD222	土錘		長50	厚18													淡灰褐			孔径5㎜ 重さ14g	HK89
333	Ⅲ区 SD222	土錘		長72	厚18													暗褐			孔径6㎜ 重さ15g	Q4
342	Ⅱ区 SD240	須恵器 有台坏	110	45		73		口10	○	○	△	○	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ	青灰	青灰	高松	袋文字「人」	S17
343	Ⅱ区 P20	須恵器 無台坏	118	34		86		口9	○		△	○	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ	灰白	灰白		袋文字「人」 1箇所打欠	TM280
344	Ⅱ区 SD222	須恵器 有台坏	120	36		85		口9	△		△	○	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ	灰	灰白		袋文字「人」 1箇所打欠	TM281
345	Ⅱ区 SD222	須恵器 蓋	26	34		186		口9	○		○	○	ロクロナデ	天井ヘラケズり	ロクロナデ	ロクロナデ		灰	灰		袋文字「人」	TM35
346	Ⅱ区 SD240	須恵器 無台坏	160	24		130		口7	△		△	○	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ	灰	灰		袋文字「人」 1箇所打欠	TM216
347	Ⅱ区 SD240	須恵器 蓋	25	23		132		口8	△		○	○	ロクロナデ	天井ヘラケズり	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ	淡灰	淡灰	末	袋文字「人」	E28
348	Ⅱ区 SD303	須恵器 蓋	22	20		132		口7	○		○	○	ロクロナデ	天井ヘラケズり	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ	灰	灰	末	袋文字「人」	E30
349	Ⅱ区 SD240	須恵器 無台坏	119	29		76		口7	△		△	△	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ	淡灰	淡灰	末	袋文字「人」	TM53
350	Ⅱ区 SD240	須恵器 無台坏	124	33		98		口9	○	△	△	○	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ	淡灰	淡灰		袋文字「人」灯心油痕 1箇所打欠	FJ10
351	Ⅱ区 SD240	須恵器 無台坏	115	34		76		口7	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ ヘラ起こし痕	淡灰	淡灰	高松	袋文字「人」	TM39
352	Ⅱ区 SD240	須恵器 無台坏	116	39		80		口10	○	○	○	○	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ ヘラ記号	淡灰	淡灰	高松	袋文字「人」	TM40
353	Ⅱ区 SD240	須恵器 無台坏		(19)		80			△	○	△	△		ロクロナデ			ヘラ切後ナデ	淡灰	淡灰	高松	袋文字「人」	TM44
354	Ⅱ区 SD240	須恵器 無台坏	128	34		80		口10	○	○	◎	○	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ	灰	灰	高松	袋文字「人」	TM45

H15年度畝田・寺中遺跡出土遺物観察表

番号	遺構	器種	法量					遺存	胎土				調整					色調		産地	備考	実測番号
			口径	器高	胴径	底径	頸径	/12	砂	骨	礫	赤	口縁外面	胴部外面	口縁内面	胴部内面	底部外面	外面	内面			
355	Ⅱ区 SD240	須恵器 無台坏	120	28		86		口 8	◎		◎		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ ヘラ起こし痕	淡灰	淡灰	高松	袋文字「人」	TM41
356	Ⅱ区 SD240	須恵器 無台坏	128	32		80		口 2	△	△	△	△	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ	淡灰	淡灰	末	袋文字「人」	TM54
357	Ⅱ区 SD240	須恵器 無台坏	116	39		80		口10	○		○		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ	淡灰	淡灰	高松	袋文字「人」	TM46
358	Ⅱ区 SD240	須恵器 無台坏	120	39		82		口 7	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ	淡灰	淡灰	高松	袋文字「人」	TM42
359	Ⅱ区 SD240	須恵器 無台坏	122	34		86		口 5	○	○	○	△	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ	淡灰	淡灰	高松	袋文字「人」	TM50
360	Ⅱ区 SD240	須恵器 無台坏	111	32		78		口 7	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ ヘラ起こし痕	淡白灰	淡白灰	高松	袋文字「人」	TM38
361	Ⅱ区 SD240	須恵器 無台坏	120	39		90		口 7	○		○	○	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ	淡灰	淡灰	末	袋文字「人」灯心油痕 1箇所打欠	TM52
362	Ⅱ区 SD240	須恵器 無台坏	126	32		90		口 6	○		○	△	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ	淡灰	淡灰	末	袋文字「人」1箇所打欠	TM51
363	Ⅱ区 SD240	須恵器 無台坏	130	34		94		口 7	○	○	○	△	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ	淡灰	淡灰	高松	袋文字「人」	TM43
364	Ⅱ区 SD240	須恵器 無台坏	118	34		80		口 3	△	○	△	○	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ	淡灰	淡灰	高松	袋文字「人」	TM47
365	Ⅱ区 SD240	須恵器 有台坏	120	37		88		口 7	○			○	ロクロナデ	天井ヘラケズり	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ	暗灰	暗灰	末	袋文字「人」	E22
366	Ⅱ区 SD240	須恵器 有台坏	118	48		76		口10	○	○	△	△	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ	灰	灰	高松	袋文字「人」	S19
367	Ⅱ区 SD240	須恵器 有台坏	116	40		74		口 5	△	○	○	○	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ	灰	淡灰	高松	袋文字「人」	S26
368	Ⅱ区 SD240	須恵器 有台坏	109	42		68		口12	○		△	○	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ	灰白	灰白		袋文字「人」	TM215
369	Ⅱ区 P20	須恵器 有台坏	122	48		76		口 8	○		△	○	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ	淡灰	淡灰		袋文字「大」	TM32
370	Ⅱ区 SD303	須恵器 無台坏	112	37		80		口 2	○		△	○	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ ヘラ記号	灰	灰	高松	墨書「井」	FJ 2
371	Ⅱ区 SD303	須恵器 有台坏	108	49		49		口 3	○			○	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ	灰	灰	高松	墨書「井」	FJ 1
372	Ⅰ区 包含層	須恵器 無台坏	120	40		85		口 9	○		△	○	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ		白灰	灰白		墨書「工」1箇所打欠	TM31
373	Ⅱ区 SD240	須恵器 無台坏	120	34		92			◎		◎	○	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ	灰	灰	高松	墨書「工」	S 3
374	Ⅱ区 SD240	須恵器 有台坏	114	45		72		口 1	△	○	○	○	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ	灰	淡灰	高松	袋文字「工」	S27
375	Ⅱ区 SD303	須恵器 無台坏	112	38		82			○		◎	○	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ ヘラ記号	灰	灰	高松	墨書「文」	S 6
376	Ⅱ区 SD240	須恵器 無台坏	122	35		84			○			○	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ	淡灰	淡灰	末	墨書「文」	S 5
377	Ⅱ区 SD303	須恵器 盤	163	20		130			○	○	○	○	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ	灰褐	灰褐	ー	墨書「文」	S 7
378	Ⅱ区 SD240	須恵器 無台坏	128	35		88			○	○		○	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ	淡灰	淡灰	高松	墨書「卅」	S15
379	Ⅱ区 SD240	須恵器 無台坏	118	34		82			○	○	△	○	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ	灰	灰	高松	墨書「卅」	S12
380	Ⅱ区 SD240	須恵器 無台坏	118	30		86			○	○		○	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ	灰	灰	高松	墨書「卅」	S14
381	Ⅱ区 SD240	須恵器 有台坏	108	37		70		口 2	△		△	○	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ	淡灰	淡灰		墨書「卅」	TM33
382	Ⅲ区 SD201	須恵器 無台坏	126	31		95		口 5	○		○	○	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ	灰	灰	高松	墨書「卅」	OH 7
383	Ⅱ区 SD240	須恵器 無台坏	123	39		84		口 7	○		△	○	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ	淡灰	淡灰		墨書「(不明)」	FJ 8
384	Ⅱ区 SD240	須恵器 有台坏	108	40		74		口 3	△		△	○	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ	灰	灰		墨書「津」	FJ 9
385	Ⅱ区 SD240	須恵器 有台坏	153	65		105		口 7	○	○		○	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ	灰	灰褐	高松	墨書「津」	E14
386	Ⅳ区 大河跡	須恵器 有台坏		(15)		123			△			△	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ	ヘラ切後ナデ 回転ヘラ切痕	淡灰	淡灰	ー	墨書「津」	OH 9
387	Ⅱ区 SD240	須恵器 蓋	27	39		176		口 6	△			△	ロクロナデ	天井ヘラケズり	ロクロナデ	ロクロナデ		淡灰	淡灰	高松	墨書「平」	E 7
388	Ⅱ区 SD240	須恵器 無台坏	130	32		90		口 4	△			○	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ	灰	灰	高松	墨書「平」	E 2
389	Ⅱ区 SD240	須恵器 無台坏	128	35		95		口 6	○		△	○	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ	灰白	灰白		墨書「平」	TM214
390	Ⅱ区 SD244	須恵器 無台坏	118	32		82		口 1	△		△	○	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ	淡灰	淡灰		墨書「平」	TM37
391	Ⅱ区 SD240	須恵器 無台坏	118	33		92		口12	○			○	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ	淡灰	淡灰	末	墨書「平」灯心油痕全周	E 5
392	Ⅱ区 SD240	須恵器 無台坏										○		ロクロナデ		ロクロナデ	ヘラ切後ナデ	淡灰	淡灰	ー	墨書「平」	E 3
393	Ⅱ区 SD240	須恵器 無台坏	124	32		84		口11	△			○	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ	灰	灰	高松	墨書「平」内外面墨痕	E 1
394	Ⅱ区 SD244	須恵器 蓋	41	47		192		口 2	○			○	ロクロナデ	天井ヘラケズり	ロクロナデ	ロクロナデ		灰	灰		墨書「五戸」	TM36
395	Ⅱ区 SD244	須恵器 蓋	45						◎			○	ロクロナデ	天井ヘラケズり	ロクロナデ	ロクロナデ		暗灰褐	暗灰褐		墨書「五戸」	E63
396	Ⅱ区 SD240	須恵器 無台坏	114	47		91		口11	◎		△	○	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ	緑灰	青灰		墨書「遊名安ヵ」1箇所打欠	TM218
397	Ⅱ区 SD240	須恵器 無台坏							△		△	○		ロクロナデ			ヘラ切後ナデ	灰	灰	高松	墨書「大刀自」内面墨痕	E 8
398	Ⅱ区 SD240	須恵器 無台坏				96			○		△	○	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ	灰	灰		墨書「□刀女」	FJ18
399	Ⅱ区 SD303	須恵器 無台坏	117	35		78		口 8	○	○	○	○	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ	灰褐	淡灰	高松	墨書「主□　秋女」	OH 1
400	Ⅱ区 SD303	須恵器 無台坏	124	36		86			○	○	○	○	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ	灰	灰	高松	墨書「古(右ヵ)人」	S 9
401	Ⅱ区 SD240	須恵器 無台坏	116	38		84			○	○	△	○	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ	灰	灰	高松	墨書「古(右ヵ)人」	S10

H15年度畝田・寺中遺跡出土遺物観察表

番号	遺構	器種	法量					遺存/12	胎土				調整					色調		産地	備考	実測番号
			口径	器高	胴径	底径	頸径		砂	骨	礫	赤	口縁外面	胴部外面	口縁内面	胴部内面	底部外面	外面	内面			
402	Ⅲ区 SD201	須恵器 無台坏	128	31		102		口3	△		○	○	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ	淡褐	淡褐	高松	墨書「荒田」灯心油痕	OH 3
403	Ⅰ区 SD220	須恵器 無台坏				90			○			○	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ	淡灰	淡灰		墨書「徳」	TM34
404	Ⅲ区 SD201	須恵器 無台坏		(21)		80			○	○	○	○		ロクロナデ			ヘラ切後ナデ	灰	灰	高松	墨書「得」	OH11
405	Ⅱ区 SD240	須恵器 有台坏	106	42		76		口9	△	○	△	○	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ ヘラ記号	灰	灰	高松	墨書「人」火ぶくれ	S20
406	Ⅲ区 SD201	須恵器 有台坏	102	36		78		口9	○			○	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ	灰	灰	末	墨書「大」	OH10
407	Ⅲ区 SD201	須恵器 無台坏	134	35		100		口10	△		◎	○	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ	灰	灰	高松	墨書「中」内外面墨痕	OH 5
408	Ⅱ区 SD240	須恵器 無台坏	120	36		94		口11	◎	○	○	○	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ	淡灰	淡灰	高松	墨書「女」1箇所打欠	TM48
409	Ⅱ区 SD240	須恵器 無台坏	120	33		94		口3	△	△	△	○	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ	淡灰	淡灰		墨書「公」	FJ 5
410	Ⅲ区 SD201	須恵器 無台坏	141	35		105		口6	◎		◎	○	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ	灰	灰	南加賀	墨書「束」	OH 4
411	Ⅱ区 SD240	須恵器 有台坏	113	34		86		口10	△	△	△	○	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ	暗灰	暗灰		墨書「(不明)」1箇所打欠	FJ15
412	Ⅱ区 SD240	須恵器 無台坏				84			○		△	○	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ	灰褐	灰褐		墨書「(不明)」	FJ12
413	Ⅲ区 SD201	須恵器 有台坏		(23)		65						○		ロクロナデ			ヘラ切後ナデ	灰	灰	ー	墨書「□」	OH12
414	Ⅲ区 SD201	須恵器 有台坏	148	37		109		口5	○		○	○	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ	灰	灰	南加賀	墨書「□」	OH 6
415	Ⅲ区 SD201	須恵器 無台坏		(34)		90			○	○	○	○	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ	灰	灰	末	墨書「□」	OH13
416	Ⅲ区 SD201	須恵器 無台坏	128	36		84		口3	△		△		ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ヘラ切後ナデ	灰白	灰白		口縁部重ね焼き痕 底部外面墨書有	SH30
417	Ⅲ区 SD201	須恵器 無台坏	118	36		85		口12	△	○	○	○	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ	灰	灰	高松	墨書「(不明)」	OH 8
418	Ⅱ区 SD240	須恵器 無台坏	143	34		110		口12	△		△	○	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ	暗灰	暗灰褐		墨書「(不明)」	FJ16
419	Ⅱ区 SD240	須恵器 無台坏	130	35		90		口7	○		△	○	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切後ナデ	灰白	灰白		側面に漆痕 1箇所打欠	E197
420	Ⅱ区 SD240	須恵器 蓋	27	24		126		口12	△			○	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ		灰	灰		墨書「(不明)」	TM217
421	Ⅲ区 SD201	須恵器 蓋	160	30		ツマミ 32		口5	△				ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ		灰白	灰白		天井部ヘラ切後ナデ墨書「(不明)」	T69

H15年度畝田・寺中遺跡出土石製品観察表

番号	遺構	色調	法量(mm)			重量(g)	名称	備考	実測番号
			a	b	c				
581	Ⅲ区 SE208	淡灰褐	68	48	41	165	敲石	変質安山岩	SH 9
582	Ⅲ区 SK208	白褐	50	40	40	100	砥石	流紋岩	HK11
583	Ⅲ区 SK211	淡灰褐	92	60	27	250	砥石	砂岩	HK18
584	Ⅲ区 SK226	暗緑	14	8	8	1		変質流紋岩	T21
585	Ⅲ区 SK226	淡灰褐	70	67	40	33	軽石	軽石	T14
586	Ⅲ区 SD201	褐	93	45	25	175	石錘	はんれい岩	N61
587	Ⅲ区 SD201	暗灰	80	86	33	330	磨石	玄武岩	N64
588	Ⅲ区 SD201	暗灰	90	59	35	260	砥石	玄武岩	N63
589	Ⅲ区 SD201	淡灰褐	88	34	33	150	砥石	ひん岩 敲石に転用か	N70
590	Ⅲ区 SD201	褐	100	100	50	920	砥石	輝石安山岩	N67
591	Ⅲ区 SD201	灰褐	74	38	24	130	砥石	砂岩	N62
592	Ⅲ区 SD201	灰	190	70	51	1050	敲石	凝灰岩 砥石に転用か	N68
593	Ⅲ区 SD201	暗灰褐	193	74	48	1800	すり石か	凝灰岩	N69
594	Ⅲ区 SD201	黒褐	93	62	42	390	敲石	凝灰岩	N66
595	Ⅲ区 SD201	黒緑	75	49	31	120	石核	蛇紋岩 SD244と接合	N72
596	Ⅲ区 SD201	灰	136	90	30	550	打製石斧	デイサイト質凝灰岩	N73
597	Ⅲ区 SD201	灰褐	83	58	24	240	磨製石斧	砂岩 敲石に転用か	N65
598	Ⅲ区 SD201	暗灰褐	87	78	50	510	石錘	凝灰岩	N71
599	Ⅲ区 SD201	灰褐	36	35	16	22	紡錘車	滑石	Q110
600	Ⅲ区 SD222	淡緑灰	59	17	20	23	腕輪か	変質凝灰岩	EE71
601	Ⅲ区 SD222	淡緑灰	67	54	21	74	不明	変質凝灰岩	EE72
602	Ⅲ区 SD222	淡灰	84	63	56	400	凹石	砂岩	HK34
603	Ⅲ区 SD222	灰	127	59	39	355	敲石	ひん岩	HK32
604	Ⅲ区 SD222	暗褐	145	135	27	900	台石か	デイサイト 片面のみ火を受けた跡有	HK35
605	Ⅲ区 SD222	灰	76	69	29	280	砥石	砂岩	HK30
606	Ⅲ区 SD222	淡橙褐	54	52	26	80	砥石	流紋岩	HK31
607	Ⅲ区 SD222	淡橙褐	34	41	18	50	砥石	流紋岩	HK33
608	Ⅲ区 SD222	灰緑	44	60	13	43	剥片	変質流紋岩	HK40
609	Ⅲ区 SD222	淡緑白	32	38	14	23	石核	変質流紋岩	HK42
610	Ⅲ区 SD222	淡緑白	34	37	30	31	石核	変質流紋岩	HK41
611	Ⅲ区 SD222	濃緑	55	64	30	115	石核	変質流紋岩	HK38
612	Ⅲ区 SD222	灰	98	152	60	730	砥石	砂岩	HK36
613	Ⅲ区 SD222	暗灰	197	103	22	555	打製石斧	変質安山岩	HK29
614	Ⅲ区 SD222	灰	(107)	80	40	570	打製石斧	変質安山岩	HK37
615	Ⅲ区 SD222	白灰	75	57	56	280	石錘	デイサイト	HK28
616	Ⅲ区 SD222	淡褐白	202	103	63	1950	すり石	礫質凝灰岩	HK39

H15年度畝田・寺中遺跡出土金属製品観察表

番号	遺構	器種	法量(mm)			重量(g)	名称	備考	実測番号
		材質	a	b	c				
94	Ⅲ区 SK226	金属	32	39	33	20	鉱滓		T22
334	Ⅲ区 SD222	金属	246	22	4	80	刀子		EE49
335	Ⅲ区 SD222	金属	126	12	2	26	刀子		FM 2
336	Ⅲ区 SD222	金属	126	17	5	10	握り鋏		A 1
337	Ⅲ区 SD222	金属	235	24	5	157	鏨か		EE48
338	Ⅲ区 SD222	金属	(117)	6	4	9	釘か	端部尖らせてある	FM 3
339	Ⅲ区 SD222	金属	232	7	6	30	火箸	A 3と対か	A 2
340	Ⅲ区 SD222	金属	232	7	6	27	火箸	A 2と対か	A 3

H15年度畝田・寺中遺跡出土品観察表

番号	遺構	器種	法量(mm)			重量(g)	名称	備考	実測番号
		材質	a	b	c				
49	Ⅲ区 SE206	角	長138	幅 10	厚 5	10	ヤス	かえし1箇所	FM 5
341	Ⅲ区 SD222	角	438	34	33		日本鹿の角		A11

H15年度畝田・寺中遺跡出土木製品観察表

番号	遺構	製品	法量(mm)			名称	備　考	実測番号
			a	b	c			
422	Ⅲ区 SE203	板材	口304	底327	高367	桶	井戸を支える材①～⑥ 厚　さ42mm F69は底板か	F68
423	Ⅲ区 SE203	板材	254	237	10	桶底板	井戸を支える材⑪～⑬ F68の底板か	F69
424	Ⅲ区 SE203	板材	(726)	140	19	板状	井戸を支える材⑭ 両端に井戸枠を支える他の材が乗っていた痕跡あり	EE110
425	Ⅲ区 SE203	板材	(770)	124	20	板状	井戸を支える材⑮ 両端に井戸枠を支える他の材が乗っていた痕跡あり	EE109
426	Ⅲ区 SE203	板材	(980)	146	14	板状	井戸枠を支える材⑲	EE111
427	Ⅲ区 SE203	板材	(930)	201	19	板状	井戸を支える材⑰ 穴９カ所有	EE108
428	Ⅲ区 SE203	板材		底718	高(179) 厚59	井戸枠	桶転用 内面に底板を支えたと思われる 穴が６カ所有 穴a:縦19横33奥行21 穴b:縦17横27奥行17	EE112
429	Ⅲ区 SE203	板材	643	275	18	桶底板か	井戸を支える材⑱	HK73
430	Ⅲ区 SE203	板材	(250)	67	23	板状	井戸枠を支える材⑨	SH64
431	Ⅲ区 SE203	板材	(248)	59	17	板状	井戸枠を支える材⑩	SH65
432	Ⅲ区 SE203	棒材	(319)	9	8	棒状		SH67
433	Ⅲ区 SE203	棒材	(66)	7	5	棒状		SH66
434	Ⅲ区 SE203	棒材	(1174)	75	39	棒状	井戸枠を支える材㉑	T114
435	Ⅲ区 SE203	棒材	(1376)	81	71	棒状	井戸枠を支える材⑳	T115
436	Ⅲ区 SE203	棒材	(903)	58	32	棒状	井戸枠を支える材⑧	HK75
437	Ⅲ区 SE203	棒材	(776)	85		棒状	井戸枠を支える材⑦	SH97
438	Ⅲ区 SE203	棒材	(1620)	75	70	棒状	井戸枠を支える材㉒	HK74
439	Ⅲ区 SE204	柱材	(715)	263	272	柱根か		HK72
440	Ⅲ区 SE206	棒材	(453)	24	12	棒状	両端加工有	T102
441	Ⅲ区 SE206	板材	91	(24)	(16)	棒状	端部加工か	SH98
442	Ⅲ区 SE206	板材	(101)	23	9	板状		T112
443	Ⅲ区 SE206	板材	(151)	66	7	板状		T110
444	Ⅲ区 SE206	板材	(125)	59	9	板状	農具か	EE126
445	Ⅲ区 SE206	板材	(103)	31	7	板状		T113
446	Ⅲ区 SE206	板材	(174)	20	7	板状	端部加工	T108
447	Ⅲ区 SE206	板材	(114)	27	8	板状	穴２カ所有	T111
448	Ⅲ区 SE206	板材	(623)	79	22	板状		T109
449	Ⅲ区 SE206	板材	(610)	125	29	板状	井戸枠① 中央に穴１カ所有る他、留穴１カ所有、その中に留木・桜皮残存	T107
450	Ⅲ区 SE206	板材	(1211)	273	31	井戸枠	井戸枠② 留穴11カ所中留木３カ所、桜皮３カ所残存	T100
451	Ⅲ区 SE206	板材	(1149)	274	34	井戸枠	井戸枠③ 留穴７カ所中留木５カ所、桜皮２カ所残存	T101
452	Ⅲ区 SE206	板材	(1057)	275	28	井戸枠	井戸枠⑤ 留穴４カ所中留木４カ所残存	T103
453	Ⅲ区 SE206	板材	(1069)	280	27	井戸枠	井戸枠④ 留穴５カ所中留木２カ所残存	T104
454	Ⅲ区 SE206	板材	(991)	128	28	井戸枠	井戸枠⑦	T105
455	Ⅲ区 SE206	板材	(1017)	114	27	井戸枠	井戸枠⑨	T106
456	Ⅲ区 SE206	板材	(660)	99	19	板状	下井戸枠	F62
457	Ⅲ区 SE206	板材	(618)	197	36	板状	下井戸枠 穴１カ所有	F61
458	Ⅲ区 SE206	板材	(645)	182	31	板状	下井戸枠 穴２カ所有るが、１カ所は節穴か	F63
459	Ⅲ区 SE206	板材	(602)	196	41	井戸枠	下井戸枠	F66
460	Ⅲ区 SE206	板材	(516)	153	20	井戸枠	下井戸枠 底	F67
461	Ⅲ区 SE206	板材	(817)	447	29	井戸枠	下井戸枠	F60
462	Ⅲ区 SE206	板材	(804)	86	21	井戸枠	下井戸枠	F65
463	Ⅲ区 SE206	板材	(859)	72	23	井戸枠	下井戸枠	F64
464	Ⅲ区 SE201	棒材	(458)	18	14	棒状	端部尖らせてある。	SH63

番号	遺構	製品	法量(mm)			名称	備　考	実測番号
			a	b	c			
465	Ⅲ区 SE201	棒材	(140)	10	7	棒状	端部尖らせてある 焦げ跡有	SH68
466	Ⅲ区 SE208	板材	(327)	23	10	板状		HK84
467	Ⅲ区 SE208	板材	(239)	22	10	板状	H84と同じものか	HK85
468	Ⅲ区 SE208	板材	471	26	12	板状		HK81
469	Ⅲ区 SE208	板材	(670)	180	25	井戸枠の一部か		F75
470	Ⅲ区 SE208	板材	(76)	(57)	14	板状	容器の一部か	HK83
471	Ⅲ区 SE208	棒材	(512)	71	36	部材	端部から中央に焦げ有	HK80
472	Ⅲ区 SE208	板材	(170)	23	17	棒状		HK82
473	Ⅲ区 SE208	棒材	(105)	14	6	棒状	EE129と同じものか	EE128
474	Ⅲ区 SE208	棒材	(191)	17	11	棒状		EE130
475	Ⅲ区 SE208	棒材	(127)	12	8	棒状	EE128と同じものか	EE129
476	Ⅲ区 SK204		160	128	12	舟形		EE138
477	Ⅲ区 SD201		78	27	20	舟形か		EE124
478	Ⅲ区 SD201		(255)	43	27	舟形か		HK79
479	Ⅲ区 SD201	板材	164	23	6	卒塔婆	両端部加工 墨書「□」	EE131
480	Ⅲ区 SD201	板材	174	14	3	板状	両端部加工	EE135
481	Ⅲ区 SD201	板材	(71)	25	3	板状	孔径６mm	EE136
482	Ⅲ区 SD201	棒材	(190)	6	3	箸か		SH55
483	Ⅲ区 SD201	棒材	414	18	13	箸か	端部尖らせてある	SH61
484	Ⅲ区 SD201	板材	141	138	3	曲物蓋か底板	木釘穴４箇所残存	EE133
485	Ⅲ区 SD201	板材	184	170	9	曲物蓋か底板	木釘穴３箇所残存	EE137
486	Ⅲ区 SD201	板材	240	70	9	桶等の蓋	直径286mm	EE127
487	Ⅲ区 SD201	板材	270	25	7	板状		EE119
488	Ⅲ区 SD201	板材	271	42	5	板状		T131
489	Ⅲ区 SD201	板材	(185)	28	5	板状		SH56
490	Ⅲ区 SD201	板材	(476)	27	6	板状		SH52
491	Ⅲ区 SD201	棒材	(445)	23	17	棒状		SH53
492	Ⅲ区 SD201	棒材	(325)	200	13	棒状		SH57
493	Ⅲ区 SD201	棒材	(368)	35	23	棒状	端部に直径４mm穴１カ所有	SH58
494	Ⅲ区 SD201	棒材	(113)	8	9	棒状	端部加工痕、端部中央に直径３mm穴１カ所有	SH54
495	Ⅲ区 SD201	板材	(81)	13	3	不明	長径４mm、短径２mmの穴１カ所有	SH62
496	Ⅲ区 SD201	板材	(83)	37	8	板状	穴１カ所有	EE123
497	Ⅲ区 SD201		(188)	122	93	杭か	端部を尖らせてある	SH102
498	Ⅲ区 SD201	棒材	94	27	19	不明	両端部加工有	T120
499	Ⅲ区 SD201	板材	(172)	45	37	棒状		SH110
500	Ⅲ区 SD201	板材	(141)	55	52	杭	端部を尖らせてある	EE125
501	Ⅲ区 SD201	棒材	(701)		45	不明	端部・体部に加工痕あり	SH51
502	Ⅲ区 SD201	棒材	(394)	63	50	杭	端部を尖らせてある	SH108
503	Ⅲ区 SD201	棒材	(316)	71	67	杭	端部を尖らせてある	T132
504	Ⅲ区 SD202	板材	(90)	84	15	板状		HK60
505	Ⅲ区 SD222	皿	口220	底196	高16	木皿		EE139
506	Ⅲ区 SD222	椀	口160	底74	高45mm	漆器椀	内外面黒漆	T122
507	Ⅲ区 SD222	杯	口93			杯	内外面黒漆	F74
508	Ⅲ区 SD222	皿	口144	底80	高44mm	漆器皿	内外面黒漆に赤漆で模様	F76
509	Ⅲ区 SD222	板材	(165)	16	6	曲物か	２枚重なっている	SH88
510	Ⅲ区 SD222	板材	63	168	7	箱か	釘穴６カ所有 うち１カ所木釘残存	HK45
511	Ⅲ区 SD222	棒材	(237)	7	5	箸か	焦げ跡有	HK70
512	Ⅲ区 SD222	棒材	238	6	5	箸		SH81
513	Ⅲ区 SD222	板材	(211)	8	6	箸か		HK71

H15年度畝田・寺中遺跡出土木製品観察表

番号	遺構	製品	法量(mm)			名称	備　考	実測番号
			a	b	c			
514	Ⅲ区 SD222	棒材	(149)	5	5	箸		SH77
515	Ⅲ区 SD222	棒材	(163)	6	5	箸		SH74
516	Ⅲ区 SD222	棒材	(135)	5	4	箸		SH89
517	Ⅲ区 SD222	棒材	(109)	6	5	箸		SH75
518	Ⅲ区 SD222	棒材	(105)	5	3	箸		HK47
519	Ⅲ区 SD222	棒材	(90)	4	3	箸		HK48
520	Ⅲ区 SD222	棒材	(108)	5	3	箸		SH76
521	Ⅲ区 SD222	板材	径330		7	桶の底板か蓋		HK76
522	Ⅲ区 SD222	板材	145	(29)	4	桶の底板か蓋		HK66
523	Ⅲ区 SD222	板材	246	23	5	不明	加工痕有	SH100
524	Ⅲ区 SD222	下駄	236	(55)	35	下駄(右足用)	鼻緒の穴径11mmで2カ所残存 蓮歯下駄	HK77
525	Ⅲ区 SD222	傘	52	46		傘	孔径22mm 黒漆	EE140
526	Ⅲ区 SD222	板材	116	22	8	刀子の柄	穴10カ所中、4カ所が貫通しうち1カ所に木釘残存 刀子の茎部分跡(長60mm幅9mm)が内面に残る	EE115
527	Ⅲ区 SD222		(117)	24	13	舟形か	穴2カ所有	F71
528	Ⅲ区 SD222	板材	200	24	6	板状	端部に加工あり	F70
529	Ⅲ区 SD222	板材	191	17	8	棒状	両端部加工有	EE114
530	Ⅲ区 SD222	板材	151	26	5	不明	両側面に切込有 穴1カ所有	SH94
531	Ⅲ区 SD222	板材	(225)	18	5	板状	端部尖らせてある	SH80
532	Ⅲ区 SD222	板材	(188)	11	4	木札か	端部尖らせてある	EE132
533	Ⅲ区 SD222	棒材	(212)	17	5.5	板状	端部を細く加工	EE122
534	Ⅲ区 SD222	板材	(205)	17	5	不明	端部を尖らせてある 刀子形か？	SH93
535	Ⅲ区 SD222	板材	(152)	11	2	不明		SH73
536	Ⅲ区 SD222	板材	(148)	23	6	板状	端部を尖らせてある	SH103
537	Ⅲ区 SD222	板材	(148)	11	4	木札か	端部を尖らせてある	EE134
538	Ⅲ区 SD222	板材	(147)	25	10	板状	端部を尖らせてある	HK53
539	Ⅲ区 SD222	棒材	(135)	20	7	棒状		HK63
540	Ⅲ区 SD222	板材	(107)	20	8	板状		HK68
541	Ⅲ区 SD222	板材	134	25	4	板状	両端部加工痕	SH79
542	Ⅲ区 SD222	板材	121	9	4	板状	両端部を細く加工	F72
543	Ⅲ区 SD222	棒材	(339)	35	8.0	板状		SH105
544	Ⅲ区 SD222	板材	(364)	21	4	板状	一部焦げ有	SH106
545	Ⅲ区 SD222	板材	(87)	25	4	板状		F73
546	Ⅲ区 SD222	板材	(136)	30	6	板状		SH91
547	Ⅲ区 SD222	板材	(516)	35	8	板状	板8	T116
548	Ⅲ区 SD222	板材	(252)	14	3	板状		HK50
549	Ⅲ区 SD222	板材	(223)	17	5	板状		HK51
550	Ⅲ区 SD222	板材	207	18	6	板状		HK56
551	Ⅲ区 SD222	板材	207	26	5	板状		HK49
552	Ⅲ区 SD222	板材	(79)	39	7	桶側板		HK59
553	Ⅲ区 SD222	板材	(56)	30	9	板状		EE118
554	Ⅲ区 SD222	板材	(89)	21	6	板状	端部加工痕	SH72
555	Ⅲ区 SD222	板材	(78)	14	2	板状		HK54
556	Ⅲ区 SD222	板材	(106)	19	5	板状		SH85
557	Ⅲ区 SD222	板材	347	(57)	3	折敷か	釘穴4カ所有	HK46
558	Ⅲ区 SD222	板材	480	50	10	板状	釘穴3カ所有 うち1カ所に木釘残存	SH69
559	Ⅲ区 SD222	板材	228	23	8	板状	端部を逆部位事情にカット 釘穴5カ所有 内1カ所に木釘残存	SH70

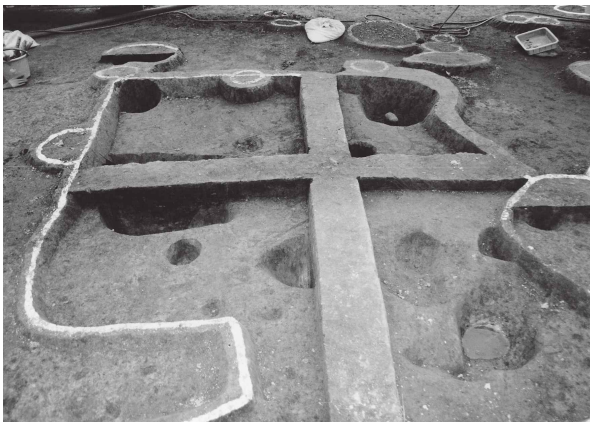
番号	遺構	製品	法量(mm)			名称	備　考	実測番号
			a	b	c			
560	Ⅲ区 SD222	板材	449	39	5	板状	釘穴2カ所有 NO.136	SH83
561	Ⅲ区 SD222	板材	258	63	5	板状	穴1カ所有	EE113
562	Ⅲ区 SD222	板材	(225)	52	6	板状		T126
563	Ⅲ区 SD222	板材	160	17	3	板状		HK57
564	Ⅲ区 SD222	板材	(33)	143	4	板状	釘穴1カ所有	SH87
565	Ⅲ区 SD222	板材	83	42	4.5	曲物の底板か蓋	穴2カ所有	T121
566	Ⅲ区 SD222	板材	(121)	26	5	板状	釘穴2カ所有	SH78
567	Ⅲ区 SD222	板材	206	23	6	板状		HK58
568	Ⅲ区 SD222	板材	323	52	7	板状	両面に焦げ跡有	SH90
569	Ⅲ区 SD222	板材	(328)	16	8	板状		HK69
570	Ⅲ区 SD222	板材	(280)	28	11	板状	端部加工有	T128
571	Ⅲ区 SD222	棒材	207	18	11	棒状	加工痕有	HK55
572	Ⅲ区 SD222	棒材	200	10	10	棒状		SH107
573	Ⅲ区 SD222	棒材	(232)	50	42	不明	端部を尖らせてある 穴1カ所有	SH71
574	Ⅲ区 SD222	棒材	(98)	18	10	板状	端部を尖らせてある 穴1カ所有	HK67
575	Ⅲ区 SD222	棒材	258	26	17	棒状		HK64
576	Ⅲ区 SD222	棒材	(285)	24	26	杭	端部を尖らせてある	SH104
577	Ⅲ区 SD222	棒材	(234)	22	20	棒状	端部を尖らせてある	T127
578	Ⅲ区 SD222	棒材	(186)	15	8	棒状	端部を尖らせてある	HK52
579	Ⅲ区 SD222	棒材	(172)	11	9	棒状	端部を細く加工	EE117
580	Ⅲ区 SD222	板材	(182)	34	10	板状	加工有	EE121

3区遠景（南西から）

3区遠景（南から）

3区　SD222（南から）

3区　SA512（手前から P211ーP212a-SK223）



3区　ST201

3区　SE201

3区　SE202

3区　SE203遠景（北から）

3区　SE203

3区　SE203

3区　SE203

3区　SE205

3区　SE208

3区　SK206

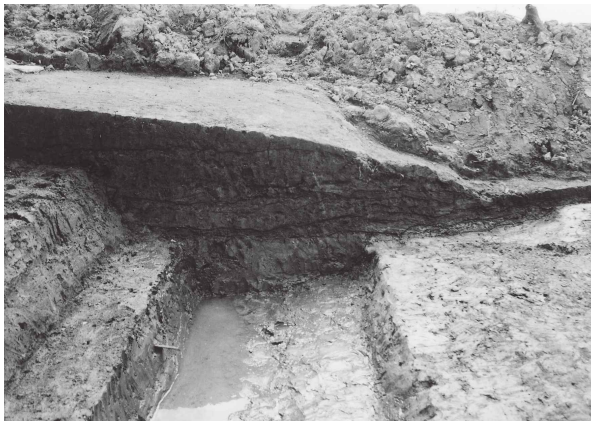
3区　SK208

3区　SK208出土土器

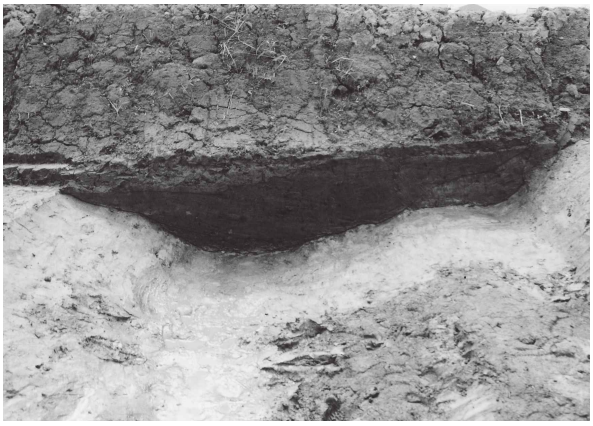
3区　SK211

3区　P202

3区　SX211

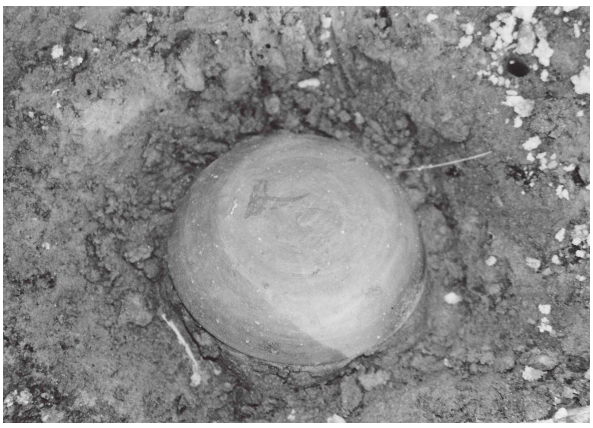


3区　SD201南壁



3区　SD222北壁

3区　SD222貝層



SD201出土墨書土器袋文字「人」

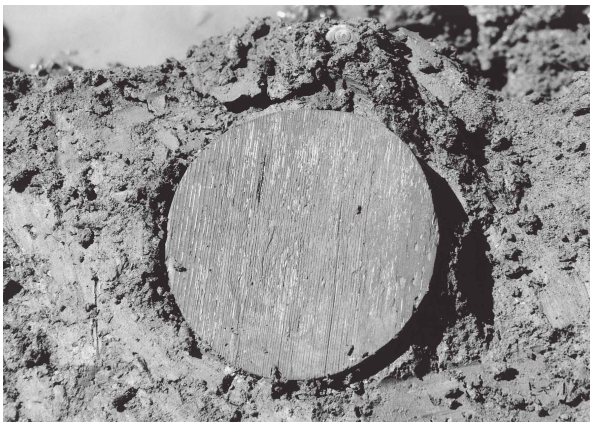
SD201出土墨書土器「中」

SD201出土墨書土器「工」

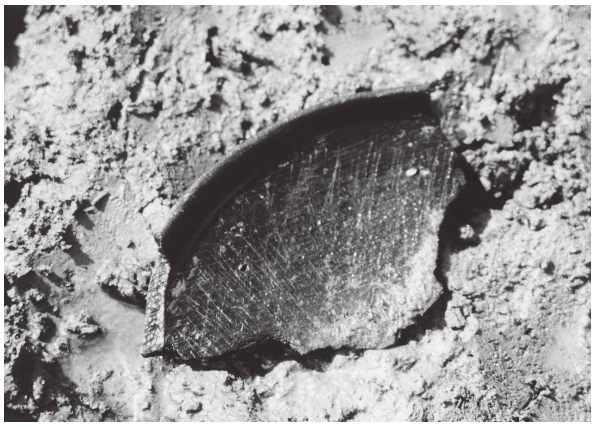
SD201出土墨書土器「□」

SD201出土須恵器

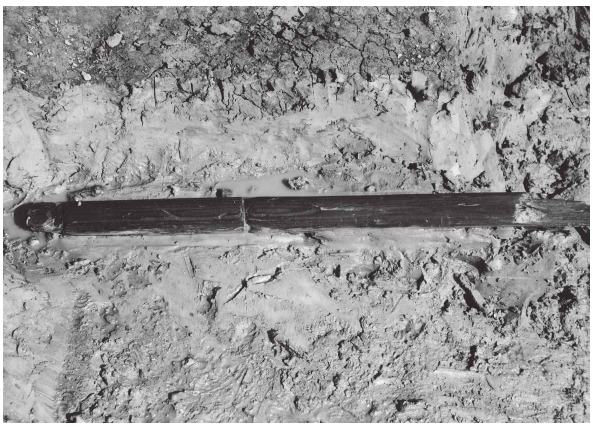
SD201出土木製品



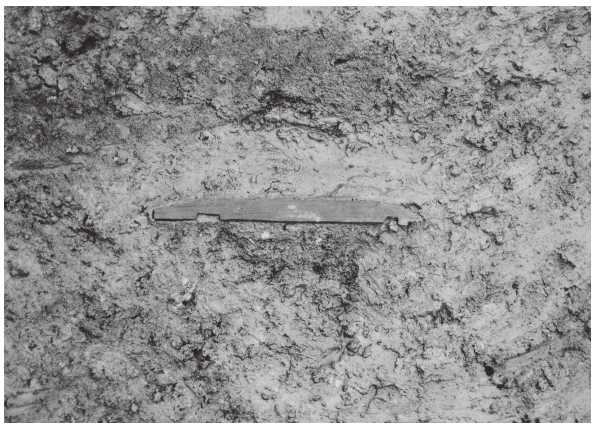
SD201出土木製品



SD201出土木製品



SD201出土木製品



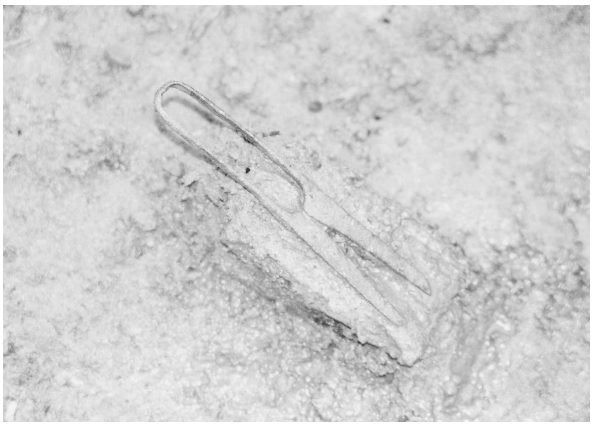
SD222出土木製品

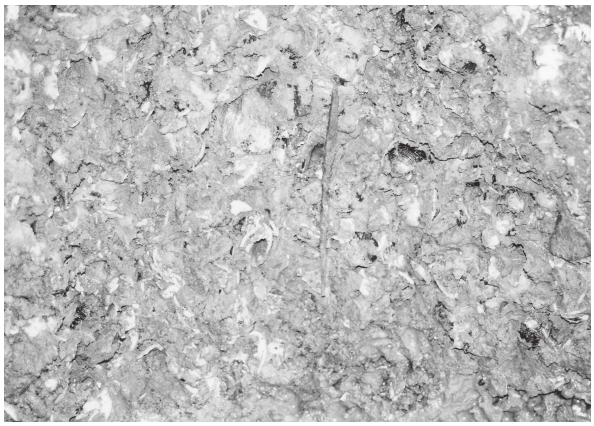
SD222出土木製品

SD222出土木製品

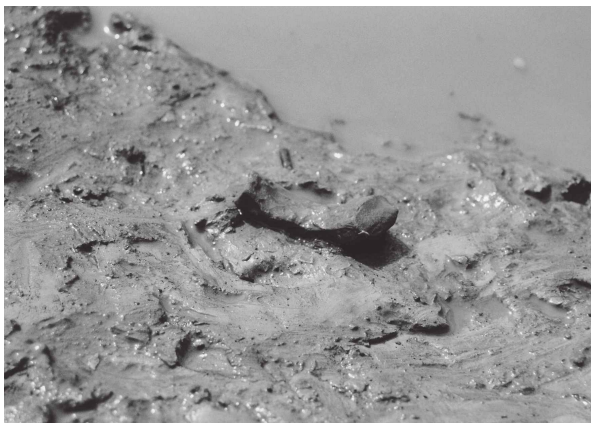
SD222出土柄付刀子

SD222出土刀子


SD222出土握り鋏


SD222出土火箸

SD222出土鹿角


SD222出土石製品

1

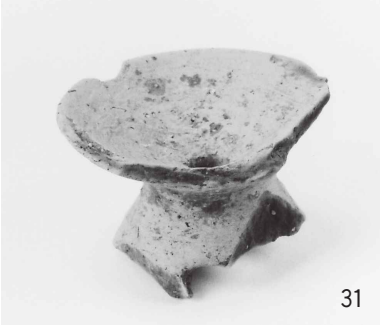
11

12

18

20

22


31

33

35

36

38

45

49

50

61

62

63

69

79

80

81

85

138～140他、未掲載遺物

141～145他、未掲載遺物

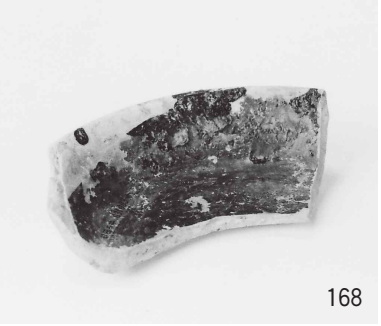
147

149

157

159

160


168

179

182

183

190

191

192

200

202

第20図 SD201出土土錘

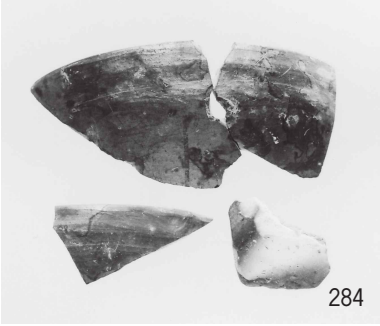
245

248

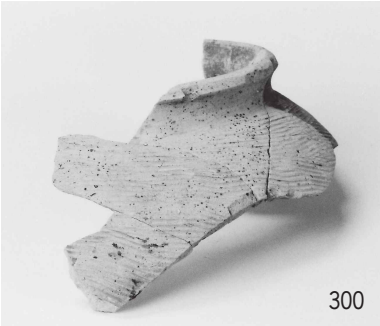
249

257

第22図 SD222出土土師器皿


284

第22・23図
SD222出土白磁


300

306

334

335

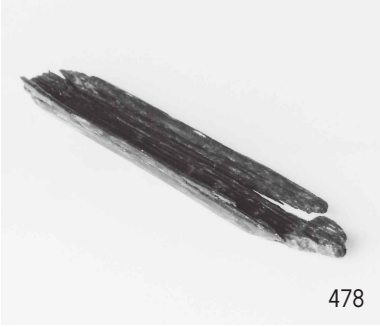
336

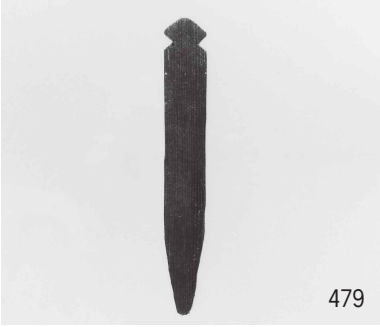
337

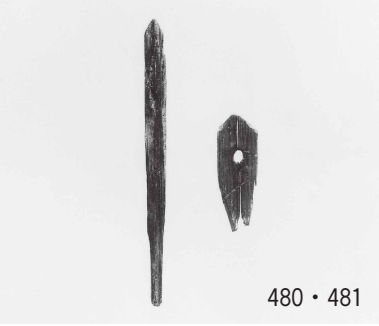
339・340

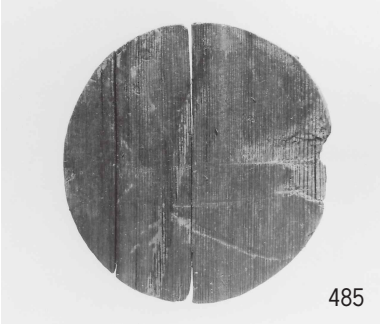
341

422


478


479


480・481


485

505

532

537

585

589

595

596

598

599

600

601

602

604

609～611

613

616

報告書抄録

ふりがな	いしかわけん　かなざわし　うねだ・じちゅういせきⅦ
書名	石川県　金沢市　畝田・寺中遺跡Ⅶ
副書名	－木曳野遺跡群Ⅴ－
シリーズ名	金沢市文化財紀要
シリーズ番号	279
編集者氏名	新出敬子
編集機関	金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）
所在地	〒920－0374　金沢市上安原南60番　℡（076）269－2451
発行年月日	平成24（2012）年３月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
畝田・寺中 （うねだ・じちゅう）	石川県（いしかわけん） 金沢市（かなざわし） 寺中町（じちゅうまち）、 畝田西４丁目（うねだにし４ちょうめ）	172014	県01499 市029	36° 36’ 33”	136° 42’ 33”	20020715～20020920 20030602～20031128 20040502～20041029	約13,760㎡	区画整理

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
畝田・寺中遺跡	集落跡	縄文･弥生･古墳･奈良･平安･鎌倉･室町	建物跡、井戸跡、土坑、溝	土師器 須恵器 陶磁器 木製品 石製品	古代河跡から墨書土器が多数出土した

要約	木曳野遺跡群Ⅳで報告した、古代河跡から出土した墨書土器の続きと３区の報告を行った。３区は主に古代の河跡の続きと中世の溝が中心で、その他、河以外では３区以西に広がると考えられる集落の外れと思われる遺構が見つかっている。

石川県　金沢市

畝田・寺中遺跡Ⅶ

－木曳野遺跡群Ⅴ－

『金沢市文化財紀要』279

平成24年３月30日発行

編集　金沢市

発行　金沢市埋蔵文化財センター

〒920-0374　石川県金沢市上安原南60番

TEL（076）269-2451　FAX（076）269-2452

印刷　前田印刷株式会社

〒920-3134　石川県金沢市金市町ホ34-1

TEL（076）274-2225